翔んで……► 40年
21世紀へ
Hi-Clear

笹氣幸助





仙台市バドミントン協會発行

協会創立40周年史

翔んで……►40年
21世紀へHi-Clear

仙台市バドミントン協会

もくじ

協会〝40周年史〟発刊について　笹氣　幸助　2
21世紀へ翔ぼう!!　菅原　保　3
40周年おめでとうそして一層の発展を!!　石井　亨　6
創立40周年を彌栄え!!　さらに50周年―21世紀へ　浅野喜代治　6
バドミントン聞き捨てご免!!　高橋辛六郎　8
マッカーサー元帥にトロフィーのおねだり　笹氣　幸助　9
創立40周年を祝う　湯村　治夫　11
財産・名誉・勇気を…　瀬戸　寅男　11
古い顔　水谷　政雄　13
台所は火の車　高田栄三郎　15
仙台市バドミントン協会創立40周年おめでとう　千葉　正寿　16
教えられる〝器（うつわ）〟作りを目指して　田所　光男　17
満40周年を迎えて　井上　薫　18
栄光は勝ちとり伝統は築くもの…　二瓶　真　19
なつかしいベテラン友の会員　21
45歳からのスタート　会田　泰子　21
学生よ頑張れ!!　柳原　浩司　23
なんでも教えてくれた荘司さん　高川　共夫　25
宮城県・仙台市バドミントン協会は「双生児」　蒔田　修　27
対談
宮城県仙台市協会の回顧と展望!!　大岡　英相・真壁　幹雄　30
〔中村杯〕県下・混合復オープン大会　33
よき師・よき友…佳きかな!!　わが人生　黒須　英子　36
「やってみ…」平井先生・「勝つことだ!!」荘司さん　金森まき子　37
もう10余年に……　石井登美子　38
平井先生に誘われ高校・団体の優勝　沢田　幸子　40
創立30周年史の縁で　佐野　克子　42
「家庭婦人のバドミントンに思うこと」　佐藤　光子　43
歩み　相原　勝郎　44
若い人達の手助けを!!　高橋　幸子　45
ことし15周年　武田　道子　47
〝ひとりごと〟　佐藤巳代治　48
家庭婦人バド…　奈良坂　孝　49
バドミントンと共に　古橋　政紀　50
昭和62年度仙台市協会競技記録　52
〝礼〟が第一目標　植野　策千　54
部全体に躍進ムード　柴崎　信子　54
中学校でも頑張ろう　佐藤真輝子　56
目標は実力の向上　加納　博　56
元気一杯の会員です　敦賀恵美子　57
各種大会の優勝　湯村　秀子　57
父兄の自主運営　湯村　秀子　58
健康と仲間の和　宗宮　照子　58
技術向上に努力　沼倉　貞江　59
みんな胸をふくらまし…　佐々木知子　59
全員若さで団結　七郷シャトラーズ　60

技術も日毎に向上
平均年齢37歳
美男美女の快汗？
熱をこめての練習
つねに一歩前進
部員の総力で…
楽しみと苦労で…
新人の入部に期待
一勝して部に花を
創部一年、これから…
前進のための反省
部の充実が課題
学区民に愛される
活気でいっぱい!!
病院より同好会へ
市大会で準優勝!!
一週八回の練習
細くても永く…
毎日でも練習したい…
みんなで楽しく
いい汗流そう!!
みんなで楽しく頑張ろう
充実した部つくりを
お互いに必死!!

錦戸のぶ子　60
若林愛好会　61
菅野　則義　61
遠藤　茂美　62
清水　正勝　62
斉藤　明　63
須藤　禮三　64
武田　道子　64
千葉千恵子　65
丹野　エツ　65
青山　隆　66
大内　侃　66
中山美砂子　67
加藤紀美子　67
鈴木美智子　68
日塔　保郎　68
花岡　静雄　69
林　直子　69
高橋真理子　70
山田　道子　71
沼田　桂子　71
高子　裕次　71
阿部　和男　72
宮崎　哲　72

［30周年史］あれこれ……（これからのために）　會田　高陽　73
尾羽打枯下素浪人譚　佐藤　正雄　74
写真特集（クラブ・市協会行事・30周年祝賀）　77
編集後記　87

◇仙台市バドミントン協会役員名簿（63・4・1）

会長　笹氣　幸助

副会長　蒔田　修、井上　薫、佐藤巳代治

顧問　真山　泰、大岡　英相、真山　絹子
菅原　敏秋

参与　氏家　勇

理事長　菅原　保

理事　佐々木富雄、奈良坂　孝、高橋　幸三
古橋　政紀、菅野　正男、渡辺　正喜
佐藤　光子、沼田　桂子、笹　由紀夫
佐藤　道明、庄司　茂、田辺　健一
文屋　俊英、日下　孝、但木　健
我妻　襲哉、三浦　晴介、斉藤　明
鈴木　公男、清水　正勝、安海　吉男
高川　共夫、尾形　信夫、田所　光男
小島　和雄、高橋　光男

監事　相原　勝郎、米田　広造

40周年おめでとう そして一層の発展を!!

仙台市体育協会
会長　石井　亨



ご高承の通り、我が国のアマチュアスポーツを統轄する団体は㈶日本体育協会であり、昭和60年7月1日現在で、43の競技団体と47都道府県体育協会で構成されています。

その日本体育協会の資料によると、日本バドミントン協会は、昭和21年11月2日創立。同24年12月24日日本体協に加盟。そして国際組織への加盟は27年3月19日であり、法人格取得は57年4月1日となっています。

仙台市バドミントン協会は、日本協会の動きに連動して、昭和23年6月5日、仙台市五橋中でのオープン競技などのあと、総会をひらき、初代の会長に伊沢平勝氏、理事長千葉竜氏、その他の役員を決め、宮城（仙台）協会を発足させたと伺っています。

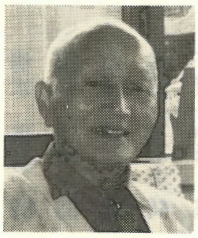
バドミントンそのものは当初レクレーション的色彩が強かったようですが、次第にその競技性が多くの人達の共感と評価を得て、日本のスポーツ種目の中では異例とも云える程の発展をとげて今日に及んでいます。

仙台市は今日。二市二町の合併、さらには政令指定都市移行にともない、現在の各組織も新しい対応が求められ、一層の活躍が期待される訳であります。

このときに当り、協会発足いらい40年の歩みをまとめて記念史を発刊されることは、誠に時宜を得たものと存じ、心からおよろこびと敬意を表し、協会役員と会員が一丸となって一層の発展をなされるよう祈念いたします。

創立40周年を、彌栄え!! さらに50周年——21世紀へ…

宮城県バドミントン協会
名誉会長　浅野　喜代治



仙台市協会が「創立40周年」を迎えられ、非常にうれしく、限りなく拍手を送ります。

これと同じよう宮城県協会も40周年!!　ともに一つの目標に向って精進されることでしょうから、前途は洋々と確信して居ます。

ふりかえって見ると「30周年」を祝って気勢をあげたのは、つい4～5年前のような想いをして居ます。

協会の創立は昭和23年。初代伊沢平勝氏、二代常松喬会長のあとをついだその年に、この耳に入ったのは第4回全国高校選手権（山形市）平井二作部長の率える尚絅女学院の選手たちが、関係者の予想をものの見事にひっくりかえし、郷土に「高松宮妃賜杯」をもちかえり、10月には第8回国体（四国・香川善通寺）で、他県が各校のトップを集めてのチームに、宮城は平均身長一五二。谷津主将以下西堀、佐藤、松本選手、千葉主務、平井部長とインターハイ制覇と全く同じ。

この大会に私は会長として始めて全国大会に出場。選手は約3日間の汽車の旅、私は別行動でしたが、同じ乗りつぎ、のりかえの旅の、つかれた思い出が……しかし、試合は、いつも手に汗をにぎりながらの観戦なのに、こどもたち4選手（失礼）は、いつも平常心みたい。高校種目に出場し、応援の東北大の選手たちもびっくり。たゞし準決勝（神奈川）決勝（香川・善通寺一高）は、その時までの日バの記録になかった名勝負だったと、後日になって村山日バ事務局長に賞められたことを思い出しました。

これは10年前に県協会創立30周年を記念しての「30周年史、遠く高く飛べ!!」を改めてめくりながら書きつゞったもので、仙台市協会の「40年史」は、笹氣幸助会長、菅原保理



事長を先頭に、県・市協会創立以来のベテラン蒔田修、井上薫、佐藤己代治さん等々、それに中堅、若手ばかり各学区、地区体協、家庭婦人のグループがびっくりするほど、メッセージ、写真を提稿「翔んで40年、21世紀へHi-clear!!」出版に、それとなく自身の決意をそれとなく表現。私は30周年史に「あしたに栄光をもたらす、新しい〝星〟をみっつけた!!」と高校生につぐ中学生、小学の高学年がコートに、その姿にこのような声が……ところが、編者はニッコリと「会長!!もう幼児から英才教育の時代、ヨチヨチあるきのわが子にラケットをふり回させ、使用しないコートに入れて一回でもシャトルが当たれば親が、眼の色かえて……ヤッタ!!　ヤッタ!!」

ところが協会役員から見ると特にルールのきびしいバドミントン競技に、底辺拡大しすぎて協会規約の判断はムリ、イン・アウトは手前勝手、マナーのよくないことに、県協会名誉会員の高橋辛六郎氏も首をかしげ、心ある協会役員が、おとなからの自覚を期待しているとか、耳にとどいた時が……。

プロ競技ばかりかアマ競技でも、新聞・専門誌・テレビ等によくガッツポーズが、アマもつい……その心情もわかりますが、打ち負かした相手を指さし、バン声を送り、ネットをたたく……等々、これは新人類とかを、見た不必要な年配者の思いすごしでしょうか。

こゝまで書きつゞり、あれも、これも、あの人、この人と思い出が沸くよう……それと同じに疲れが……荘司達治、中村隆両理事長のご苦労。平井二作先生が部創立3年目でのインターハイ、団体女子の学校、一般、加えてインカレ単復制覇。各校卒業後の家庭婦人となっての「30周年」までの数々の不滅の記録。

ある人が「会長!!　優勝から三位入賞までは形にのこるものを……四位以下、それまで育てあげた先輩、同僚、指導者、顧問、部長はあくまで「かげの人」俗にいわれる舞台うらのなくてはならない功労者の顕彰を……。

いつもそのように考えながら、つい力不足の今日までを、次代を負う県・市協会役員・会員のみなさんが、カバーし、栄光と伝統に輝やき充ちた「50周年」を創り、両手をあげ、胸を大きく張って「21世紀」を迎えられていくことを確信し、つたない祝賀と、これまでの御協力、ご支援に厚く、深く頭をさげさせていたゞきます。



最後で恐縮ですが「30周年史」を発刊する53年のくれの、さゝやかな前夜祭(開盛庵)に招待した記録、写真取材に大活躍の中林五郎、順父子氏に湯村副理事を通じ僅少の交通費をお渡ししたところ、それでフイルムを購入。晴れの表彰、祝賀会行事(伯養軒)を百枚余に、参加したあの人、この人、なつかしい顔が……不宵の10年前の若々しい？　姿がはっきり。

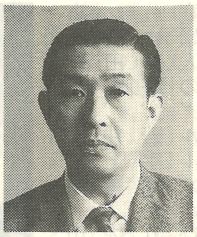
アルバムをめくりながらアッ上田さん、会田教授、松浦校長、平井さんを囲んだ尚絅の先輩たち。中村さんも……声を出して呼びかけた次第。

10年一昔でなく、生きている今日に再現。「40周年史」に皆様の現代と21世紀へのメッセージをまとめてくれた佐藤編集氏に謝意を申し述べます。

（〒981　仙台市台原1丁目12―23）

バドミントン聞き捨てご免!!

県協会名誉会員　高　橋　辛六郎



仙台市バドミントン協会が、創立40周年を迎え、記念史を発行することになりましたことを、心からお慶び申しあげます。

昭和23年に仙台バドミントン研究会（現在の仙台市協会）が設立され、終戦直後の不安定な社会情勢の中で協会がその当時のバドミントン競技の普及、発展に大変なご苦心があったものと推察されますが、創立以来、役員の皆々様が一致団結し、多くの困難をのりこえ今日の市協会を築きあげられたことは、まことにご同慶の至りと存じます。

しかも当時の会長さんが、今尚ご健在で、かくしゃくとして協会のご指導とご発展に陣頭指揮をされておられることは、極めて素晴らしいことであり、まことに羨ましい限りで全国でも類のない協会であると確信し、心から拍手を送る次第です。

さて、標題に関し、最近のいろんな面からの考察した点について、誌面をお借りしたいと思います。

◇その一、〝マナー〟について

昭和62年を回顧するに、スポーツ界のプロ、アマを問わず、こんなにもマナーの悪い年は、過去の歴史にはなかったように思われてならない。

スポーツに限らず、すべて人間の行動範囲には必ずマナーがつきまとうものである。特に、スポーツマンは、己の技量にうぬぼれてはならない。考えるだけでもまことに淋しい限りである。

バドミントン界は如何なものか、久しく競技を見てなかったが、二・三年前からＮＨＫの教育テレビで、放映されるようになり、テレビ観戦を唯一の楽しみにしているこの頃である。

その中で、女子選手のコートマナーは実に立派であるが、男子の場合は特に悪いようだ。例えば、バードの交換を要求する場合、審判員にラケットでポンと打返しているが、見ていて感じの良いものではない。又ミスをした場合等、ラケットをコートに叩きつける場面を見るが、これも同様いただけない。外国のプロ選手（テニス）の真似をしているようだが、心すべきことであると思う。

いずれにしても、良いことは真似ても、悪いことは注意することが肝要である。

◇その二、純真について

スポーツはあくまでも純真でなければならない、勿論、政治的なものの介入は許されないものと思う、このことについては私の自論でもある。

その点、仙台市バドミントン協会は、創立以来、総べての面に無色透明で、文字どおり純真そのものであることは、素晴らしい協会であると思う。このような協会がこよなく好きでたまらない、益々発展を祈願したい。

◇その三、根性と疑問について

バドミントンの今昔を思うとき、なんといってもプレーヤーの試合に対しての根性が余りにも弱い感がする。それと同時に、試合の結果について、なぜ負けたのか、敗因に関し疑問を持つことを忘れているようだ、疑問を持たない選手は絶対に上達しないし、勝利をつかむことは出来ない。

このことについて、市内の某女子学院のＫ氏はこの〝根性と疑問〟に対し、イヤというほど学び悩み、その結果、海外へと夢をはせ

実現にこぎつけたことは、まことに素晴らしい限りであると同時に、大いに期待され喜ばしいことである。

以上、とりとめのないことを申し上げたが、あくまでも、ミミズのたわごととしてお許し願いたい。

（〒980　仙台市川内大工町30）

マッカーサー元帥に　トロフィーのおねだり

笹氣幸助

これこそは、なにかの語り草になるだろうから大事に保存して置くよう、自分に云って聞かせ、キチンと整理しておいたのに……三百数十日の一年を40も積みかさねると、その一番下においたものが、どこだったか……あのマッカーサー元帥のていねいな？　返事を見失い、今はウソみたいな話。

それはある日の朝刊に、世界最高の司令官マッカーサー元帥その人がバドミントンのラケットを手に羽根を打って楽しんでいる姿が戴っていた。健康を考え、余暇があると部下を相手に……そのような説明を読んで、ついメクラ蛇におじず!!　よし!!　ためしに頼んでみようと、……日本の東北、その宮城の仙台で一般男女と高校生が、これまでのスポーツをおろそかにしがち、そこ、ここの広場で、学校の講堂でインだ、アウトだ、勝った、負けたの程度であった。



思いついたら経過―結果にあまりこだわらない若さの時代。かくかく、この通り、みんな一生けんめい!!　この青年男女の一途さと将来のために「マッカーサー元帥」のネームを刻んだトロフィーかカップをいただけたらこれ以上の幸福はありません。まことに恐れ入りますが、政策の円満をはかるためにも、思いあがった願いを聞き届け下されたく、光りかゞやく「元帥杯」を優勝者に与えることをおゆるし下さい。但し経費は当方で用意しますからその必要はありません。

このような文面を総司令部内……元帥閣下宛にポストに投函。吉報をまちわびたが1ヵ月ほど後に、部厚い封書が……。

英文でなく、和文にして最後に元帥の副官らしい人のサイン。胸をドキドキさせながらカップかトロフィーのどっちか、その文字だけをたのみに読みつづけたら……ご希望にそうものを贈りたいのですが、これが全国に知れ、県市町村でのスポーツ全種目の指導者が、あなたの素晴らしい思いつきにしたがって要請されると、ノーと断われず、そのご希望うれしく思いますが、以上の事情で……あしからず……云々という御返事であった。納得と残念さが……それにつけても、この返書を大事に保管したつもり……。

仙台市体育協会の組織をつくり、レジャーセンターの竣工を記念して植えたヒマラヤ杉の、てっぺんが見えないほどに成長し、はじめの苦労が、これほど素晴らしくなる。私が植えたのはどれだったか、よくこれまで大きくなってくれた……と、抱きしめ、撫でてやりたい。

県協会の30周年史を読みなおして尚絅女学院の平井二作―石山和夫両氏の対談に改めて感激させられた。体操専門の平井さんが赴任するや一条件は体育館の新設だったという。中学担任の石山さんが、部なし、予算なし、高校はコート一面（その都度コート書き、ネットポールのロープを床にくぎをうちつ

け）中学はもっぱら体力つくりと素振りでフォーム、フットワークだけ。練習のつみかさね。

部をつくっての3年目。精進がむくわれて3年目で第四回インターハイ（山形）その秋の第8回国体（香川・善通寺）に出場、県協会創立8年目で「全国一」の高松宮妃賜杯と国体優勝の表彰状をもち帰ってくれた。

その後の第11回国体（静岡）では一般女子に先輩たちが優勝、高校女子は後輩たちの三位入賞。全国学生選手権では尚絅短大に進んだ三浦節さんがシングルス2年連続、ダブルスのチャンピオン。育ての親、平井二作さんは、かげの功労者。私はおそい!!と唇をかみながら自称カッパ先生に敬意を……そしてできる限りの顕彰に努力したい。

敗戦直後からのたちなおりのためバドミントン競技の普及を推進して下さった地元紙の上田昌二氏。その後にカップを寄贈、技術の向上に協力の尾形順次氏（先・後輩の編集局長）第1回の尾形杯は、バドミントンのスイッチヒッター、両手でラケットを使いこなし10年以上とNo.1の座にあった金子盤央さん。62年の優勝は松崎新平、米田広道組。第1回からの優勝者名を見ながら、その当時の活躍ぶりを語る。これもうれしい讃辞。蒔田修さんは金子選手に勝つため8年もかかったとか守る人より攻めるファイトに拍手を……。

検察庁の早坂正さんに教えられたというよりタタキ込まれたという人が多い。雨で屋外コートの使用不能のとき、廊下でストレートの練習。桜井、引地、小川、柴崎さんなど。

東北大会には桜井勇氏が選手団のマネージャー。会場までは身がるに声かけだけ。帰りは優勝トロフィー、カップ、旗……その他の全てが協会事務所まで、大風呂数に包まれ、荒縄でしばって背に負わされ先頭。その行列を指さして荘司さんが曰く「ホイトの行列だ」

東北学連の基礎を築かれたのは学院大の安斉哲夫教授、はじめは単位不足の男女生徒のため、向いの東北大中央体育館で、このくらいの羽根うちなら……と始め、日毎に教授自身が叱咤激励、東北学連を結成、今日まで数多い優秀選手を社会人として巣立てられた。

それにつけても、アレッこの私をバドミントンの笹氣と忘れないで居た、しかもブラジルで声をかけてくれた白石高出身の安田君のことを……。

移民をはじめたての記念に県海外協会と県バドミントン協会浅野喜代治会長ご夫妻、山本知事夫妻、仙台市島野市長夫妻、私と家内とサンパウロ市内を観光したとき「あっ笹氣会長さんだ、私は白石高の選手で大会に出場、成績がよかったので、よくやった、これからも頑張れよ……とはげまされたガラスやのYです……こんなところでお会い出来るなんて……なにをするにもはげましを忘れません……」。

あのときから何年になるだろう……声をかけられることのよろこびは、忘れがちな、めぐり合いのよきアレコレを思い出させてくれる。

また本年は特筆大書すべき事があった。それは聖ウルスラ学院中学校女子バドミントン部が全国制覇をとげたことである。試合に勝つということは、そんな生易しいものではない。然も全国制覇である。日本一である。選手諸君はもとより、学校としても一大名誉であり、生涯忘れ得ぬ出来事である。

それにしても選手一同のたゆまぬ熱烈な鍛練努力の賜であり、また指導に当った片桐・酒井両先生の努力も本当に並々ならぬものがあったことに満腔の感謝を捧げたい。そしてまた学校当局の深い御理解と、御父兄の熱意と心からなる応援のおかげである。

今度の市バドミントン協会30周年に際し、県協会のそれには及びもつかないにしても、寄稿して下さった数多くのグループ。集稿に東奔西走の井上薫氏、佐藤正雄氏の献身。皆様の希望を叶えてあげるため、きょう―あしたにも―会長としての責任を、菅原保理事長以下、副会長、役員の総力をあげて一層の推進を図る決心です。

最後に表紙の写真、中央にポーズ!!のみ

なさん。その左端にラケットをふりあげての幼児。10年後はまだ小学生？　21世紀を迎え、どんな思い出話を語るか、聞きたいのは私ばかりでしょうか!!

（〒980　仙台市支倉町1―11）

創立40周年を祝う

宮城県バドミントン協会
副理事長　湯村治夫



仙台市バドミントン協会創立40周年を迎え、心からお喜び申し上げます。

新興のスポーツであるこの競技の普及ぶりはめざましく、愛好者が急速に増加していることは非常に喜ばしいことです。

こうした中で、仙台市協会はこれまで宮城県協会の中枢として活躍され、特に創立から30年代までは県協会と一体となり競技の普及―発展に尽力され、その間、バドミントンの為に寝食を忘れ、競技、指導と大会運営に活躍された役員、選手の努力に心から敬意を表する次第です。

特に思い出すのは県と市の協会の事務局が小島スポーツ（藤崎デパートとなり）にいた頃で、荘司達治さんが県・市の役員として県と市の役割を認識され、市協会の役割は底辺の拡大を重点に事業を行なって居りました。独特の文字で大会要項をつくり、来店する協会役員に具体的な説明をしていた姿が目に浮びます。

荘司さんに教わり育てられた役員も多く、今日の協会が存在すると言って過言ではないでしょう。この思想が、仙台市協会を発展させている源泉で、これまでに成長した事に大変よろこばしいことで、今後は、政令指定都市移行など、ますます広域的な活躍が期待される仙台市協会になろうかと思いますが、どうぞ40年という歴史の中で着実に培われてきた団結力と競技力をいかんなく発揮して、さらに一層の発展に御尽力下さるようお願いいたします。

県協会もさらに、普及発展、基盤強化に努めることは勿論のこと、時代に促した対応を積極的に進める所存であり、伝統ある仙台市協会関係各位のなお一段のお指導、鞭撻を賜りますようお願いいたします。

（〒983　仙台市田子字駒除285―5）

財産・名誉・勇気を…

瀬戸寅男



◇出会いは北海道

宮城県（仙台）のバドミントンは、戦後、急速に普及、発展し、昭和28年の第4回全国高校選手権（山形市）で、尚絅女学院（谷津、西堀、佐藤、松本、千葉）が、部をつくって3年目。それこそアッ!!という勢いで、栄光の「高松宮妃賜杯」を郷土に飾った。このときの準優勝は黒石（青森）三位は若松女（福島）と、東北の女子が上位を独占。これに勢いをつけ、各種の日本選手権でも、目ざましい活躍をつづけた。

こゝ数年になって一歩おくれた感じ……。しかし県・市協会の創立40周年を迎えた現在一層発展し、65年のインターハイを目指し、協会役員、関係者の皆さんは非常な努力中なので好成績を期待しています。

私が申しあげるまでもなく、この競技の特徴は、シャトルにあって、シャトルほど大きく変化するモノを扱うスポーツは他にないと思います。おもしろいが、むずかしく、それだけに魅力があって、奥が深く、基礎体力が求められ、精神面からも、ひたすら耐えぬく

強い精神力が要求されるのです。皆さんはそれを自から実践し、指導されてきた方々であります。深く敬意を表します。

さて私は終戦のときは北海道。北大の講堂で、進駐米軍の兵士が、バドミントンを楽しんでいたので、仲間に入れてもらい一緒にハネ打ちをはじめ、当時の全日本単2位の佐藤保氏も又とないよき仲間……。

昭和22年に東北電力に入社して間もなくバドミントン部を設立、中庭で練習を開始。そのころ仙二高生だった正木、千葉君が（あとで水谷、古賀両君も）下駄をはいて遊びに？一緒に練習、職場も急速に発展し対抗試合をあれこれ計画している時に荘司達治さんと知り合い、永い協会運営の苦楽をともに……。

◇講習会の開催

初代の千葉理事長（通称ヒゲの竜さん）あるき出すと胸を張り、肩をいからせ、左右にゆすって文字通りの威風、堂々そのもの。かげで協会設立に伊沢平勝氏を会長にテニス仲間で南方でバドの経験のある竜さんを推しつもカゲで奔走していた佐藤正雄氏（河北新報運動部記者、通称マサヤン）知・徳・壮年組？　独特なコスチューム。女性に人気があり、リーダーの条件ピッタリな人の強力な支援（バックに上田編集局長!!）のもと、私も協会役員の責任を果たそうと……当時の全日本選手権者の岡淳一選手、藤井君など慶大の部員を招待してもらい上杉小、五橋小講堂で模範試合と基礎練習をうけ自信をつけ……？。

これを契機に県下の高校、一般男女の講習会を各地で開催。終戦直後だけに人心はすさんでいたみたい？。しかし参加者は新しい競技に興味津々、私たちはやる気を引き出し、眠っていた素質？　を開花させるよう猛特訓。反対に私たちの猛練習。羽根つきからようやく脱皮しはじめた。

講習会開催の苦労は参加者の動員、物資不足のためのトラブルなどを役員交替で、下足番から会場整備、それに便所掃除……午前7時から夕方まで……当時の皆さんの顔と名前を鮮明に思い出し、恐縮しながら今あらためて深く感謝いたします。

◇男はだまって勝負する

26年の10月、第6回広島国体に出発。仙台発の夜行列車で実に〝36時間〟木製の腰かけで私はズボンの尻に穴をあけた。広島駅前はバラックのヤミ市だけ。遠くを見ると原爆塔が見え、街はまだ焼野原だった。食料持参で宿舎入り、部屋も男女の別がなかったよう。

県選手団は荘司総監督、男子は瀬戸、女子は古川女の鴇田先生、マネージャーは佐々木秀夫君（東北大）選手は正木、千葉、水谷氏（東北大）女子は高橋、赤間（古川女）大沼（尚絅女）でした。

当時の国民スポーツは、幅広い普及と振興を主旨に国体が中心「参加することに意義がある」親善と友好と交流を前面に……勝敗にこだわりは慎しむよう……そのくせ国体は天皇杯争いに各県の勝敗、順位が決められていたことも事実。宮城県も、27年の第7回開催を決定し、スポーツを前面に郷土振興の活力をはかることに決定していた。

出発を前に伊沢会長から、玉浦の旧陸軍飛行場の格納庫を東北大に移し、立派な（当時は全くその通り？）体育館にするので、良い成績を期待する!!　この激励に、来年は〝仙台大会〟運営から審判技術その他身につけるものが多く、そのためにも上位に入賞し、実戦で覚える他にない。みんなで開会式に出場するため、市電で会場まで、ところがその周辺は砂利みちで小石がゴロ、ゴロ。主力選手の正木君が電車から降りた瞬間、足首をひねられて捻挫!!

その翌日が試合。チームに暗いムードが……正木君の顔色もわるく、試合前の練習もできず、初戦は隣県の山形。東北大会常連の小関監督に五十嵐（法政）杉沢（電力）で、お互いに手のうちは百も承知。小関監督は正木君の故障をすでに察知して……。その正木君は足の故障を一言も云わず、私も聞かなかった。

さり気なく本人の顔を見た。眼球がキラリ

と光る。彼も苦しんでいたのだ。私は決心した〝ヨシッ!!　男は黙って勝負する〟と決意。オーダーを提出した。

苦しい試合だった。3ヵ月前の東北大会で連勝している正木選手も、ドロップショットに足が出なかった。痛む足をひきずりながら良く頑張った。パートナーの千葉選手もよくカバーしてくれ、ゲームを制してくれた。

正木選手のシングルス出場はムリ。千葉選手を五十嵐に当てたが、母校（法大）で強化練習をつゞけての五十嵐に惜敗……。いよいよ水谷ー杉沢に勝敗がかけられた。

杉沢は山形のNo.1。左きゝのプレーヤーで、予想は杉沢選手がやゝ有利の声……しかし私はそれを信じなかった。水谷選手はイージーなミスの少ない、精神力の強い、しかも急速に実力をつけ、大事な試合を前にあわてず、さわがず、笑顔？　でコートに、私は「勝つことを意識するな」その一言だけ……。

水谷選手は全く冷静だった。左きゝのフォアを徹底して突いた。相手の弱点をよく読みシャトルが浮いてくるまで拾いまくった。そして得意のドロップが……スマッシュが決まっての快勝だった。暗いムードは一瞬にして吹きとんだ。優勝でもしたような喜びよう……。

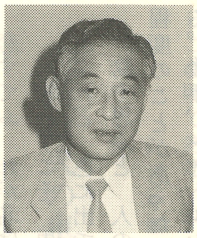
この勝利に準々決勝まで進出して東京（優勝）に敗れたが、天皇杯8点を獲得。郷土の声援に応えることができた。気迫の強い男が最後の勝利を得る。証明をしてくれた。

財産を失うのは　少しを失うことだ。
名誉を失うのは　多くを失うことだ。
勇気を失うのは　全てを失うことだ。
（ゲーテ）

（〒981　仙台市滝道29―35）

古い顔

水谷政雄



今、私達が学生時代にコンパなどで歌った「古い顔」（チャールス・ラム作詞、松島道也氏作曲）のメロディを思い出している。

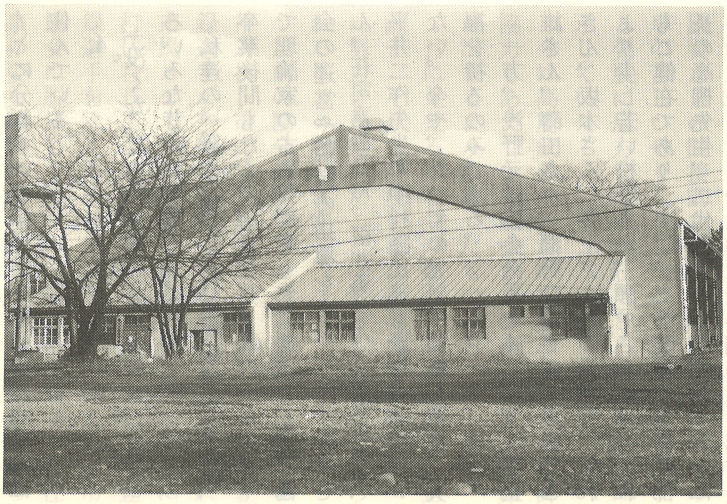
1.

「子供の頃に遊んでた。学生時代に交際あった。いろんな友がいたけれど、〝皆、みんな今はない。あゝ懐しい古い顔〟。」〔以下（〃）省略〕

「夜遅くまで座りこみ、笑って飲んだものだった。あの仲良しの飲み仲間、（〃　〃）」

もう34～35年も前のことになったが、強いて勉める勉強から解放され、スポーツや映画、演劇、麻雀、コンパ等々の明け暮れに青春を謳歌した学生時代。

中でも私が心身を燃焼させ、夢中になったのがバドミントンである。当時のバドミントンのレベルは今に比べるとまだ低かったとはいえ、私達東北大学バド部は宮城県はおろか東北六県の各種大会を席捲し、全国台の大会でも、準々決勝ないしは四回戦位まではいける力があったし、私達がコーチの手伝いをし



た尚絅女学院は全国制覇を成し遂げている。
私もお蔭で国体には7回連続出場させてもらった。
その当時のメンバーは卒業と同時に全国に四散し、宮城県に残った人は僅かであるが思い出すまゝに紹介すると
四回生　正木主将、千葉(茂)、水谷、古賀、千葉(喜)、佐々木、杉谷マネージャー
三回生　山本、渡辺(剛)、高橋(正)、丸山、増本
二回生　村守、石垣、渡辺(全)、高柳
一回生　丁字、高橋(護)、豊田
等が主力メンバーだったと思う。今は、それぞれ各分野で立派な仕事をされており、一部を除きご健在なのは何よりのことである。

2.

「恋もしたっけ、素晴らしい、美人だっけが、あの娘は、今じゃ会われぬ他人の妻。(〃　〃)」
私達は、小学校から高校卒業まで男女別学、「男女七才にして席を同じうせず」で育てられ、中・高時代は母親や姉妹と街を歩いても上級生にビンタをくらったものである。
大学に入り、各種競技大会で、若々しく美しい一般女子や高校女子がバドのユニホームで、必死になってプレーする姿を見て、ひそかな感情を抱いても不思議はない。今でこそ、街にはテニスウェアやゴルフウェアが氾濫しているが、当時はノースリーブないしは半袖のブラウスに白いショーツのバドコスチュームは若い男性を魅惑したものである。然しながら、前記の私達の仲間には、結実したラブロマンスは生まれなかった。今思えば大変残念なことである。これは一つには、私達がコーチやその手伝いをした女子高校の先生方が私達を信頼してくれるとともに、生徒達を適切に指導されていたためと考えられる。せめて、古歌の

恋すてふ　わが名はまだき　たちにけり
人知れずこそ　思ひそめしか
忍ぶれど　色に出でたけり　わが恋は
物や思ふと　人の問ふまで

程度のことがあったらなあと思うものである。後年、シャトルを仲人として、幾組かのカップルが出来たことは、ご同慶にたえない。

3.

「心を知った友達は、兄弟よりも懐しい。同じ家に、何故、君は、生れてきてはくれなんだ。そうすりゃ、今でも、傍にいる。」
練習、試合、コーチ、遠征、そして麻雀、映画、パチンコ、コンパ等一日の大半、いや一年の大半を一緒に過した仲間。プレーを競い、指導、コーチのあり方、協会のあり方を論じ、人生や恋を語らった仲間。二―三日は会わなくともお互いの行動や消息を知り合っていた仲間。今でも、体こそ夫々一家を構え、バラバラに分れているが、心や憶い出は同じ家に住んでいる。

4.

「没くなった友、去った友、奪われた友、いろいろな昔の友を語ろうよ。(〃　〃)」
私達の一級上、初代主将の村山義夫さんは、卒業後間もなく、なくなり、私のパートナーで理論家の古賀邦彦君も先に逝った。また、協会の運営や競技の指導をされた金子盤央さん、荘司達治さん、桜井勇さん、早坂正さん、平井二作先生、中村隆氏達も既にこの世にいない。今や、かつての元気や面影を偲び、冥福を祈るのみである。
一方、浅野元県協会会長をはじめ、佐藤正雄さん、蒔田さん、瀬野(虎)さん、高橋(辛)さん、坂本さん、井上さん達の長老方、それより少し若い松野さん、瀬戸さん達はいずれもご健在であり、大学バド部関係でも初代部長の高柳先生、二代部長の会田先生、ともにご壮健である。また、私達の仲間、正木も今年帰仙、仙台三菱の社長として活躍中。佐々木も小牛田で家業の経営に当っている。千葉茂(新潟ウォシントン監査役)、杉谷(北日本相互専務)等来仙の折には、是非コンパをしたいと思っている。さらに一級下の在仙メンバーは皆優秀で、増本、渡辺剛、両東北大教授、丸山東北工大教授と錚々たる先生方である。とくに渡辺先生は、三代目のバド部長と



〔写直説明〕前列（右から左へ）内ヶ崎、古賀邦彦、佐々木秀男、水谷政雄、杉谷利昭、高柳部長、正木繁次、千葉茂、千葉喜彦、草野、不詳（中央）海老原、山本益生、高橋譲、石垣清、村守英男、増本健、丸山雅雄、高橋正明、渡辺至（後列）高柳瞭三、伊藤治昌、不詳、丁守淳、ガンちゃん、不詳、渡辺剛（円円）村山義男

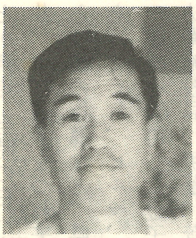
して後輩の指導？　にも当っており、現在、バドでは当時のメンバーの中では一番強いことになっている。

今や、ラケットを握り、シャトルを翔ばす機会は殆どなくなったが、バドを愛し、スポーツを楽しむ気持は今も失せていない。私が東北電力に入り、各所転々として、余り協会の役に立てなかった罪ほろぼしに、一昨年から電力の全社大会を開催するよう努力したし、在仙電気同友会のバド部会長として、年一回大会を開催している。これからは、たまには地域のご婦人方と汗を流してみたいと思う今日この頃である。

（〒980　仙台市中山9―18―15）

台所は火の車

高田栄三郎



いま国会で予算案の審議に続いて国のふところ具合を良くする税制改革というものが打出されるようで、どのようになるのか？　さて当協会のふところ具合はどんなものだったか、ふりかえって見ました。

荘司さんが亡くなり、そのあとの運営を続けることになり、問題の一つに協会のふところ具合がどうなっているのか知る必要が出て、残された収支報告書の最近2年分から、間接的な経費分を除いた直接競技運営費一人当りに対して参加料が百円不足と出た。次の年度は参加料個人で一人百円値上げして団体はそのまゝに表面上は収支過不足なく問題なしに……。行事に参加する市民の皆さんの負担を軽くするため値上げを最少限にとゞめ、会議費などの間接的な経費は極力押さえて火の車の苦しいやりくりしながら協会の基礎作りと発展に尽力していた荘司さんの心を数字は示していた。

今は高度成長のおかげで参加者皆さんの御協力もあって少しはゆとりのある予算・決算が出来るようになったものと思っています。

目に見えることでは協会の年間行事の名企画と、それを実現するための会場の確保等々に努力されていたことは皆さんが認めておられることゝ思います。

以前の協会は荘司さんの名企画で、県下5市対抗、市内学生対抗など記憶しているが登録選手が主体でした。その後県協会をはなれ市民スポーツの隆盛と仙台市協会ひとすじに打込む荘司さんの目標がうまくかみ合って登録選手を除く市民の自由参加を主体とした市協会に脱皮して現在の市協会に発展させた往事の姿を40周年を迎えての一筆を書きながら

一層感銘を深くしています。

40周年を迎えたこの期を同じくして仙台市の政令都市への移行が着々進んでいるようですが、市協会も必然的に規模の拡大と内容の充実が50周年に向けての課題として今後の明かるい展望と発展を祈念いたします。

（〒989—31　仙台市下愛子字滝ノ瀬4—13）

仙台市バドミントン協会
創立40周年おめでとう

千葉正寿



このバドミントンは、昭和17年9月に、はじまっています。当時の仙台市鉱山監督局（現在の仙台通産局）山田秀三局長が会議に出席。職員の体位向上と意気昂揚のため、運動用具の配給を要望。横浜のＹＭＣＡから取りよせてくれたラケットと羽根。バドミントン用具と知らず、みやげにもちかえり、現在の仙台市中央四ノ三、中税務署（通信病院東）となり、口の字の鉱山局中庭に張ってあったバレーボールのネットをそのまゝ、たゞ打ち合っていた。ガット、羽根、ラケットの補充がなく倉庫入り。仙台空襲で一瞬に灰!!　この間の事情は寺島稔氏がよく知っています。（県協会30周年史・「羽ばたき」）

23年ころから地元紙、伊沢平勝、千葉竜、県保健体育課の常松喬課長、球屋伊藤亨さんなどが奔走。当時の日バ宮沢宏之理事長が岡、藤井、小宮選手をつれ来仙してルールの解説から技術の指導など、県協会創立の気運をもりあげてくれ、ビルマ、マレーシアに居て、この競技を習得した金子盤央氏（特別調達局、現防衛施設局）伊藤、菅原保さん、やゝおくれて荘司達治氏が参画して現在の協会の基礎をしっかりさせたと聞いています。

私は26年ころから始めましたが当時のラケットはベニヤ三枚張り、シャトルも陸鳥の羽根で折れ易く潰れたシャトル二～三個から比較的良い羽根を植え替えたりして新しいシャトルをつくり使ったものでした。

今の人は手首を使ってハイバックを打ちますが当時はバックラインから相手コートのロングサービスライン手前約1メートルまで位しか飛ばなかったのでどうしても腰を使って振り廻さないとまともに返せずそのフォームが今でも我々には残っています。

ガットもシルクにろうを塗ったものや鯨筋もありました。鯨筋は丈夫さでは文句ないのですが反撥力がなく使い切れませんでした。

昭和27年に第7回国民体育大会バドミントン競技が仙台市（東北大体育館）で実施され神奈川—北海道の決勝での攻防に目を輝やかせたことも忘れられません。又この頃から高校生を中心にバドミントン人口が増えたように思います。

我々がバドミントンを始めた頃は、終戦による混乱から立ち直っておらず、小学校では二部授業が行なわれ体育館や講堂も教室に使用する状態でした。我々は平日は昼休みの時間に外の風の中で練習をし、土曜・日曜は小学校の体育館を借り次の手順でコートをつくり練習をしました。

(1)並べてある机や椅子などを片隅に積み重ねる。
(2)巻尺でコートを測り、チョークでラインをひく。
(3)ポールをロープで固定しネットを張る。
（釘を使うと傷付けるので机や椅子を重石にして引張る。）
(4)練習
(5)ネットポールを外す。
(6)雑巾がけをしてコートラインを消す。
(7)机・椅子を元通りに並べる。
(8)学校側の点検を受ける。

コートの設営に30分位かかりますので、土曜の練習は2時間できれば良い方でした。

私は勤めの関係で5年ぶりに昭和58年に仙台に戻りましたが、この間婦人層を中心にバドミントン人口が大幅に増えているのに驚かされました。施設面での仙台市体育館や勤労

者体育館はもとより各小学校の地域住民への開放、組織面でも学区体協の確立と家庭婦人連盟の結成等仙台市バドミントン協会が中心となってバドミントンの普及発展に尽した功績は絶大なものがあります。

おかげで私も日曜日の大半をバドミントンで過すような状態であり年令とともに技術が落ちるのは仕方がないけれど、千葉信次さんや井上薫さんのように65才から70才位までは続けたいと思っています。

バドミントンが盛んになることは非常に喜ばしいことですが私のような古い人間には最近のバドミントンに首をかしげるようなことも一部に見られます。

例えば試合時間に遅れたり自分のコートに落ちたシャトルは必ず拾って返す、その返し方も相手の受け取る手に正確にかえす。自分の試合が終るとサッサと帰る人も居ますが一番良い試合である決勝は向上心のある人なら見逃すべきではないと思います。バドミントンは大英帝国が格調高くスポーツマン精神でつくったスポーツです。少なくともフェアに気持よく試合をしたいと思います。

色々と思い出す儘に綴りましたが、仙台市バドミントン協会の益々の御発展を祈ります。

（〒983　仙台市鶴ヶ谷8―14―16）

教えられる〝器（うつわ）〟作りを目指して

NTT東北バドミントン部
監督　田所光男



バドミントンを始めて23年、高校（日大山形）、大学（法政大学）、社会人（NTT東京から東北）と、その時の思い出がいろいろ……と。

私は、中学時代に一か月ほどのバドミントンを経験し、高校も1年生の途中からの競技で、それ以来ここまで続けられたのは、高校時代の先生桔梗監督や皆様のあたたかいご指導のおかげだと思っています。

さて、NTT東京（旧電々東京）で現役もそろそろ……というころ、NTT東北を、なんとか強くしてくれないか!!　とのことで、仙台市に来たのが（昭和58年3月）私の生まれ育った東北でバドミントン指導ができたら……と思い不安と期待を胸にしながらのきょうまで……。

現在のNTT東北の成績は、東北実業団選手権4連勝。全日本実業団選手権大会ベスト16となって、目指すのは日本リーグ入り？などと考えられるチームに……これも皆さまのご指導で育って居るNTT東北を紹介させてもらいます。

昭和58年3月にNTT東北バドミントン部に入部させてもらい、1年間はコーチ。59年から監督を……。当時の部は、愛好会という組織でほとんど練習計画もなく、週1回2回程度の練習をしている部でした。体育館に入るなり、すぐコートに……楽しみながらシャトル打ちをやっていたところに、いきなり、スマッシュとかドロップだのと技術面を指導したところ、誰も聞いてくれず、しまいには退部する選手も出てきて悩みつゞけ、どうすれば耳を傾けてくれるのだろう？　悩みつゞけた結果、教えてもらうという気持ちを抱かせるかだと……。

教えられる〝器（うつわ）〟作りを最初にしなければいくら高度な技術を教えても身につかない。それからというもの〝うつわ〟を早く作りたいと――現在に至っています。

どのスポーツチームにも言えることは、伝統のあるチームとないチームとでは、ずいぶん違うと思います。それは伝統のあるチームは、先輩から後輩に、礼儀作法、練習方法など、やっている競技に取り組む姿勢等を、受けつがれるので、あらためて〝うつわ〟作りをしなくても、技術等が教えられるので上達も早くなる!!。58年頃のNTT東北は、残念

ながら競技チームとしての歴史がなく、やさしい愛好会で、それでは強くなれない状態でした。

これから教えられる〝うつわ〟作りにもっと、もっと勉強し、早くそれを、作りあげるよう努力し、一日も早く一流チームの仲間入りをとみんなで目標を決めて一歩一歩きつつある？　と思います。

それが近くなっている感じ……。

なおNTT東北は、試合ばかりしているチームではなく、人と人とのコミニケーションを大事にするためにオレンヂ活動を一生けんめい続けています。東北の各地にオレンヂエースフォーラム（バドミントン教室）をひらき、63年度から各県協会から協力をいたゞき、NTT杯各県ママさん大会と東北大会を開催することになり、多くのご参加をお待ちして居ます。

最後になりましたが宮城県・仙台市両協会の40周年おめでとう。これから一層の飛躍を期待しています。

（〒980　仙台市米ヶ袋3―3―1―317）

満40周年を迎えて

仙台市協会副会長　井　上　　薫



仙台市バドミントン協会が発足して40年、本当に感無量です。私は笹氣幸助会長のもと、昭和42年、大岡英相氏のあと、54年に荘司達治氏にひきつぐまで理事長をつとめたあと、副会長として現在まで……。

それにしても月日のたつのは早いもので、いま40年前を回顧し、仙台市協会発足当時のことは先輩諸兄の皆様が、日夜努力、奔走されて創立したとのこと……。

現在のように施設が整備された時代と違って、終戦後の世情を考え、大変困難だったことを考え、愛好者として、改めて感謝いたします。

私のこの競技との出会いは、昭和25年市役所に奉職してからで、当時の中庭に、卓球のネットを張り、昼休みを利用、基本技術はもちろん、すべてがはじめてよ……でプレーをはじめました。

27年、県協会主催の教室が、レジャーセンターで開かれたとき私も受講者として参加、基本技術等を習い、それ以来、私はこの競技のトリコになってつい現在もコートでシャトルを打ちつゞけて、競技の奥深さを、たしかめようと一生けんめい……。

仙台市教育委員会主催の勤労者を対象とした教室がレジャーセンターで開催（45年6月・5日間）、そのあとに同好会を結成、現在仙台市民同好会（会長相原勝郎、会員百数十名）毎週1回、練習をつゞけ10周年祭に文部大臣賞も受賞。

その後一般家庭婦人の教室も開かれ（48年）、家婦同好会（眞山絹子会長）として活躍中……。また主体となって、県家庭婦人連盟が誕生。



市協会では一般社会人のための教室を45年からひらき、受講生も年々増加、当初は学校体育としての、この競技も社会体育として注目されて来ました。仙台市のはじめの頃のインドア競技用体育館は、レジャーセンターだけ……。それをカバーするため小学校の体育

館を開放、各学区毎に同好会が結成されて、普及が急速に進み、発展したことは、愛好者のみなさんがご存じと思います。その後勤労者、仙台体育館が建設されるなど、体育館の充実に伴い、仙台市協会も、新進気鋭の協会役員が一致協力して、各種大会の運営や組織の拡充に努力、年間10数回の行事が開かれるようになったことは、本当に喜ばしい限りです。

市協会も40年、これから50年……21世紀へと発展し、その頃は家庭婦人で活躍した皆さんの子供たちが中心となって頑張っていることでしょう。

40周年誌の編集に、日夜ご努力を下された、マサヤンに、また協会発展の先駆者、またよき指導者として活躍して、40周年を前にして早坂正、桜井勇、金子盤央、伊藤弘一郎、荘司達治、平井二作さんたちのご苦労に、つきない感謝の意を——。

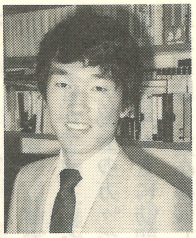
私も皆様とともに宮城・仙台両協会発展と普及のため、一層頑張る決心です。[写真]市役所の中庭で（25・12・23）うしろの庁舎は仙台市役所復興局の建物、昼休みの一コマで、周年史の資料をさがし、出てきました。ウラに〝コンニチは……38年前の私たち〟と有志の寄せ書きが……。

南京袋を着ている様だわ（富田）
今にも泣きそうなヒシゲ顔ヨシヨシ（トシ子）
スモカの廣告みたいだわ（秋山）
バドミントンのたまご（でこ）
十二月揃いも揃った良き乙女達
余はゴリラに似てるかな（鎌田）
一番左不肖の井上……。

（〒980　仙台市鷺ヶ森1—14—38）

栄光は勝ちとり
伝統は築くもの…

尚絅女学院高等学校
バド部前顧問　二瓶　真



市協会創立40周年おめでとうございます。バドミントンは全く素人に等しい私の原稿が、この記念史にのせられる!!　名誉の反面、大変お恥ずかしい次第です。

スポーツにはあまり縁のなかった私が2年前から尚絅女学院高校バドミントン部の顧問を務めさせていただきました。63年3月まで約10年間も部の顧問をつづけられた木村淑朗大先輩にご指導いただきながらの2年間でした。一昨年先輩が退職のあと、部の運営を任せられたのはよいのですが、これからの進むべき方向もなかなか見出せないまま暗中模索のうちにはやその2年間をすごしてしまいました。

ところで、尚絅バドミントン部には「この人ぬきでは部について何も語れない」という人物がいます。2年前私が初めて体育館に顔を出した日、「がんばりましょう!」と自ら握手の手を差しのべて下さった方がいました。10年来コーチ役を引き受けて下さっている佐藤正雄さんでした。私にとっての2年間は、佐藤さんを通してバドミントンの魅力と伝統という二字の重み・生徒を信頼し、その技を伸ばしていくことの大切さと難しさを教えられた2年間でした。

練習日に佐藤さんの姿が見えない日は珍しいぐらい、他のどの部のコーチよりも熱心に指導して下さる佐藤さんの情熱は私などの到底及ばないところです。自らはコーチと呼ばれることを好まず、部全員から「オイボレ、ガット張りの便利屋、バドミントンの勉強をさせてもらっているだけだ」とうそぶき(?)それでいて生徒の心をしっかりととらえてしまう佐藤さん。毎年四月の新入部のころは「ずいぶん〟とし〟とった人だなあ。」と見ていた一年生たちが、次第に変わっていきます。

技術的なアドバイスはもちろんのこと、生徒一人、ひとりの体調に至るまで常に把握していて、風邪気味とみれば秘伝の『カリンジャム』をすかさず差し入れてくれたりします。そ



3回目の東北選抜出場。一回戦にはじめて快勝を記録。二回戦千葉学院(青森)〝余勢をかって全国高校初優勝〟に悔いない完敗を……有難う……(真)

いるのです。

過去に高校、大学、国体、家庭婦人となった先輩の全国的に輝かしい数々の優勝経験を持つ尚絅バドミントン部も、昨年度は高校総体・新人戦共に初戦敗退という結果に終わってしまいました。人間的にはコーチの薫陶を受け、成長していく生徒達も、1勝の難しさを感じ、壁をなかなか乗り越えられずにいるこのごろです。原因はどこにあるのでしょうか。

昨年の夏休み、体育館に珍しいお客様を迎えることができました。東京都・太田区バドミントン協会の方々です。仙台市と太田区の協会が一年おきに訪問し合い相互の技術の交流と親睦をはかる催しで、今回は尚絅体育館がその会場となったのです。わずか3日間ではありましたが、その時の生徒達は目の色を変えてシャトルを追いかけていました。

佐藤さんも私もその姿を追いながら「ふだんの練習にこの気迫があったなら……」と溜息をついたものでした。佐藤さんは過去の尚絅バドミントン部の伝統については余り語りません。

「生徒の気質も変わって来た。新人類の時代だから」とおっしゃいます。確かに、練習の虫といった生徒は年々減っているみたい……。

尚絅は体育館が比較的大きく、コートの点れをもらっただけで生徒達の風邪もよくなった気分、といった具合。

素人のうえ、土、日曜日ぐらいしか練習に顔を出せない私などは、てんで生徒の信用がないのですが、生徒はその分、何でも佐藤さんに甘え、相談していたよう。そして3年間がすぎ、卒業の日を迎えるころには、生徒の佐藤さんに対する信頼は絶対のものになって

では恵まれているのですが、練習時間中にもコートが空いてしまうということがよくあります。その都度佐藤さんや私が「……コートが空いているぞ!」と注意しないと——。ランニングをやればいい!!。フットワークもいまひとつ、他の学校ではどうなのでしょうか。個人競技というバドミントン競技の性質上、ある程度仕方ないことなのでしょうか。

こんなことが最近ずっと私の頭に引っかかっていたのですが、この文を書くにあたり県協会創立30周年史を改めて開いてみました。そして答えはその中にあったのです。伝統という無形の財産が築かれ、引き継がれていくためにどれだけの汗が流されたかを思い知らされました。この尚絅女学院に関してもまさにその通りでした。

当時の部長平井二作部長に副の石山和男中学の先生、そして佐藤コーチを中心に部員の結束は固く、「尚絅きれいに行こう!」を合言葉に相手校がどこであろうと試合には全力を出し切り、選手達は毎日コートを奪い合うようにして練習し、部長はその調整役が大変だったそうです。パイオニアとしての自覚と自信がどの文章にも溢れています。

当時の気迫が今の選手に欠けているのは確かでしょう、私のような顧問が生徒を引っぱっていけずにいる、むしろ問題はそちらの方にあるような気がしてきました。特に平

井・石山両先生の対談を読み返してみるとその感を強くします。

平井先生の人となりについては、尚絅に事務員として長く勤務しておりました母が「いつも優しく、生徒に手をあげることなど決してなかったけれども、生徒をぐいぐい引っぱっていく先生であった。」と申していましたが、バドミントン部の部長としての先生もまさにその通りの方であったようです。

先生は今もどこからか尚絅バドミントン部を叱咤激励して下さっているのかもしれません。

63年からは中田中・宮城工・日体大でバドミントンを学ばれた大沼良彰先生が尚絅高に着任。木村大先輩は3年—4年後には全国のひのき舞台に……の折紙つき。尚絅バドミントン部が新顧問のもと再び輝かしい歴史を創造するよう念じながら、拙文を終らせていただきます。

（〒982—02　仙台市茂庭台3—2—20）

なつかしいベテラン友の会員

〝枯木も山のにぎわい〟とか……ひやがしかほめ言葉か、調べて自分にはもっともと、納得できても「現役そこのけ!!」頼もしいベテランが、両手・足のユビで足りなく他人さまをならばせて、ちょうど!!。

そんな懐しい資料が（昭和51年10月14日現在）76名。氏名、生年月日（53名だけ）現住所、電話、勤務先、電話と横書きで2枚。

12年半前のふるい、そして新しい顔でない名前、すぐ呼んで返事を聞きたくなるよう。井上薫さんが4月27日に届けてくださった。

全部そのまゝ記録として40年誌に……しかし変らないのは生年月日だけ、記入なしあり、住所、電話も同じ。かわりなかったのは宮城県内のバドミントン競技が、つねに東北を代表し、インターハイ、国体の青年、女子、少年、少女が上位進出に今一歩まで……。

協会指導スタッフが強化に献身、そのかげにベテラン友の会員の協力も忘れられない。名簿の氏名をあげ、それまでの労苦を謝し、その功をたゝえたい。（敬称略）

早坂正、佐藤正雄、蒔田修、金子盤央、佐藤己代治、荘司達治、高橋辛六郎、米田広造、井上薫、会田高陽、高田栄三郎、相原勝郎、千葉信次、氏家勇、松野昭夫、佐々木昭治、高橋吉雄、松崎新平、大岡英相、石垣白、高橋光男、尾形正彦、千葉正寿、渡辺剛、水谷政雄、佐々木秀夫、杉谷利昭、竹内光雄、河角良臣、浅沼吉男、千葉雅正、伊藤俊男、杉田光男、大友一男、高野眞弓、佐藤健一、奈良坂孝、野島義、川名雄二、山田養三、生田仁紀、朝野嘉造、三浦晴介、木村順芳、梅田昌胤、新田隆雄、植野策千、高川共夫、蕪武修一、平井二作、木村淑朗、守口恂、日下秀夫、千葉竜、市川八郎、瀬戸寅雄、矢内信、瀬野尾秩、真山泰、熱海文雄、坂本利行、引地新一、小川昭武、高橋克雄、岩松正人、佐川善信、佐藤修、関正宅、中村隆、後藤忠宏、浜畑莞爾、石持亘一、高橋貞男、菅原保、八島元。

45歳からのスタート

会田泰子



バドミントンのラケットを初めて握る事が出来たのは昭和48年9月。私が45歳の時でした。それ迄バドを趣味としていた主人が、ある日スポーツセンターに行き、当時主婦のバド教室のコーチをしておられた奈良坂孝先生にお会いし、実際に教室を見て帰った日の事です。

「お前にも出来ると思うから行ってみて、体を動かす事は良い事だよ。」とスケジュール表とラケットを手渡されました。それ迄書を趣味としていた私は、主人が日曜、祭日等朝早くバドの試合に出かけると、今日は一日ゆっくり書が楽しめるわ。と廊下一面に、お手本、

紙、硯、下敷等を開げて、一日中筆を持っているのが何よりも好きだったのです。書の先生にも「一生続けるつもりですからよろしく。」とおねがいして居ました。

それがスポーツセンターに行った日から、バドの虜になってしまったのです。当時は50名足らずの教室で、すぐ入会を許されました。奈良坂先生と尚絅のOGの鈴木京子さん（現田中さん、千葉在住）が指導に当っておられました。そして翌年の秋第二回宮城県主催の主婦の大会に出場し、高く上げた私のサーヴが全部打たれて、たった一回の試合だけで、すごごと家に戻ったのも、つい先日の事のように思い出されます。当時の県大会はまだ個人試合でした。

その後、レジャーセンターにも、市主催主婦の同好会わかば会がある事を友人より教えて頂き、そちらにもゆく事にしました。真山絹子会長に武田道子、佐藤光子、沼田桂子さん等が佐藤正雄コーチのお手伝い。こちらも盛会でしたが、すぐに入会させて頂きました。蒔田修、井上薫、氏家勇先生が時々おみえになっておられました。

そこで私は佐藤コーチにがっちりハイクリヤーの大事なこと、それに打点を出来るだけ高く、しかも前方でという事をこの時覚えました。つづいてドロップ、スマッシュ、ネットすれ／＼のサーブなど……正雄さんの声は、いつもレジャーセンターに響き渡り、「ラケットを正しく握っているか。」「バードから目を離すなよ」。「クリヤーは……バックラインぎり／＼までとばせ」。よくも……と思われるほど……。

ある日ハイクリヤーをお願いし、途中疲れた私は打つのを中止した事があります。正雄さんはびっくり目を丸くして「どうかしました?」「もう疲れました、少し休ませて下さい」。

夕食のとき主人に語りましたら〃バカヤロウ!!と怒鳴られなくてよかったね。とニコニコでした。大声で「バカヤロウ」。と叱咤激励なさるのは正雄さんの〃クセ!!でした??

当時、クラブが小学校のブロック単位でも生まれ、私は上野美穂子さんの先達による南小泉小クに主人と共に入れて頂きました。土曜か日曜日の午後、水曜日の夜と一週2回は殆ど休まず通いつづけ。

その頃、荒町学区は小原照子さんが尚絅時代のパートナー大木玲子さんを加えて発足、連坊学区は三浦さん（国鉄）が蒔田先生、牧田さんとご一緒に……南光台は佐藤貞治、小室さんご夫妻と、黒松は金森まき子さんが佐藤正雄さんをコーチに、将監は安積隆子さんが奈良坂先生の指導で、それ／＼発足していました。

主人（会田高陽）が以前から県協会、市協会の役員をしたせいか皆さんが「二人で遊びにいらっしゃい。」と。私共は喜んで時間をつくり、いろ／＼な所に出掛けては、コートに入れて頂きました。

少し経験のある主人は、新らしい会員との基礎打ちのお手伝いを……。私はゲームを楽しませて頂き、お世話する方々に大変お世話になりました。各学区のクラブの発足にまとめ役に随分と苦労された事でしょう。

初めは学区対抗試合に出たくとも、人数が不足でという声も聞かれましたが、今では各学区も人員が多く、練習日に体育館でゲームが出来ないとの声も聞かれ、それにご夫婦での参加も多いとのこと……。荒町、南光台、黒松、将監の方々からは、何年記念大会とか、お花見、芋煮会等にも招かれ、皆さんそれ／＼が馳走を用意され、ご恵与に預る事ができたのも忘れられません。

一方主人の参加していたベテラン友の会にもお仲間入りさせて頂き、こちらも日曜、祭日にはレジャーセンター、森林スポーツ公園（秋保）での親善試合が行なわれ、パートナーは当日、参加者全員が集合して、くじ引きできめられ、私のような初心者と組まされた方は内心今日一日は諦めと、観念?されたことでしょう。今この紙面をお借りして御礼とお詫びを申し上げます。でもその日、私は精

一杯プレーする事で一日を楽しく過させて頂き、いつもと違うシャトルの動きに驚いたり勉強させて頂いたり致しました。

ベテランの会は、当時荘司達治さん他たくさんの方々が協力、お手伝いされ、荘司さんも、ときどきプレーを……。ご不自由なからだでしたが、上手に動かれていらっしゃったのが瞼のうらにクッキリ残って居ます。この頃佐藤正雄さんはプレーはされず専ら写真を撮っておられたように思います。

私のバドミントンへの情熱と興味はます／＼エスカレートして、東北大職員クラブ員からもお声がかゝると、中央体育館へ主人と出掛け、さらに松島の青少年野外センターや鳴子の共済宿舎の合宿にまで参加しました。

埼玉の海のない土地で育った私は、合宿中に皆で海岸をサイクリングを……。奥松島までモーターボートで眺めた景観は強い感動を覚えました。鳴子では日本晴れの雲一つない青天の、周囲一面が紅葉の美しい時、潟沼に舟を浮かべて遊び……。バドの練習以外にも、楽しい時間を持つ事が出来ました。第二次世界大戦中に、高校生活を送った私は、高校の教室内に陸軍被服省のミシンが運び込まれ、そのミシンで週5日は軍服の縫製作業、週1日だけが学生らしく勉強の出来る日だったのです。月に2回は日曜日も登校してミシンを踏み、このような状態でスポーツなど全くの夢？、このバドに夢中になれた40代50代は、正に私の青春時代のようなものでした。

当時の主人は東北大バド部長と、県実業団会長を兼任。いつもよくも飽きもせず……と思いながら……話をきゝ、そのうち私がコートに入るようになる技術のことをそれとなく解説してくれたり、誰と誰と組んで相手が誰と誰なら何点とれるか？　等、話題が全くひとつに……。

幸い怪我も病気もせず、家に文句を云う人もおらず、週に3～5回は自転車で、又主人の車で一緒にゲームをさせていただき、どれ程有難く幸福だったかわかりません。

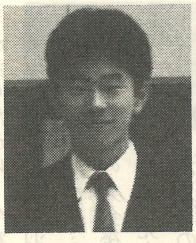
昨年主人が東北大で定年を迎えて、青葉会館（東北大）で工学部のバドの方々からの会を……、艮陵会館で東北大職員クラブから、また東京のホリディ・イン・東京で（5月）東北大バドOBの皆さんから主人と私も招待に預り、大勢の皆様と楽しい時間を過させて頂いた事は、終生忘れ得ない思い出となりました。

皆様……これまでお世話を頂き、本当に有難く厚く御礼を……。そして皆様の今後のご発展をお祈り申し上げます。

（〒980　仙台市中央4～7－25－1208）

学生よ頑張れ!!

東北学連委員長　柳原浩司



宮城県・仙台市協会40年史発行、おめでとうございます。

私が東北学連委員長を務めた62年度には、仙台でインカレを主管（10月）しました。学連としても記念すべきこの1年間に学生界ではどのような選手が活躍していたのか、日頃お世話になりっぱなしの諸先輩方に知っていただく意味で、書きつらねさせていただきます。

第34回を数える東北学生選手権大会（5月24～29日）は石巻総合体育館で開催。浜畑さんをはじめ、大会準備にご尽力いただいた石巻協会の方々に深く感謝します。

さて試合内容ですが、男子シングルスは、前大会で優勝の佐藤さん（宮教大）が卒業、全く予想のつかない状況で、その中で上位に顔を見せたのは三季連続ベスト4入りを果たした海老沢（仙台大）軽快なフットワークがもち味で秋の大会に続き4強入りした金子（山形大）61年の新人から頭角を現してきた高橋（宮教大）。最後に全くのノーシードから勝ち上がってきた鈴木（福祉大）。団体リーグの単

でも一度も登場せず予想外の快進撃で同校の先輩早坂を破っての準決勝進出。4人が皆、つないで勝機をつかむタイプのプレーヤーなので接戦が予想されたが、その通り2試合ともファイナルにもつれ込む大激戦。安定した力をもつ海老沢に対して急成長株で実力が未知数の高橋がいどみ、追われる立場の不利?、ポイントを思う以上にとられていく海老沢は冷静さを欠きネットミスを連発するなどしてファイナルの末自滅した形で高橋に屈した。一方の準々決勝で福祉大の強敵目崎を圧倒し、4強入りした金子は、福祉大同年の鈴木と対戦。これも長い試合になり、最後はチャレンジャーとしての気持ちが勝ったのか鈴木に軍配が……。

決勝は、初顔合わせでどんな試合展開になるのか本人たちも役員一同もつかみどころのない状態。双方の応援が広い体育館の中にこだまし、決してセンスのいいプレーを見せるわけではないのに、とにかく点をはなされまいとする高橋のねばりの根性には共感を……。そしてすがすがしい、きれいなプレーをする鈴木には、これからの東北の学生をしょって立ってほしいという大きな期待がいっぱい。すばらしいラリーの応酬で、結果は鈴木に軍配が上がり、初タイトルを手にした。

このチャレンジしていく精神を純粋に心に保ちつづけていてくれれば、今後の成長も期待できる存在!!。

女子のシングルスでは秋田短大と東北福祉大の対決の感が強い展開になり、福祉大の包囲網を破って秋短の嵯峨なつ子とやよいの姉妹が準決勝に進出。対して福祉の江川と西巻の両エース。江川は昨年から実力をつけた姉なつ子にいい所なく破れ、嵯峨やよいに西巻がパワーで押し切り決勝進出。

決勝では互いに一進一退の攻防の中で嵯峨(な)が1セットの接戦をものにし、2セットはダブルスの疲労からか西巻の動きが鈍り、するどいカットをひろいきれずに惜敗。ダブルスも、嵯峨姉妹と江川、西巻の対決で江川組が快勝した。

▼男子シングルス準決勝

高橋秀典(宮教大) 2—1 海老沢孝一(仙台大)
鈴木理之(福祉大) 2—1 金子孝宏(山形大)

▼決勝

鈴木理之 2—1 高橋秀典

▼女子シングルス準決勝

嵯峨なつ子(秋短大) 2—0 江川千代(福祉大)
西巻恵子(福祉大) 2—0 嵯峨やよい(秋短大)

▼決勝

嵯峨なつ子 2—0 西巻恵子

▼男子ダブルス準決勝

早坂・岩崎(福祉大) 2—1 金子・平(山形大)
二階堂・高橋(宮教大) 2—0 伊藤・山野(学院大)

▼決勝

二階堂・高橋 2—0 早坂・岩崎

▼女子ダブルス準決勝

嵯峨・嵯峨(秋短大) 2—0 佐藤・渡辺(福祉大)
江川・西巻(福祉大) 2—1 大森・田村(秋短大)

▼決勝

江川・西巻 2—0 嵯峨・嵯峨

38回インカレを仙台市体育館(62年10月)にて開催してほっと一息つく暇もなく東北の秋季大会を迎え、第8回を数える会長杯争奪選手権大会が郡山市にて開かれた。

男子シングルスは、秋田大の小沼が苦戦をつづけながら、準決勝に進出。パワーがあり、速いスマッシュが得意。しかし試合内容にムラがありながら、今季は絶好調。対するは福祉大の目崎。丁寧な羽根まわしと小さな身体に似合わないスタミナが持ち味のプレーヤー。彼はこの大会後の学生東西対抗(東京)に東北代表で参加。見事1ポイントをあげ、6—5で辛勝した東軍の原動力になった。小沼—目崎の試合は、小沼の勝機は薄いと見られたが、小沼はたえず丁寧にプレーしてスキをあたえず、下馬評を裏切って、小沼が決勝進出。一方の準決勝は、春の覇者鈴木—常連海

老沢が激戦を展開。団体戦の第一単であたった時は、海老沢が足のケイレンもあって鈴木が勝ったものの、この日は海老沢の両親が観戦、気合が入り、むき出しの闘志で貴重な1勝をあげた。一年の頃から決勝に進出しても優勝なしの海老沢のチャンス。

試合は意外な程の接戦で、小沼はたえず低いフォームで、拾いまくるという作戦。海老沢のスマッシュは深くリターンされ、見ている全員が小沼の素晴らしい成長にびっくり……。勝負の決まった後に、先輩伊多波に一礼したまましゃがみ込み泣きじゃくる小沼の姿に、言葉では言いつくせない感動があった。

今季を制したのは秋田勢だったが彼らを打ち破ろうと宮城の学生たちも奮起して次季を目指していることだろう。

私はこの春卒業し、県を離れ札幌へ……。わが学生界は上昇の気運にあると確信し、地元開催のインカレで上位進出を果たせなかったことは誠に残念だが、これを一つのステップとして7年後に再び開催される全国大会でかならず目ざましい活躍をしてくれる選手が数多く出場してくれることを信じていることを……。

▼男子シングルス準決勝

海老沢孝一（仙台大）　2―1　鈴木理之（福祉大）
小沼登志美（秋田大）　2―1　目崎幹生（福祉大）

▼決勝

小沼登志美　2―1　海老沢孝一

▼女子シングルス準決勝

嵯峨なつ子（秋短大）　2―1　江川千代（福祉大）
嵯峨やよい（秋短大）　2―0　西巻恵子（福祉大）

▼決勝

嵯峨やよい　2―1　嵯峨なつ子

▼男子ダブルス準決勝

鈴木・目崎（福祉大）　2―0　松永・佐々木（仙台大）
佐藤・海老沢（仙台大）　2―0　金子・那須（山形大）

▼決勝

鈴木・目崎　2―0　佐藤・海老沢

▼女子ダブルス準決勝

江川・西巻（福祉大）　2―0　大森・田村（秋短大）
佐藤・渡辺（福祉大）　2―1　嵯峨・嵯峨（秋短大）

▼決勝

江川・西巻　2―0　佐藤・渡辺



（〒981　仙台市滝道19―8）

なんでも教えてくれた荘司さん



高川共夫

仙台市バドミントン協会創立40周年おめでとうございます。私がバドミントンを始めてから色々な人達と知り会いになれ、本当に勉強になりました。

精神的な事を、技術的な事を、酒の上手な飲み方を……。私より年上の人でもていねいに聞いてくれた人々の中でバドミントンのコーチと酒の飲み方を指導してくれた故荘司達治さんの事を書かせてもらいます。

荘司さんはうれしい時やおもしろくない時は飲みます。そんなとき、「高川これから寿し本に行くぞ」、と連絡があって同行。荘司さんは冷や酒約二合、私はビールでにぎり寿司で飲みます。

荘司さんと初めて出会ったのは昭和44年6月のころ。藤崎となりのスポーツ店で、バドミントンのラケットがあるだろうと？　見に行ったのが、腐れ縁で、「バドミントンをした事があるか」、と聞かれ、「試合に勝った事がないが高校の時していました」と答えたのを覚えています。

お盆中に古川の高校3校を借りて国体予選兼県民体育大会にさそわれ「私の実家はとなりの岩出山ですが……」。「それなら二部に申込みしておくので、当日ゲームの用意して行くよう……」とのことでした。

試合の相手は忘れましたが一回戦は確かに勝ちました。二回戦は相手に30分以上も待たせられました。その時の審判は高校生、進行にウロウロするばかり。

「棄権して帰るよ」と言ったらあやまられ、待ったあとはの結果は軽く負け、審判をして家に帰り、高校時代の友人、中森茂夫君と飲みました。

その後は荘司さんとつきあうようになってからバドミントンが大変おもしろくなり、勝っても、負けてもその過程に興味をもち、反省も覚えました。

十数年前に荘司さんから「市協会の理事をやって見ないか」と……、私はなにか目立ちたかったか？　承知、その年度の理事会で米田さんが監事、私が理事を承認してもらったのです。

荘司さんとは西多賀ワークキャンパスでの講習会で講師は井上、佐藤(己)との4人。栗駒町では荘司、平山、二回目は佐藤正雄、松崎さん、津山町では荘司、石垣さんなどでした。

思い出に残っているのは第1回日中友好大会、日英大会、日欧対抗等の世話係。会社から特別休暇をもらって会社に出勤する時間以上も早く七時前から夜中の十一時まで、よく体力がもったものだと感心しています。

日中バド大会の時は自動車の後ガラスに日中大会役員車と書いてあるのを承知、中国選手たちが乗車しているのを知りながら強引に割り込み、なぜ割りこんだかというと、氷と容器を買って選手達の注文に備えておくため……。

もうひとつは一番町の花屋さんが開会式十分前にもかかわらず花束が届いてなく、どしゃぶりの中を走りに走ってたら……行きちがいで届いたあと……。中国選手について感じたのはバドミントンを楽しみながら練習やゲームをやっていたことです。ドロップレシーブの時などはパートナー同志で取りにいったり、ハイクリアの時は二人でバックまで下がったりしていました。選手たちは大会前日の歓迎レセプションではアルコールを一切口にしなかったようです。その代り団長さんが一人でがんばっていたようでした。

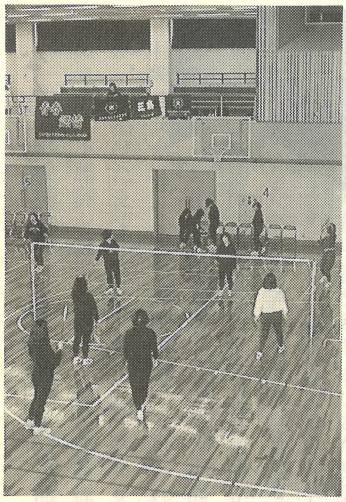
日本選手団は地元の人、高校、大学の先・後輩、同期生がいるためか毎晩大変なようでした。地元役員の人達は早朝から夜遅くまでご苦労さまでした。こういう人達とバドを通じて知り合いになれたし、業者のよし、あしも見せてもらって大変勉強になりました。

荘司さんと別れて、もう7年になろうとしています（母の亡くなる2か月前で生涯忘れないことでしょう）。会社の早番で仕事中に佐藤正雄さんから電話が……。仕事が手につかず、はやく帰って線香をあげたいと思うとミスが多くなり、職場の人達には迷惑をかけました。ようやく三時になり急いで会社を退社してそのまま川内亀岡の荘司家に着きました。あいさつもろくにしないですぐ線香をあげさせてもらいました。

最後に一番迷惑をかけた私が一番まっ先にかけつけなければいけないのに、おくれて本当にすみませんでした。

片平体協バド部主催の片平地区対抗大会にも二、三回開会式にも出席いただいて大変ありがとうございました。荘司さんの意志どおりに各連盟、各協会みな一人立ちしました。

(〒980　仙台市片平1－6－6（いこい荘）

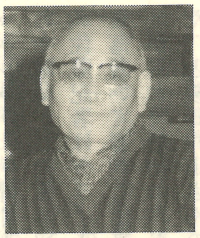


宮城

宮城県 仙台市 バドミントン協会は「双生児」

創立―発展―40周年史の発行

宮城県バドミントン協会
顧問　蒔田　修



◇双生児誕生

県協会30周年史を繰り返し読んでいるうちに、同じことを書かないように何か変ったことはなかったかと記録をたどり、記憶を呼び戻してみた。

こんなことがあったのか、試合はこのように行なわれたのか、こういう人がいたのか、あの人はその当時こういう試合をしたのか、となつかしんでもらえるようなことを書いて見た。

宮城県バドミントン協会年譜には23年6月に発足したとあるがバドミントンはその6年前すでに「羽根打ち」されていた。これは当時河北新報の佐藤正雄記者が、なつかしく、面白く語ってくれた、佐藤氏の話は、いつでも、なんべん聞いてもあきない。

人間にはよく〝双生児誕生〟ということを聞くが、県、市協会がともに23年に創立されたのは、たしかに〝双生児誕生〟で誠に目出度い限り……（東北では最初）生みの親・育ての親の苦しみ、喜びは察して余りある……。

地元紙が組合せ、成績まで、予想から評までを紙面に、小島国男―荘司達治氏がこれまでの全スペースを計って広告料で計算したら!?オクをクリアしている？　と……。

県協会創立後、市協会のスタートは規約・役員決定に時間がかかったが宇津志教育長、笹氣幸助（現・仙台市協会長）佐藤隼夫、京極冬蔵、金子盤央、大久保孝也、佐藤武雄、針生友好、黒沢充の皆さんが奔走、苦労して、格好をつけ、西公園にあった公会堂で（仙台市スキー連盟と同じ日）みんな頑張ろう!!と声と拍手で、協会活動をはじめた!!。

◇市民バドミントン大会

仙鉄教習所に用具一式が局から配給され、自己流でも面白く羽根打ちが出来たのは、天井の高さが5メートルで広々とした講堂があったのでルール・フットワーク、打ち方も知らないまゝ。しかし地元紙主催の講習会（五橋中）を見学、仙鉄局主催で集合所（東北学院高南）に金子盤史、伊藤弘一郎氏の指導をうけ、本格的な練習をはじめ上杉小講堂での市民大会（25年？）に参加したが高く飛ばされた羽根を全部から振りするだけ、結局3回戦まで……。メンバーは畑中、蒔田組、菊地、福島組、佐野、菅原組であった。

そのあと昼休みに藤君（宮城工）がときどき練習に加わり、みんなが相当に上達した。東六小講堂での市民大会（26年7月）で畑中、蒔田組が優勝の宿望を果たした。この時の畑中のネット前での「壁ぬり式打方」に、相手は手も足も出なかった。

その後、正木、千葉、水谷、古賀君など東北大の強豪が挑戦してきたが、畑中、蒔田組、菊地、福島組には未だ及ばなかった。これは天井が低く羽根がバチン、バチンと天井にタッチ、私達の打った羽根は天井スレ〳〵、しかもスピードがあったので、学生達にはタイミングが合わず〳〵いやらしい……と首をかしげるだけ。これは今でいう、スライス・ドリブンクリアであった。

翌27年の国体、バドミントン競技は東北大体育館（仙台市）で行なわれた。この国体開催に伊沢平勝会長、千葉竜理事長が庭球協会に、その後任に常松喬会長、荘司達治理事長となって、県・市協会の役員が一丸となって大会運営に、郷土を代表する選手達も、男子は市役所、国税局、通産局、地方検察庁、S

PB、郵政、仙鉄教、東興、電力、東北大、仙二高、宮城工……。女子は常連の尚絅に常盤木、七十七、郵政局など……大活躍をしてくれた。

◇バド競技初めて電波にのる

第4回全日本学生選手権（28年・東北大中央体育館）で、蒔さんは（このあたりから田の字ぬき）公認一級審判員だから倍以上やってほしい……とおだてられ、その気にさせられ、決勝まで。NHK担当だった佐藤記者が奔走し、日バから派遣された村山幸雄理事（現・事務局長）と倉庫から卓球台を運び出し、決勝審判をしていた私のうしろでNHKアナの前口上のあと、マイクを前に村山—佐藤氏がノンビリ対談。クリアが、ドロップが、スマッシュが……聞く人には見えないラジオでの中継に、ご両人ノンビリ……芝居っけの多い佐藤記者はガラ〳〵のバン声……うるさくて落着いて審判も出来たもんじゃない!! これが日本で最初のバド競技が電波で伝えられた、と後日村山さんの述懐……。

その後、東北大中央体育館でのインターハイ、どの種目も名物の「タナバタ」とダブらないよう（宿舎その他の関係）、ところが、仙台で見せるのはこれしかない！ と佐藤記者一番丁筋の各商店主をつぎつぎと頼みます、おがみますと！ 最初に西堀薬局主人と彩華（伊藤）を口説きおとし、更に村上、猪股、上野さんなどゴマスリ手よろしく、開会式前の練習をガッチリ制限、大会役員がトラックで運び込み、名物「七色（ないろ）のたなばた飾り」体育館の特製ステージ上に10数連!!。

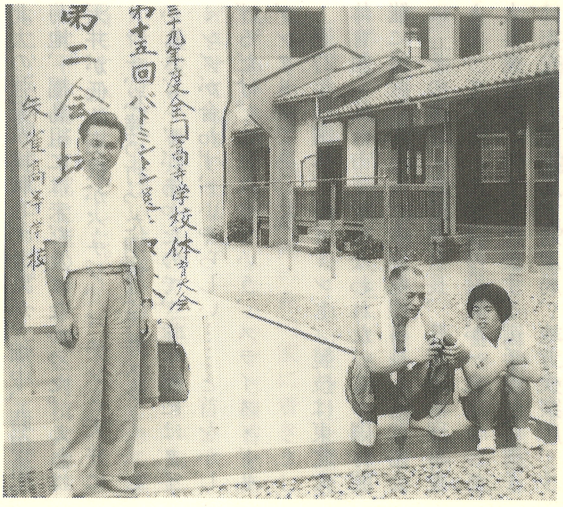
開会式は南入口から入場の選手が大歓声!! 写真撮影を式終了前の注意をよく守って、めでたく閉幕県外の役員、選手はさすがに宮城県協会と絶讃の拍手……。佐藤記者の生み育ての責任だけは！ の「心意気」に成程と頭がさがった。

こゝで大事なことを思い出した。それは浅野喜代治県協会長に、とんでもないことの後始末をお願いし、少なくとも一週間はかゝるものと覚悟してたら、その日の午前から、翌日の午前5時まで、会長宅で白熱した議論をかわし、明るくなるまでカヲル夫人に面倒をかけ、結局は責任をとるのは会長のこの浅野だけ!! その日のことはその日に、つぎの月から来年に、その仕事を残さないよう！ そのためには自分自身のできることを知ること。これが私の人生観ですと明言。10年もきびしく見つめたら、そのあとは優しく見守ってやりなさい!! と……。いらい私も少しでも、こんにち只今に悔のない、としよりのなんとかと云はれてもニコ〳〵の毎日を送らう……と。

◇あの人！ この人！

今若い人達は新人類で我々成人、壮年、熟年組は旧人類!! おまけに過去の人？。しかし過去があって現在があり、未来につながるんじゃないかな!!。

金子盤央は戦時中南方で本格的にバドミントンをマスターし、しかも野球の打者でいう右・左手で打つスキッチ・ヒッター!!。我々に華麗そのもののプレーを見せてくれた、パートナーは伊藤弘一郎、このコンビが相手だと全くのお手あげ。伊藤氏が前、金子氏が後方から大きく打ってくる、それを大きく打



ち返えせずネットへ、まち構える伊藤氏の一打で決められる。

これは同じ調達局勤務、部員だった菅原保氏（現市協会理事長）も百も承知の金子選手だけの「タイム」作戦、疲れてくると、すぐ「タイム」コートの後方で真赤なバスタオルで汗ふきを……長時間！。これで相手は気抜けファイトをなくし、プレーはいつも負け、金子氏を「真赤なバスタオル」と命名、審判もあきらめた。そのうち図々しく金子氏の先手をとり「タイム」しかもまだ／＼と、何年目だかでようやく勝った!!。ふるきよき時代？。

荘司理事長は国体後、つぎつぎ各種大会を企画実行し、その手足に佐々木秀夫、正木繁次、千葉茂、古賀邦彦、瀬戸実、寅男兄弟、桜井勇、奈良坂孝諸氏が思う存分の手腕を発揮してくれた。

荘司氏のプレーも、なかなかのもの！　相手をくったプレーだった。ダブルスで「それそっちに行くぞ！　あっち／＼！　前だ！　後だ！」と声をかけ、相手もついその声にコートを走り回される。すばらしい攻め？、テクニック？　での指導方法と思った、そして勝っても、負けても「アハハ……」と笑った、審判にしても同じ、白い手袋でのコールも明快にゼスチャーを入れてプレヤーの納得のいく審判振り、随分と教えられた。

第10回東北大会が盛岡市（33年）で行なわれた。台風に見舞われ北上川が増水し盛岡駅手前の鉄橋上で約2時間も停車のろ／＼と駅に到着。佐藤正雄記者は取材を兼ねて午前中に盛岡に、私と、早坂正氏の率いる検察庁の面々に、寺島稔氏（通産局）など正午過ぎ、仙台駅正面の時計の下に集合、待ちに待ったが早坂氏が見えない。



「僕だけが外で待っている。みんな乗車しているよう」駅玄関前で内心イラ／＼、本人ニヤニヤで来た「いやあ！　遅くなって……大事な客が来たので……」。二人で列車に駆け込む、みんなから「課長何して来たんですか……」とひやかされ、私にだけ「実はな見送りに来たので、なぐさめて来たんだ」と、相手は誰も知らない。

宿舎で先着の佐藤氏と寺島氏に話したところ、3日目の準決で、相場・石郷岡氏（秋田）と対戦、早坂氏ばかり攻められる、予想、ところが、早坂氏、身も軽く前後左右にとび回ってバードをさばき、コートサイドの佐藤氏や佐々木秀夫氏や多くの応援団の目の前で、遂に宿敵秋田を破ってしまった、佐藤氏からひやかされたが、優勝の裏には一つの笑話があったとは!!。

◇ベテラン友の会発足

県・市の大会に参加して一回戦で負けて、ハイサヨナラではつまらない。我々ベテランだけで楽しみの場をもちたいと悲痛？　な声があがった、荘司さんは笑いながら賛成、早速レジャーセンターに集合（29年12月9日）と決った。佐藤記者は河北新報社編集局長尾形順次氏から優勝カップ（〇氏杯）を戴いて来た。試合前に担当役割を決めた、会長に早坂正、庶務会計に桜井勇、使用会場レジャーセンター、会費月百円、試合費用は別途徴収、会費の使途方法は県協会主催にかゝる選手権大

会、国体出場選手団に対する費用の一部援助、試合は年4回(春夏秋冬)、シングルスの個人リーグ(連続優勝なし)のちにダブルスに変更、組合せは当日会場で行う、年齢満35才以上の男子。会員も増えてきたので、カップをもう一つ「敢斗賞」とし、受賞した人は次の試合の当番とした。

この「ベテラン友の会」の活躍ぶりが県外にもきこえ荘司、マサヤンのお世話で東京都大田区協会理事長菅原幸雄氏(宮城県築館町出身)と親善交流試会をもつようになった。

こゝで桜井勇氏のこと……。彼は仙台地検事務官で大のバドキチ、世話好き、温厚な性格で子供好き、大会などではいつも正面にいて進行係、終ると試合に関する一切の書類をまとめ、バードをかたづけ本部まで運んで行く、遠征などでは優勝杯などまとめ大風呂敷で包んで運んだりして皆んなの面倒をみてた、荘司理事長は、そのうしろ姿を指さし「ホイトの行列のオヤカタ……」と、ほめ、拍手していた。

昭和41年の国体(岐阜市)一般男子高橋祥允、植野策千、後藤忠広、森明男、真壁幹男それから渡部紘一を連れ、私が監督として参加、米屋町の生田歳計様のお宅にお世話になった。生田様はじめ町内の方々のお世話には感謝の言葉もなかった。

全国理事会の席上、理事長から「開会式には協会旗を持って入場して下さい」とのお達し、持って来てない県は困った、私も困った宿舎に帰るなり会議の模様をお話し、植野、森君に萌黄色の布を買ってきてもらい、それに生田様のお父さん(書道の先生)にお願いして「宮城」と書いていただき、協会旗とした、開会式は植野君が旗手となりこの旗をかゝげ堂々と入場行進をした。

◇深夜の激論

月日は忘れた、理事会の帰り、寺嶋稔、井上薫氏と私三人連れ立って、協会運営のための登録料等の話がもつれ、一番丁の喫茶店で激論、「カンバンですから……」と云われ、一番丁を話をしながらキリンビール前まで来て夜中の12時頃まで「アーでもない、コーでもない」と激論遂に結着を見ず別れた、これもやっぱり協会を思えばこそだった。

(〒983 仙台市二軒茶屋6—11)

大岡英相

真壁幹雄

対談

宮城県仙台市協会の回顧と展望!!

〝アッ!!という間の十年……ひとむかし〟昭和53年に宮城(仙台)バドミントン協会創立30周年をかぞえ、今40周年。50周年も日一日と近く、21世紀へ—飛翔する一瞬が近くなって居る。協会40年を、県社会人大岡英相会長、真壁幹雄県理事長に先輩たちの偉業を語り合ってもらい、その労苦を偲び謝意を……。これからの前進になによりの参考にしていただきたい。





大岡 十年前に創立30周年を祝った!! その間なにをして居たと聞かれると、返答のしようもなく申しわけない。

真壁 全く同感です。この創立30周年を前後に大先輩の中村隆理事長に〝真壁君よ、高校—大学で世話になった協会へのおかえし頼むよ!!〟とやさしく云われ……びっくり仰天……もう10年。

大岡 敗戦後に地元紙が新しいスポーツのバドミントン競技を普及させようと慶応大の選手を招待し、五橋と上杉中の講堂で講習会が開かれ、珍らしさに受講した子供のころの思い出として残っている。そのころ野球もやっていたが、いつも審判をしていたのが荘司達治さん。長町の会社をやめて仙台駅前のスヤ

運動具店に……こゝからバドミントンの競技、審判、指導、協会運営と永いつき合いがはじまった。

真壁　中村大先輩に〝クン〟をつけられて呼ばれたのは高校を卒業した直後から、それまでは叱咤激励!!　走り込み、うさぎとび……いくらふりかえっても知らんふり。高校を卒業したらもうオトナ。みんなにクンをつける。これには気付かれないよう両手をあわせ、頭をさげました。

大岡　宮一女のコーチに、中村―大岡のコンビで指導をたのまれた。ふたりとも最高のデブ!!　コートに入るからには……一か月以上もかかった白のパンツで、3時間ほど入れかわり立ちかわり。ふたりでこんな苦しい練習したことない!!　しかし久しぶりにスッとした。礼にシャトルを贈った。

真壁　中村大先輩に対面をしたのは東北学院大を卒業、県協会創立30周年の直後。はじめのお礼がえしと、競技（2年）指導（6年）の委員長、そのあと現在の理事長。どっかから声が……耳をたてる時が……。

大岡　決められたことを守るのがスポーツだと非常にきびしかった。その同じような先輩が二人!!。尚絅の平井二作氏と検察庁の早坂正氏。国体東北予選の県代表選考結果で、荘司さんと二人、教育とはどんなものか教えられ、早坂さんには言行一致をさかんに……。

真壁　植野策千先輩が、ある高校の練習を見に行って、走り込みが足りない。コート内のフットワーク、ラケットの素振りをしないから……とつめ寄ったら「なぐるんですか、やってみなさい!!　顧問、校長に報告する。そんな苦労してまでうまくなりたくない!!」ひらきなおられ、いう言葉もなかったとか。

大岡　これはスポーツ全般に共通しているみたい。今のこどもたちは相手に勝つためにはどうしたらいいのか考え、練習することよりも、苦労するのが嫌だ!!　うまくなるための自己管理をしたがらないようだ。

真壁　小―中―高―大学のほかに体育館が増設され、一般開放が多くなって、現在の県協会登録会員は社会人六五〇、実業団四五〇、婦人一〇〇、教職員一〇〇。全国でも上位を占め、大変うれしいことだが、試合前後の会場整理などマナーがよくない。特に中・高校生の終了後に、役員がビニール袋を買って、もちかえることが多い。

大岡　協会創立のころは登録会員が全国のトップクラス。そのあと登録を敬遠されての大会運営はいつも赤字。中村、木村、大岡と三人で目くばりして一万円づつ出し合った……。今ようやく会員が自覚、登録をしてくれる。中村、荘司さんに借りをかえしたい……。

真壁　県下の高校―大学ではじめたのはいつころから――



大岡　古川女の鴇田正男先生が、昭和21年ころから教えはじめ土田、鎌田、若松、大場など優秀な選手を育てゝくれた。国体のオープン競技のとき、金子、瀬戸兄、市川さんなどと出場したが技術の差にびっくり。帰仙してから兄の保典などと練習にはげみながら、宮一女、三島、常盤木、白百合などのコーチ。28



年になって第4回全国高校選手権（山形）で尚絅の谷津、西堀、佐藤、松本、千葉が本人たちもびっくり、まさかの全国制覇を成しとげてくれた。その時の部長さんが平井二作先生。すぐの（10月）第8回国民体育大会（善通寺）では浅野喜代治会長が選手団長、一般女子の土田、鎌田、同男子の私たちは善戦むなしく……そのかわり、高校女子（宮城・尚絅女）は、準決勝神奈川、決勝善通寺一と語り草になるほどのシーソーゲームを展開、郷土にはじめての「優勝」をもたらし、35年をすぎた今でも浅野名誉会長は「そろっての小がらなのに、とんでもない大偉業をやってくれ、生涯忘れない!!」自慢のタネ。

真壁　このときは東北大の正木、千葉、水谷、佐々木、山本、村守さんが参加。

大岡　仙二高で軟式庭球から転向、仙二―東北大の黄金時代を築きあげ、高校では育英、白石、宮城工、東北、学院、常盤木、宮二女、聖和、古川女が打倒尚絅を目標にそれぞれに技術の習得に努め、指導者も充実していた。真壁君が育英に入ったとき、中村隆大先輩が主将でその下に……

真壁　いま思い出してもこわいほど……後藤、植野、浜畑……かぞえたら……高校総体のとき長島、守屋、佐藤、小畑、沢藤、真壁……荘司さんに地元紙の予想では、真壁の活躍しだいで育英の優勝となっている。頑張れよ!!　のはげましに、すっかり固くなって、つい白石に優勝をもち去られ、後藤監督の前に全員立ち往生。荘司さんに真壁のチョンボーと指さされるなど……。

大岡　それから育英の練習が一段ときびしくなった。

真壁　そうです。とにかく大会場はいつも育英高。当番校は朝早く、夜おそく、全員クリクリの坊主頭、入学してから8月までは先輩と話もできず、たゞひたすらに走ること、2年生になると下馬の郵便局まで往復ランニング、後藤、植野先輩は私の頭の固さをよく知っている。とにかく走る種類のよく知っていること、さきに云ったよう、現在の高・中・小部員に云っても理解されないよう。

大岡　いつか中村理事長が、高校時代の真壁に大した特意わざがあると云っていたが……。

真壁　いや…そんな…あっ!!　足もみだ。部活や梅林の合宿で、全ての練習が終了、ホッとしているとオーイまかべ!!　アッまた足もみ？　その通り、これはお前の特技だ、他の誰もマネができないし、足もとにも及ばない、たのむ!!　その一言に、あしたも睡眠不足!!　足の太いの見たことありますか。この腕の太さを見て……ラケット振りでなく全部足もみ……もう一つ、社会人になって中村理事長の



連絡は、いつ、如何なる場合も午後10時以降―午前さま、今でも夜のベルについ理事長？ドキッとするときが……。

大岡　いやーそれは……私も身にしみている。特に53年の県協会再編の年末から54年度末まで、木村順芳氏と理事長がケンカ腰で討論、あの新春は地ふぶきのすごいとき、理事長と私、佐藤正雄さんと、もう一人。深夜、人通りのない街をさまよいながら……10時すぎのデンワ怖いネ。

真壁　私が木村順芳さんに学んだことは、はじめ社会人連盟のとき、参加人数の多少にかゝわらず、記録は一回戦から間違いなく保存しておく。現在は競技の内容がわかるよう整理。中村大先輩のマネをしているのは高校で全くいうことを聞かず愛想をつかしても、業したら堂々の社会人、「君」をつけて対話をすること。

大岡　これまでの協会には千葉竜、桜井勇、平井二作、早坂正さんなど、いざ!!　のときに歯にころもをきせず進言していただいた。これからも我々役員は、つい身近かなためにうっかりミスをしないよう、耳に痛くともよく聞いて、これまで語り合った協会運営から登録、技術の向上、相互理解、マナーのあれこれ……とにかく大変だが、やらなければ……理事長!!

真壁　ダルマも石の上に10年。とにかく恩がえしに、あとにつゞく仲間のためにやりますから……これまで以上にいろいろ注文をお願いします!!

（写真・記録　M・S）

中村杯　県下・混合復　オープン大会

◇第1回　59・11・3（県スポーツセンター）
▽一部
①今野（BVC）西本（同）
②桜場（BVC）和田（同）
③鎌田（ゴーヤン）樋渡（高森教）
▽二部
①植野（中北電）古橋（四郎丸）
②浜畑（石巻）栃窪（家婦連）

◇第2回　60・12・15（県スポーツセンター）
▽一部
①吉永（日本楽）松島（同）
②桜場（BVC）和田（同）
③今野（BVC）今野（同）
▽二部
①今野（広瀬ク）二階堂（西多賀）
②植野（中北電）西大条（家婦連）
③木下（広瀬ク）田中（家婦連）

◇第3回　61・12・21（県スポーツセンター）
▽一部
①田所（NTT）東海林（山形）
②今野（BVC）今野（同）
③山並（広瀬）鎌田（家婦連）
▽二部
①古橋（広瀬）古橋（四郎丸）
②今野（広瀬ク）二階堂（家婦連）
③浜畑（石巻）栃窪（家婦連）

◇第4回　62・12・6（県スポーツセンター）
▽一部
①梶野尾（ヨネックス）藤井（同）
②今野（BVC）今野（福祉大ク）
③鈴木（福祉大）佐藤（同）
▽二部
①木下（広瀬ク）久保（家婦連）
②尾形（大野田）高野（同）
牛渡（高橋ク）鈴木（家婦連）

◇第41回宮城県バドミントン選手権大会
（第43回国体・第1次県予選会）
昭和63年4月25日―27日市体育館

高校男子ダブルス準々決勝

渡部・庄司（宮城工）　2―0　児玉・佐々木（泉松陵）
目黒・馬場（角田）　2―1　大川・菅原（泉舘山）
佐々木・森（宮城工）　2―0　佐々木・浅野（佐沼）
平塚・大場（宮城工）　2―0　高橋・鈴木（名取北）

▽準決勝
渡部・庄司　2―1　目黒・馬場
平塚・大場　2―0　佐々木・森
▽決　勝
渡部庄司　2（15―15　10―15　11―5　15―1）1　平塚大場

◇同女子ダブルス準々決勝

立花・矢野（ウルスラ）　2―0　芳賀・日山（三島）
阿部・新井田（角田女）　2―1　平野・若生（泉松陵）
菅原・本郷（ウルスラ）　2―0　猪岡・関根（ウルスラ）
伏見・佐藤（ウルスラ）　2―1　南部・中村（角田女）

▽準決勝
立花・矢野　2―0　阿部・新井田
菅原・本郷　2―1　伏見・佐藤
▽決勝
立花矢野　2（15―15　15―6　7―0）0　菅原本郷

◇同男子シングルス準々決勝

渡部（宮城工）　2―0　馬場（角田）

庄司（宮城工）　2―0　藤原（東北学院）
大場（宮城工）　2―0　森（宮城工）
目黒隆（角田）　2―0　菅原（古川商）

▽準決勝
大場　2―0　渡部
庄司　2―0　目黒隆

▽決勝
大場　2―0　庄司

◇同女子シングルス準々決勝
立花（ウルスラ）　2―0　阿部（角田女）
中村（角田女）　2―0　日山（三島）
伏見（ウルスラ）　2―0　本郷（ウルスラ）
矢野（ウルスラ）　2―0　佐藤（ウルスラ）

▽準決勝
立花　2―1　伏見
矢野　2―0　中村

▽決勝
立花　2―0　矢野

◇宮城県下中学団体（5月1日・右　同）

▽男子準決勝
多賀城二　2―0　西山
七郷　2―0　袋原

▽決勝
多賀城二　2（単1―0 復1―0）0　七郷

▽女子準決勝
ウルスラ　2―0　向陽台
七郷　2―0　多賀城二

▽決勝
ウルスラ　2（単1―0 復1―0）0　七郷

◇青年男子ダブルス
（5月7・8日　市勤労者体育館）

▽準決勝
加藤・韮沢（NTT東北）　2―1　桜場・大沼（日建・尚絅教）
原田・吉田（NTT東北）　2―1　渡辺・柴崎（NTT東北）

▽三位決定
渡辺・柴崎　2―0　桜場・大沼

▽決勝
原田・吉田　2（15―15 15―10 14―17 15―4）1　加藤・韮沢

◇同シングルス準決勝
原田（NTT東北）　2―0　韮沢（NTT東北）
加藤（NTT東北）　2―1　渡辺（NTT東北）

▽三位決定
渡辺　2―0　韮沢
▽決勝
原田　2（15―15 6―3）0　加藤

◇同青年女子ダブルス準決勝
黒沢・伊藤（七十七銀）　2―0　岩崎・渡辺（西武・NTT）
阿部・根本（連坊・BVC）　2―0　佐藤・平井（福祉大）

▽三位決定
佐藤・平井　2―0　岩崎・渡辺

▽決勝
阿部・根本　2（15―15 9―2）0　黒沢・伊藤

◇同シングルス準決勝
佐藤（福祉大）　2―0　渡辺（NTT）
伊藤（七十七）　2―1　渡辺（福祉大）

▽三位決定
渡辺（福祉大）　2―0　渡辺（NTT）

▽決勝
佐藤　2（11―11 11―7 5―11）1　伊藤

◇壮年ダブルス準決勝
古橋・木下（RB広瀬・木下合計）　2―0　梅田・増沢（エッソ・東北電）

▽三位決定
千葉・沖村（高橋ク・東北電）　2―1　植野・伊藤（東北電機・東芝）

▽決勝
植野・伊藤　2―1　梅田・増沢

◇壮年シングルス準決勝
古橋・木下　2（15―15 15―3）0　千葉・沖村
古橋（RS広瀬）　2―0　中村（青葉ク）
木下（木下会計）　2―0　伊藤（東芝）

▽三位決定
伊藤　2―0　中村

▽決勝
古橋　2（15―15 15―13）0　木下

◇成年男子シングルス決勝
山並（RS広瀬）　2（15―15 6―6）0　中塩（YKK）

◇県実業団バドミントン
シングルス選手権大会（5月15日・市勤労者体育館）

▽一般男子1部準決勝
吉田（NTT東北）　2―1　太田（YKK吉田）
中村（YKK吉田）　2―0　柴崎（NTT東北）

▽決勝
吉田（YKK吉田）　2―1　中村（NTT東北）

▽同二部決勝
金子（NTT東北）　2―0　小松（JR仙台）

▽**成年決勝**

千葉（仙台市役所）　2―0　佐藤（仙台市役所）

▽**壮年決勝**

数川（十条製紙）　2―1　島田（SC東北）

◇第38回全国高校バドミントン選手権

宮城県男女個人・学校対抗決定

（5月17日―20日泉体育館）

▽**男子ダブルス準々決勝**

渡部・庄司（宮城工）　2―0　三浦・今野（泉松陵）

伊藤・佐藤（東北）　2―0　大川・菅原（泉館山）

佐々木・浅野（佐沼）　2―0　佐々木・森（宮城工）

平塚・大場（宮城工）　2―0　菅原・佐々木（米谷工）

▽準決勝

渡部・庄司　2―0　伊藤・佐藤

平塚・大場　2―0　佐々木・浅野

▽決勝

平塚・大場　2（15―3―15―12）1（15―7）　渡部・庄司

▽**同シングルス準々決勝**

大場（宮城工）　2―0　藤原（東北学院）

渡部（宮城工）　2―0　篠原（仙台二）

平塚（宮城工）　2―0　森（宮城工）

伊藤（東北）　2―0　庄司（宮城工）

▽準決勝

渡部　2―0　大場

平塚　2―0　伊藤

▽決勝

渡部　2（15―15―4）0（11）　平塚

▽**女子ダブルス準々決勝**

立花・矢野（ウルスラ）　2―0　南部・新井田（角田女）

佐藤・猪岡（ウルスラ）　2―0　渡辺・中崎（ウルスラ）

中村・阿部（角田女）　2―1　伏見・岡根（ウルスラ）

岩崎・佐藤（佐沼）　2―1　松井・安達（三島）

▽準決勝

立花・矢野　2―0　佐藤・猪岡

中村・阿部　2―0　岩渕・佐藤

▽決勝

立花・矢野　2（15―15―0）0（6）　中村・阿部

▽**同シングルス準々決勝**

立花（ウルスラ）　2―0　南部（角田女）

中村（角田女）　2―1　本郷（ウルスラ）

伏見（ウルスラ）　2―0　阿部（角田女）

矢野（ウルスラ）　2―0　猪岡（ウルスラ）

▽準決勝

立花　2（11―11―1）0（2）　中村

矢野　2（11―11―2）0（5）　伏見

▽決勝

矢野　2（11―11―7）0（7）　立花



蒔田さん、はじめてコーチに（S28・聖和）

よき師・よき友…
佳きかな!!　わが人生

尚絅OG　黒須英子



協会創立40周年。おめでとうございます。

早いものですね。ついこの間、県・市協会の創立30周年の祝賀会（伯養軒）で、なつかしい方々にお会いしながら30年間のいろいろなことを語り、笑ったり、なみだを流したりしたのに、そうですよね……。

この10年間に恩師平井二作先生や、荘司達治、中村隆さんばかりか、検察庁の桜井君、早坂正さん、東北学院大の安斉先生など、もう二度とお目にかかれない人に……。ご苦労が多かったことでしょう。

バドミントンをして自分達だけ楽しんでいるので申しわけなく思いますが、おかげさまで病気もせず、ときどき心地よい汗をかいて居ます。

そう云えば、昨年の夏のある日、母からの連絡で、仏壇の引きだしを整理していたら、第11回団体（兵庫）のときの三位入賞の表彰状や写真などが出てきたので、取りにおいでということでした。

母のところで、しばらくぶりに、甘ったれながら、何年か前のことかしら……と、回顧しながら感激も新たに、なつかしい顔、いろいろなことが走馬灯のように思い出され、話に花をさかせました。

兵庫国体の会場は神戸だったよね……。今のように新幹線なんて走っていなかったし、ヒコーキなど、とんでもない。列車といわず汽車。しかもドンコー（鈍行）のはず。長時間の乗車で疲れないようにと、コーチの佐藤正雄さんが、これならと考えた巾ひろく長い、厚いベニヤ板を仙台駅まではこび、相互の腰かけに渡し、座敷のように作ってくれ、これは四国善通寺での国体のとき、ためして好評だったので……と。ただし石炭をもやしての汽車、頭から足の先まで煙だらけになって香川県善通寺までたどり着いたっけ……と。



そう云えば仙台出発を前に、部長の平井先生と佐藤コーチが、わが家に来て、食事は心配ないけれど、朝寝坊なのが気がかりだなんで母の前で云われたっけ……。

試合は試合で、ドキドキ、ハラハラのさせられ通し。コースをつかれ、見事に決められると、セーフ!!　なんてスマンチャッテ……。アウトのときよくラケットを出していたと注意されたり。負けても他人ごとのよう、おっとりした顔をして……。性格がやさしいのかな……。

〃あれ!!　平井先生がニガ笑いをしている〃

この大会の一般女子は、西堀冨美子、佐藤範子、小野寺静枝先輩で、宮城が三度目の優勝!!。高校女子は三浦節、三浦興志子、私で第三位の入賞。平井先生が私たちに、うち（尚絅）の先・後輩で上位入賞!!　これが究極の希望だった!!　よくやってくれた、有難う……と。

しかも尚絅短大に進んだ三浦節ちゃんが全日本学生選手権のシングルスに2年連続、パートナーに沢村さんでダブルスも……（昭和32・8回・久留米）（昭33・9回・東京）。

本当に、いゝ思い出をつくってもらい有難

う。今でも尚絅の大先輩たちとコート内をドタバタ足音高く、節ちゃん短大でなかったら4年連続……できたかしら……など、語ることだけは相変らず。

すばらしかった先輩たち、県・市協会のみなさん。指導してくださった方々に心からお礼を申しあげます。

全員のお名前を……と思いましたが、紙面の都合を考え、この辺で失礼いたします。

（〒981　仙台市昭和町3―40―309）

「やってみ……」平井先生「勝つことだ!!」荘司さん

尚絅OG　金森　まき子



仙台市バドミントン協会40周年史発刊おめでとうございます。県内でバドミントンらしい？　羽根うちは……昭和17年9月ころ鉱山監督局の中庭ではじまったとお聞きしました。偶然にも私の年令と同じ年ということになります。その頃の事を県協会史で読ませていただき改ためて感激でいっぱいでございます。手さぐりの中から今日の協会を築き上げられたことは、関係諸桟関のご努力そのものと深く感謝致しております。現在のバドミントン人口はうなぎのぼり、老若男女それぞれの枠の中で謳歌しオリンピック種目にまで肩を並べたことは、これからの若人の大きな大きな目標となることでしょう。

思いおこせばバドミントンとの付き合いはブランクの期間はあったものの二昔（ふたむかし）以上にもなります。大変に勝手ですがその間お世話になった今は亡き、荘司さんと平井先生のご両人に限らせていただき、思い出に触れさせていただきたいと思います。

尚絅という伝統校でのクラブ活動、平井先生との出合い。練習での苦しさは普通でそんな中で救われたのは平井先生のあの穏やかな笑顔だったのではないでしょうか。

〝何しちょるかー。やってみー。〟当時の一言一言が鮮明に脳裏にうかびます。時の流れとは非情なもので先生を囲んでもう一度ラケットを持って体育館に集まろうと話したところでした。

先生の訃報に接し教えを受けた卒業生のショックはいかばかりか計り知れません。先生から受けた数多くの教えを心にとどめ尚絅で汗を流したことを誇りに思っております。

〝小島スポーツ店の荘司さん〟に行くと、いつもガット張りをしていましたネ。高校のシングルスの部では二回戦でいつも同じ人と対戦させられて負け。自分の弱さを忘れ、口惜しいので、どうして組合せはいっつもこうなの？　と言いましたネ、〝勝つまでだ〟と。よーし今度こそと思いただそれだけに燃えた時期があり念願が叶って決勝にたどりついた時はヘトヘト。同志打ちとはいえ技術の差はあきらか、私の思いは達成されたのです。そして荘司さんと顔を合せた時、眼鏡の奥で見せた細い目、無口ではありましたが〝やったな〟と



言った様に思われ私もうなづくだけでした。
家庭婦人となってからのバドミントンは学生時代とは違って子育ての中、ストレスの解消にどんなに役立つかその効果は計り知れません。家婦連結成育ての親でもある荘司さん、病気になられ入院されても大会の記録、資料等をベットの棚にうず高く重ね〝試合があるから出てこいよ〟と声がけを忘れなかったこと等々バドミントン発展のため情熱をかたむけた生きざまには本当に頭の下がる思いです。

他界されたおふたりではありますがこの場をお借りし厚く御礼申し上げます。

岩切バドミントンクラブの現在のメンバーは多くはありませんが3年間はバドミントン教室（公民館主催）以後クラブに昇格？　して今年で6年目です。クラブのリーダーはお父様!!　大正4年生れ、（私は3年目から参加）若い人のエネルギーを吸収してかとても若く何かとアドバイスをしてもらっています。狩野コーチに月3回お願いしているのですが月1回がやっとです。

クラブはチャレンジ精神旺盛で負けてもくよくよせず常に明るく笑いとばしているところは見上げたものです。最近はやっと一回戦の負けから抜け出し二回戦突破が目標です。試合に参加することはもちろんですが四季折々のお楽しみ会も含め役員さんの努力は大変なものです。長くバドミントンを楽しめるよう、また狩野コーチから早くほめられるような試合内容が出来ることを望みながら練習しております。

（〒983　仙台市岩切入生沢25）

もう10余年に……

西多賀クラブ　石井登美子



前回30周年史が発行されました時、私達の西多賀バドミントンクラブもまだ生まれて間もない時でした。月日のたつのは早いもので10余年が過ぎました。

振りかえればその時々を精一杯頑張って来たように思います。いろいろなことがありました。楽しさ、悲しさ、それに苦しいこと等の思いが頭の中に浮んできます。今までバドを続けてこられたのも主人の理解と多くの皆様方との良き出合に恵まれ、ご支援、ご指導を頂きましたことは本当にありがたく心より感謝申し上げます。

私のバドとの出合、そしてクラブの歩みを振り返えって見ると、私は福島の出身で主人の転勤で仙台にまいりました。地域にもなじみなく、近所つき合いはあるものの友達もおりませんでしたので、何か習いごとでもしたら友達ともめぐり会えるのではと思って居ました。

子供の小学校入学が、学校行事のバレーボール大会に誘われ出場しました。全く久しぶりの運動でしたが出来るものですね。学生時代の気分にもどりやってみようと思いクラブに入部。1年間にどうにか全部の大会に出場の試合経験をしました。

何かものたりなさと他人とのかゝわりがむずかしく、雰囲気にもなじめなく苦痛に感じるときも……。それでも身体を動かしたくて別のスポーツでもと学校の体育館に行って見ました。半面でバドクラブの人達が楽しそうにラケットを振り練習しておりました。

私はバドと言えば庭先の羽つきと楽観しておりました。（あとでこんなに激しいスポーツもあるものだと……）

私は頑具のラケットで路上で遊んだことしかありません……。しかし打てそうな気がしてラケットを借り、打ってみましたがうまく飛びませんでした。思いのほか難しいものでした。後日クラブ員から入部の電話を頂き、喜び勇んで体育館に出向き入部させて頂きました。

当時体育指導員をされてた佐藤志美子さん、他に2―3人の顔見知りが居て、とても



気楽な気持でやれそうな感じがしました。これがバドに入るきっかけでした。私ごとき33才での手習で主婦のスポーツが出来るなんて考えても見ませんでした。青春時代が二度あるなんて夢のようです。

週1回の練習ではありましたが楽しみでした。今思い出してもゾーとしますが恐いもの知らずで入部1ヶ月後に昭和51年県家庭婦人大会に出場いたしました。白い揃いのユニホーム姿が人目についたと思います。会場にはテレビ局が来てました。ゲームの運びなどにレンズを向けていました。わがチームがスポットをあび夕方の放映を見てとてもびっくりするだけ……。

ルールもよく理解していないし、サーブもロングサーブしか出来ないで、よくも1勝できたのはパートナーのお陰で私にとっては奇跡そのものでした。

この試合の経験でよりバドに親しみがわいてきましたし、身近なものになり、気持ちの同じ友達にも巡り合うことができ、いつも共に講習会とか主婦同好会、クラブの練習へと走りまわりました。頭の中身はバドのことでいっぱい、早い上達、うつくしいフォームを夢に見て、もっと早くにバドとの出合があったならばと……。

印象深いのは53年県家庭婦人バド大会で思いがけない幸運にめぐまれ、優勝することが出きました。本当に「嬉しい」の一言につき、またそれからの練習にも励みが加わり練習するとき時間も多くなりました。

しかしクラブ内にもアレコレと目くばり、気くばりの必要が……。レベルが横一線にファイトの強い、反対におとなしい部員のためペア・それにチーム編成にゲーム以上になやまされることが……。ピリピリした息づまる様な空気を感じとった練習日もありました。このいやな経験を今後しないよう他のクラブでは、どのようになさっているか？　教えて下さるよう……。

クラブの歴史も男子の会員の数も増え、特に自慢したいのは夫婦ペアが多いことです。

学区の大会も催され地域にも身近なものになり、時おり練習日に古橋政紀先生がきて教えてくれ、部員のレベルも上向いて、充実した練習に、その後今野さんがコーチ役。新たな顔も加わり、西多賀の基礎を築いてもらい、部員の自信が幸いして各大会には上位入賞を果たすようになりました。

これもクラブ一同のたゆまぬ努力の賜物と思い、この心地よい気分は何度経験してもいいもの。明るく、さわやかで笑い声がたえない、チームワーク抜群のクラブで汗を流し練習出来ることを、誇りとし、健康のゆるす限り続け、未来のバドを背負うジュニアも頑張って居ることを……。

（〒982　仙台市泉崎1―18―20）

平井先生に誘われ
高校・国体の優勝!!

尚絅OG　沢田幸子



宮城県・仙台市協会創立40周年おめでとうございます。

バドミントンという言葉を口にすると、高校生時代のことが、たくさん思い浮んで来ます。夢中で練習に励んだ日々でした。

私のバドミントンとの出合いは、尚絅女学院の夏休みの海浜学校にはじまります。はじめて手にしたラケットは……今考えるとグリップ、シャフト、フレームともウッドで重量も現在の倍ぐらいあったよう……。相手になっていろいろ声をかけて下さったのは平井二作先生で、はじめは優しく、ときには前、うしろに、右、左とホンの少し、早く走ればはじきかえされるよう……私もいつの間にか負けてたまるか!!　そんな気にさせられる……はじめ優しく次第にきびしくと、部員指導と同じやりかたで鍛え?　られたあと、なかなか素質がある!!　学校がはじまったら部に遊びに来て、みんなの練習を見学するよう誘われ、ついその気になって夏休みがおわって体育館へ……。

バスケット、バレーのラインは、くっきり書かれてありましたが、バドは体育館のすみに一面?　ネットポールをロープでしばりコートに太いクギを打って、それにしばりつけるという……床を見るとクギを打ちつけて、もうアナに近くなっている個所が多く見られ、天井は太いハリがたくさん。そこにはシャトルが多くあがっているとか。

あそこに、ねらってあげられるようになればようやく一人前!!　うしろから大きな声で、よびかけてくれたのがコーチの佐藤正雄さんとの初対面!!　ラケットはこれ、シャトルはあそこ……相手は誰がいいかな?　そうだバートの居ないヤッツにしよう……おーいキョウ、この新人を相手に練習を休めないよう可愛がってやってくれ!!。

ヤッツとかキョウとは同じ学年の谷津京子さん。反対に佐藤コーチは河北新報の記者で敗戦になる前に、インドネシアかジャワからの戦利品?　それを山田秀三局長とかが仙台鉱山監督局（現・仙台逓信病院東となり）職員の楽しみに、二階建てロの字の中庭、バレーのネットをそのままに「西洋の羽根つき」とたゞ打ち合ったのが仙台でバドミントンの誕生とか……いろいろ教えられ、聞かされ勉強させられました。

県協会の創立は昭和23年。尚絅は昭和25年で部を創るまで、いろいろなエピソードがあったとか。そして当時の高校女子は鴇田正男先生の率いる古川女が圧倒的につよく、県内に敵なしで、各校の目標は「古川女」に勝つことだけ……。

部員は佐藤コーチのサを畧して「おトウちゃん」とよび、練習後のはなし合いが楽しく声をあげて笑うなど。これは30周年史にありましたが、コートの準備と片付けは力仕事でオレがやる。みんなは競技でせり合え!!。

一週3回、1回1時間半の練習。当番の掃除がおわったころ本校舎から体育館へ、もうネットを張られ、シャトルが一ダースほどキルクを上に並べられ、それが全部ニュー。初代の主将大沼清子さんの回想に「部はつくったが予算なし、あのシャトル代、誰がどうして支払った?　そのうち練習日が毎日になってもコーチは一番乗りのあと始末でラスト。本当に新聞社つとめ?。給料もらっている?。

この大沼先輩と1年後輩の猪股とき子さんのフォームは、どの基本を打つことでも、よく決まり、ついサイドで身ぶりに手ぶり、コーチのいう、いいものはヌスメ!!　平井部長、中学の責任者石山和夫先生も、どちらが早く部内のNo.1になるか、教えながらのはげまし。体育館の使用を一週6日間を平井部長にスズメの合唱?　で困らせたり……。



新聞社の編集局長からこの競技の普及を指示された頃、羽根つきは女、こどもの遊び……男子はソッポ!!。運わるく？　眼と声をかけられたのは東二から仙二高に、軟式庭球部の正木繁次さん。30周年史を読むと千葉竜、佐藤さんが、言葉たくみ、手とり、足とりみたいに、広がった三越前、紙倉庫、公園、風当りの小ない建物のかげ……ひっぱり出されていたご本人が、同じ軟庭部員の古賀邦彦、水谷政雄、千葉茂さんに、軟庭のラケットをバドミントン用にもちかえさせ、県内男子校で最初の部をつくって大活躍……しかも会員そろって東北大にクリア。ダランチョ（アッごめん）の佐々木英夫さんが主務に……部をつくったばかりの常盤木体育館で練習しながら一挙両得の練習とアドバイスを……。

体力つくり、フォーム、コンビに何かゞあると揃って尚絅へ。佐藤さんを囲んで納得できるまで討論……私たちをコートに入れて結果を確認する。それに後輩の村守英夫、高橋正明さん。尚絅中の石山和男先生も加わり、競技を通じ、きびしさ、優しさ、激しさ、よろこび、悲しみと人生の経験する喜・怒・哀・楽を身に染みるほど教えていたゞきました。

大事なことは〝努力〟にあること、これは数々の試合に出場させてもらい、私の生涯にすばらしい感動の想いを多く経験することができ、思い出しては感激に、つい……泪……。

尚絅を卒業したのが29年。この競技とも別れましたが、同期の谷津京子、西堀冨美子、佐藤範子さん、その後輩たちの活躍をかげながら応援していました。

仙台をはなれて17年間。49年ようやく帰郷し、なつかしい皆様にさそわれ、半分はこわこわでしたがラケットをにぎり、徐々に当時の技術を思い出そうと努力しています。

帰郷してからいろいろなことが……荘司達治さんと同じ墓所に眠ってしまった主人のことで心・身ともドン底に……高校時代と少しも変りなく励まし、勇気づけてくれた佐藤コーチはじめ先輩、同期、後輩の仲間たち。つい瞼をとじて回想するものがあるのです。

ふるいよ!!　と云われても忘れられない、もう一度だけ仙台駅から尚絅まで……（オープンカーでなく）高松宮妃賜杯（全国高校）賞状（国体）を先頭に、校歌とみ神とともに……を静かに合唱しながらの行進を……後輩たちのその栄光の最後尾に加えてほしいのです。

これは決して自慢ではありません。第4回インターハイ（28年8月・山形市）優勝などとんでもない!!　とにかく対戦相手の全校が優勝候補!!　試合に勝つことより、ためし合いにひるむな!!　と。地元紙に尚絅きょう優勝をかけて……にウッソ、まさか？　学校、父兄、生徒も首をかしげ、敗れても全国の第二位。仙山線で山形霞城公園の体育館へ……眺めるだけだった「賜杯」を体育館中央に肩くんでの輪は刻々と大きく、校歌、みかみ……は館外にあふれ、学校外の人々も肩くんで喜びを……。

第8回国民体育大会は四国（10月）バドは善通寺。このとき浅野喜代治県協会長が宿舎も同じにお世話と試合のはげましを……。

準決勝はインターハイの雪辱を唯一の目標に混成の神奈川、大接戦のあとの決勝は地元しかも試合場の善通寺一高。複・単・単の3試合。

西堀冨美子　　大西誉子
佐藤　範子　　秋山哉子

西堀冨美子　2（11—2　4—15　15—4　1）秋山哉子
　　11—3　0　15—7　真鍋久子

国体・高校女子「優勝・宮城県」の表彰状を胸前にした谷津主将を先頭に浅野会長、平井部長、一般男子の佐々木、正木、水谷、山本、村本（東北大）他の関係者が一列に、会場から宿舎まで、たそがれ……夕やけ空のもと校歌とみ神と……を交互に、地元の人々が立ちどまっての拍手をうけながら……もう一度、この〝結果〟を築きあげた後輩たちの〝栄光の行進〟に参加させて頂きたいのです。

これは私ばかりでなく、25年に部をつくって、これまで38年!!　全部員が頂点を目指して連日の精進、1日も早く達成するよう祈るものです。

ふりかえって、いろいろ多いのは、なんとかのしるし……。おっしゃる通り、皆さんの温かさに一方通行的にオンブにダッコばかりの私に「40周年史」の発行と、なにか（ハジをふくめ？）原稿を……恐縮しながらゲームのほか心のささえをして下さる皆様に、ふれ合ったことを感謝します。

満40周年の宮城県・仙台市協会の歴史を祝い、四国団体に同行、おやじさんと呼ばれていつもニコニコ、お世話して下さった浅野喜代治会長が〝30周年史〟表紙の言葉をお借りして、両協会がいつまでも力強くて〝未来に向って遠く、高く、飛べ!!〟それは心から祈らしていただきます。

（〒981—31　仙台市泉ヶ丘1—14—3）

創立30周年史の縁で

尚絅OG　佐野克子



宮城県・仙台市協会創立40周年おめでとうございます。

思えば10年前!!　羽ばたいて30周年、遠く高く飛べ!!　の素晴らしい一冊の本に出合い、忘れかけていたバドミントンの世界に改めて引き込まれてしまったような気が致します。

それぞれにバドミントンへの思いを書かれ、輝かしい過去の栄光や宮城県のバドミントンの歴史等、お世話になった諸先生、先輩達、後輩達、懐しい人達を思い出し、夢中で読ませて頂きました。

中学、高校、短大と8年も選手生活を送りながら協会の皆様の陰の力の偉大さを改めて感じた次第です。家庭婦人のバドミントンが大変盛んになったことや宮城勢が全国優勝されたことも驚きでしたが、地区や公民館等で子供連れでも練習する場所があることを知り、私もラケットを握ってみようかと思うようになりました。家庭の中で子育ての毎日、思いきって外に出る切っ掛けを作ってくれた一冊の本と、贈り主の金森まき子さんに大変感謝しております。

思いたったある日（5月）15年振りのバドミントンに逸る気持ちを抑えながら練習に出かけたのを今でもはっきり覚えています。公民館主催のバドミントン教室で、講師は千葉裕一さんでした。

三面のコートに50—60人ものお母さん達がいるのにはビックリ……。初めての人からベテランの人、それぞれに個性が強く、講師も大変のようでした。皆一生懸命でその熱心さにはただただ感心するばかり。

現役を離れてからバドミントンとの接する機会もなく過ごし、久々に振るラケットについ力が入り過ぎて、空振りやらカチンコやらで打てず動けずがっかり。それに、翌日の体の痛みは今でも忘れられません。

週1回の練習でしたが、毎週毎週多勢で皆さんの熱心さにおどろくばかり。後で聞いた話に荘司達治さんの念願でもある「バドミントンの底辺を広げよう」と協会の皆様の苦労と努力でこれ迄に普及されたとか、今日の家庭婦人のサークルや地域での活動をきっと満

足されていることでしょう。

53年の9月、自分達の地区にもチームを作ろうと有志（8人）で鹿野同好会を結成しました。練習場所は小学校の体育館。コートはもちろんポールもなく、ビニールテープでコートを作り、バレーポールにネットを張り少しずつ練習の場をつくり、体育館にポールを差し込む穴がなく、校長室に何度も交渉し、正式にラインを引いて喜んだことなど、今は思い出……。水曜日の1時半からの練習も、子供たちのバレー等の同好会に明け渡し、練習場所が長町公民館に移りました。

54年6月、仙台市家庭婦人学区対抗大会に参加したのを皮切りに県婦人大会等、各大会に参加するようになりました。スポーツとは全く縁のなかったお母さん達に、あの開会式の雰囲気を味わって……ところが、初心者ばかりでの参加した大会でも、あがりっぱなし、練習時の半分も動けず、選手よりも、応援で汗をビッショリかいたのを思い出します。

ある大会では幼稚園の遠足とぶつかり初日と2日目のメンバーがすっかり入れ代わったこともありました。とにかく会員の年令も若かったので、幼い子が多く、親共々賑やかさにはどのチームにも負けない位でした。

毎年新人が加わり会員が30人に達した時もあり、特別にコーチも頼まず、自分達での練習でしたのが、レジャーセンターで年に2回の初心者講習会には必ず参加して、少しでも上達しようという意欲が会員に感じられました。

この競技は本当に難しいスポーツです。気持ちだけではダメ!!　出ては負けるの繰り返しで、対戦チームを大いに喜ばせていただいたに違いありません。あの頃は何処のコートにもこのようなチームを見かけたような気がします。

私たちの同好会も10年を迎えます。顔ぶれも大分かわり、57年に夜の愛好会として小学校で練習をはじめ。勝つことより参加すること。美容と健康の為、初心のスローガンが、それぞれに欲が出て、腕を上げようと練習に頑張っています。

毎年責任者（部長）も交代し、1ヶ月ずつの当番も決め、皆で会の運営にあたり、各人が思いやりでチームの和を何よりも大切に素晴しい同好会だと私は思っています。結成以来何かと御面倒かけている相原さんには、何時の日かきっと「優勝」の喜びと、感謝の気持ちを表現しようと、皆で頑張っています。

現役を離れて25年過ぎた今、思いがけない人達との出合い。誘い合って一緒にゲームが出来る喜びを何時迄も続けたいと思います。

記念すべき40周年にペンをもって登場させていただけることに感謝し、宮城・仙台市協会が着々発展されることを心よりお祈り至します。

（〒982　仙台市土手内1―4―1）

「家庭婦人のバドミントンに思うこと」

県家庭連理事長
佐藤光子



宮城・仙台協会40周年おめでとうございます。

年を重ねたことを忘れて、?10代のときを夢みて、ラケットを持ってみると、あまりにも動けないことに気がついてから、何年になったことか?。

これからは、バドミントンの普及と底辺拡大は家庭から……を、スローガンに協会の皆様方の御支援のもと、家庭婦人連盟が組織されて5年、学区対抗、年令別大会と、それぞれ独得の試合方法で、参加した皆様に楽しく出来るように運営して来ました。

ここまでの道程は、私にとって長い長い月日に思われます。その中には、第1回全国大会に参加して、宮城のレベルがどの位のものかを見て、他県チームの練習時間、経費のことなど、くらべものにならないことが解り、い

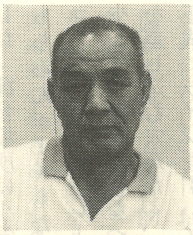
かに施設設備が少ないかと云うことを感じているところです。しかし、私共はあくまでも、主婦であることを忘れてはならないと思います。

これからは、競技技術はもちろんですが、それればかりでなく、会の運営に、裏方として心から協力して下さる人を皆で育てゝこそ、この競技の普及と底辺拡大につながると思いますので、一歩一歩前進していきたいと思っておりますので、もつと若い人の力を入れて、のびのびと運営してもらいたいことをのぞみます。

（〒981　仙台市東照宮1―13―69）

歩み

仙台市民バドミントン同好会
会長　相原勝郎



私達仙台市民バドミントン同好会が、昭和45年7月に発足してから、もう18年に成ります。

この18年を振り返って見ると、私も、また会員各人にも、よくも今日まで続いたものだと、今さらながら驚きのほかありません。

この18年の歩みの中で、私達同好会に、ご援助下さった市職員、並びにバドミントン協会の先生方に心から感謝を申し上げる次第であります。なぜなら、私達はスポーツを知らない。いやバドミントンの上手でない、市民の集りだからです。

それを一から手を取り、ラケットの握り方。足の運び方。羽のうち方など、ていねいに教えて下さった、先生方をしのび思い出しながら18年前を思い浮べているのです。

私達は昭和45年6月河北新報の夕刊で、仙台市主催のバドミントン講習会を知り、レジャーセンターに集まり6日間の講習会を終了した仲間です。その時の体育振興課課長は菅原誠喜先生、係長に中村八男先生、そして佐々木、遠藤、板橋職員が勤めていました。

その頃のスポーツは上手な人達だけの集まり。コートを独占し、上手でない人達はただ羨ましく見てるだけ。それを菅原、中村先生、バドミントン協会の方々は、これからのスポーツは上手、下手もなく、一緒に出来るスポーツを、市が世話して市民の皆さんに楽しんで頂く!!　それが本当の健康都市であると話してくれました。

思えば発足して3年間は私にとって試練の時でした。レジャーセンターの中で煙草をプカプカ吸う。吸いがらをポイする。自分の食べ残しをそのまゝ置く人など。これがスポーツマン？　と、がっかり、マナーの悪さは目にあまるものがありました。しかも、ほとんどが、上手な人達だけ。私はなんど中村係長からお叱りを、いや注意された事か。

その事があってから、私は午後4時半にレジャーセンターに来て、一人で競技場を清掃し、競技場で煙草を吸っては『ダメ』と貼紙をして、会員の集まって来るのを待っていたものです。

午後5時半から、8時30分の間に競技場に煙草の吸いがら、ゴミが落ちていれば会員が投げたゴミですからね……。これを練習日毎に繰り返し……。煙草の事で、私が注意した若者は、今3人の子の父親です。

ある時は、銀行員でバドミントンの上手な人達、4―5人が来て、仕事の関係で1ヶ月4回の練習のうち1回だけしか練習出来ないから、あとの3回分の会費を戻してくれと言われ、困ったこともありました。

私は45才からはじめ、決してうまくなく、やもすると、うまい人達に押され、コートを独占されそう……。それを職員の佐々木源治さんが、真っ赤な顔で、その銀行員たちに大声で、どなり、あなた方にはここに来てほしくないと、怒りました。あの頃のうまい人達は天狗様……。へたな私達は、片隅で小さくなりネットを張ったり、後片付け……。いつ同好会をやめようかと悩んでいたものです。



職員の方々は、それを知って、会場を回り、ヘタな、私達を励ましてくれ、同窓会が今日あるのも、そうした職員のあたたかい励ましとご指導によるものです。

私達の同好会も軌道にのり3年後に家庭婦人同好会が誕生したのです。日本武道は礼にはじまり、礼におわると、他のスポーツも同じものと私は思います。その頃の同好会は40名前後の会員で3面のコートで充分でした。一面を小林寺拳法、合気道に使用、武道から礼節を学ばしてもらいました。その功があり昭和54年団体として文部大臣賞を受賞。これも、市職員、バドミントン協会の先生方のご指導の賜ものと深く感謝をして居ます。

軌道に乗って来た同好会も、A・B・C・Dと、クラス別にし、練習中に何組かのカップルが……、私はあれこれとそれを見て、会員達から、同好会の事務、会計は、私達でやるから、会長は練習に励んで下さいと、私も本当に嬉しく、同好会を作ってよかったと思いました。

東京都晴海クラブとの交流も13年、また宮城町クラブとの交流も8年、軌道に乗った同好会。これが、本当の健康都市市政と私は思うのです。

お陰様で、昨年12月6日、29組のカップルが誕生。この若者達に、幸、多かれと深く祈るものです。

秋晴れに　旅立つ娘の幸祈る
選ばれて　嫁ぐ秋田は日本晴れ

健康都市、仙台市協会、仙台市民同好会万才

振り向けば　遠い六十路の坂登る
愛されて　愛して世の中丸く生き

合掌

（〒982　仙台市緑ヶ丘3―34―7）

若い人達の手助けを!!

幸町クラブ　高橋幸子



もう……10年位前になるでしょうか……幸町学区町内対抗バドミントン大会へ参加したことが、私のバドミントンを始めるきっかけだったと思います。

庭先でする羽根つき程度はしたことがあっても、ほんもの？　のシャトルを打つのは、生まれて初めての経験でした。

力いっぱい打っても、思ったほどシャトルは飛ばず、力ばかり入って、空振りしたり、フレームに当てたり、翌日は肩や腕が「ビンビン」に張ってしまい、大変だったことを思い出します。考えていたよりずっとむずかしくて、ハードなスポーツであることを、あらためて実感したと同時に、もっと本格的にやってみたいという気持にさせられました。

その頃の幸町学区には、斉藤さんという部

長さんが、大変熱心に、運営・指導にあたっていらっしゃいました。

何も判らない初心者を、身振り手振りで、怒ったり、おだてたりしながら教えて下さいました。私達の学区は、女子が弱いと云われ、ブロック大会へ参加した時でも、男子のお荷物となり、1勝もできずに悔しい思いをしたものでした。

仕事の関係で、転勤される方が非常に多い所のため、部長やコーチして下さる方達が、何年かかけてようやく戦力として使えるようになった人もすばらしい経験者も、さあ!! これからだという時になると、次から次と、御主人の転勤で引っ越し……その度に残った者は残念で、口惜い思いをしたものです。

練習は、夜七時以降になるため、主婦の立場としては、家族の理解と協力がなくては続けられません。とくに、旦那さまの理解が、最大かつ最低の条件になるかと思います。

最近では、夜はどうしてもできないから、昼間やれる場所があれば、日中だけでもやってみたいという人達が増えてきました。

朝、御主人を送り出し、子供達も、幼稚園や、学校に行っている間に、バドミントンを楽しみたいといったお母さん達が、○○会とか、□□クラブとかいった活動の場を作り、自分達の手で運営しています。これといった指導者もいなくて、ただシャトルを打つだけといった所もあるようですが……。



これらのチームの一番の悩みは、練習の場所である体育館が、思うように取れないことだろうと思います。私達の地区には、体育館が三ケ所程ありますが、チーム数が増えたことや、バレーボールのチーム数が増えたということもあって、自分達の希望通りに、なか

なか体育館をとることが出来ず、又、使用料がかかるので、シャトル代も含めて運営するのが大変むずかしい現状のようです。

この10年位の間に、幸町学区から、枡江学区が分かれ、62年4月には、幸町南学区と三学区に分散されたことになります。それにはいろんな面倒もありました。

運営上のこと、練習方法のことや人間関係のむずかしさ、試合で負けて、自分の不甲斐のなさに、やめてしまいたいと思ったたことも何回かありましたが、大好きなバドミントンを続けて来て良かったと実感しています。

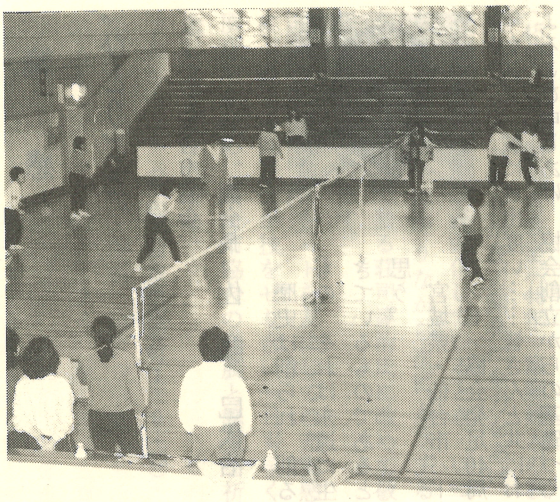
今、新しく入って来ている若い人達の、やる気いっぱいの姿を見ていると、我々も負けてはいられないという気持とともに、これまで指導していただいたことや、経験し体で感じとって来たものを、多少なりとも彼女達にアドバイスしてあげられれば……ラケットの握り方すら判らなかった私達を、これまでに指導して下さった方々への最大の感謝の気持になるのではないかと思います。

今後は、自分で楽しむだけでなく、これからの若い人達へ、バドミントンのおもしろさや楽しさが分ってもらえるように、何らかの手助けが出来ればと願っております。

（〒983　仙台市幸町5―4―2―205）

ことし15周年

仙台市家庭婦人バドミントン同好会
副会長　武田道子



昭和48年バドミントン初心者講習会が始めて行われ、受講後、同好会を作りました。羽根つき＝バドミントンのイメージで講習会に参加した私達にとっては用語、ラケットの持ち方、基礎打ちとはじめて耳にする言葉、目にする事でした。

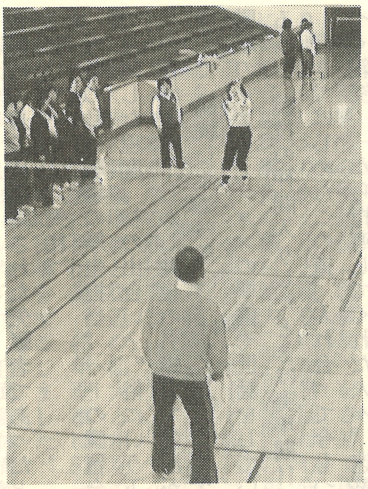
ラケットの持ち方を覚え、ハイクリアーのとばし方が出来るようになりシャトルが空を舞う度に、青春がもどってくるようで、バドミントンの魅力にとりつかれた会員は、15年を迎えるまでになりました。ラケットの、にぎり方もわからなかった主婦が、今や、スコートをひるがえし、シャトルを追い、スマッシュを打ちこむ姿は、高校生をも、凌ぐ？　パワー……。

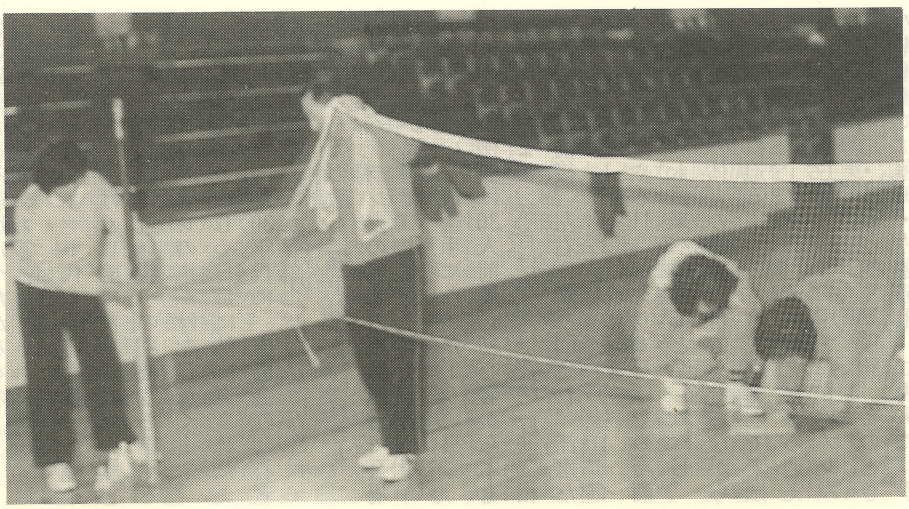
会員は初心者講習会受講者となっており月3～4回の練習日を、井上薫、佐藤巳代治、米田広造先生の御指導を受け、練習にはげんで居ます。

現在の会員は90名。

ことし、15周年になりますので、マンネリから脱出して、和と技術の向上に会員の協力と努力を期待しています。

（〒983　仙台市台原6丁目13―35）



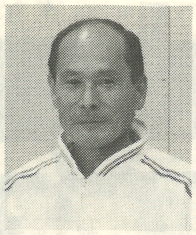


試合終了……
ネットを片付ける千葉正寿さん
（レジャーセンター）

雑　感

〝ひとりごと〟

仙台市協会
副会長　佐　藤　巳代治



歴史は創られ、創るもの。それは永遠に生きているものであると思う。

宮城県・仙台市バドミントン協会発足40周年を迎え、誠に目出度い……皆さんと共におよろこび申しあげ、協会創立からの基礎づくりと後継者育成に尽力された先輩たちの違大な功績に深く感謝します。

これまでの協会史に学校、社会人、実業団での全国レベルの技術で活躍された思い出、記録を期待しながら……私は「ひとりごと」をつづらして頂きます。

第7回国体（27年）のバド競技が仙台市で開かれ、大変申しわけありませんが当時は最近のように選手の引きぬき、戦法や、目立つほどの選手強化もなく、とにかく参加することに意義があるという時代……。

一般市民の普及、理解度は現在と比較できないほど、代表選手も学校体育での経験者から各競技の普及に活躍された先駆者であったと回顧しています（失礼）。

当時の私は職場の厚生担当、バドの講習会で見聞した程度〝初の出合い？〟俗にいう下手の横好き……しかし戦後の引揚者で生活が優先で、観戦しながら身につけるものか……。職場のレクレーションの準備や世話をしているうち、競技の仲間入りしたときは実年期!!。

好きではじめたこの道。ふれ合って今もつづく親交、一から指導してくれた人々。迷惑をかけても……勝敗を争った後には朋友、よく言葉にした「バドキチ」ここでお礼を……。

日進月歩、ふりかえる当時は体育館を借りた!!　それコートつくりと白チョーク、メジャー、ネットにつなぎポール、砂袋やロープなどの七つの道具をはこび……これも先輩たちのつらく―たのしい経験を……今は懐しい思い出。

また当時のラケットは全木製で現在も30年代のものを愛用している昔人!!　ポイ拾ての出来ない時代おくれと笑われてもニッコリ。シャトルも当時は陸鳥、羽が折れると良いものをボンドをつけて差し込み、息を吹き、かわかし、サア試合をしよう。

今は必要なものはオイそれ!!　の時代になった反面、大事に使いこなす気持ちを忘れてはいませんか。これは年配のひや水？　さらに結果を用具のせいにしたがるが、自身で選んだ責任で、その欠点をカバー、短を長にする研究心こそ前進につながるもの……。

庭先きにはじまって各職場へ、昼休みには社屋のあき地にネット代りの紐を張ってのイン、アウト、あげく口論になりかねない熱心さ。今この状景に近い親子の羽根うちを見ると、ついアレ、コレの声かけをしたく……。

私も庭先きではじめ日毎に熱に冒されたようトリコになった30年代に、市協会の初心者大会に参加。出ると負けのくりかえしも、ネットをはさんでの敵も、握手をすれば良き友。この時に県ベテラン友の会との親善試合で会場は宮一女か尚絅女の体育館。施設も整っているので、つい一流選手になったよう。

友の会の例会は30人前後。初心者から本もののベテランまで、試合は攻守に多技、好芸。相手になって前後、左右に走り回され、汗水たらし、息きらし……よし!!　そのうち1ポイントをとってやる!!　かえりはそばやの冷酒で乾杯。これも将来への励みと楽しみにし。

運動神経と体力の鍛練に自信をもちながらバトの先輩に迫るまでと、自宅庭先きで素振り、フットワークを自己流に鍛えながら迎えた仙台市教委主催（33年7月）男子ダブルスの1部、名取・佐藤己組で準優勝。このときの準優勝では藤田・佐藤健組。ご両人には手とり足とり初歩から教えて下さった大先生ペアに勝ち、よろこびよりも試合で恩がえしが

できたことが何よりでした。

第13回県民体育大会（同年9月）壮年ダブルスに佐藤己・山川で二位。第12回東北選手権（35年9月・秋田県象潟）壮年ダブルスで藤田・佐藤組で初優勝。第13回福島大会で2連勝、第14回八戸大会で3連勝を果たせたのはリードの素晴らしい蒔田修先輩のパートナーにして頂いた為と感謝して居ます。

その後、しばらく公式試合に出場する機会もなく、第1回東北総体兼26回選手権に高年ダブルスが新設（49年9月）井上薫・佐藤己で優勝。私のバド人生によき思い出を追加。

健康都布宣言の仙台市教委のスポーツ教室（45年6月）勤労者教室（48年）家庭婦人の教室など、仙台市協会が底辺開発に全力をあげ、その成果も日毎に表面化しているとき、いつも笑顔、特に一杯やりながら次にどうするか？　熱をこめて語る荘司達治氏に改めて敬意を棒げるものです。

縁あって30数年をバドを友にしての充実感に、多くの同好会が技をせり合い一日も早く頂点をきわめ、県・市協会の発展と繁栄を祈念します。

（〒983　仙台市大和町1―9―13）

家庭婦人バド…

宮城県事業団連盟
理事長　奈良坂　孝



宮城県仙台市バドミントン協会が創立40周年を迎え心よりお祝い申し上げ特に永年にわたり市協会の笹氣会長に深く敬意を……皆様に厚くお礼を

私自身ついこの間宮城県、仙台市協会が30周年記年史を発刊。今度は仙台市が40周年記念史とのこと、この長い10年がこんなに短く感ずるような年令になったかと思うと感無量です。50年が80年に伸びた人生お互いに一層頑張りましょう。

私は実業団の世話役（理事長）をさせて居りますが、ふりかえると現在の実業団は42年に県協会副理事長の湯村治夫（仙台通産局）相沢直道（東北大学）、菅原武義（七十七銀行）、石持亘一（仙台自衛隊）、斉藤隆（簡易保険局）他の人々で事業所の競技普及、技術の向上、企業に働く者の健康増進と底辺の拡大と相互の友好をはかる目的に再出発、43年理事に52年から理事長にすでに10年をすごしました。

発足当時は10チームたらず、自衛隊体育館（仙台沖地震で使用不能）や東北大学片平体育館に羽根を持ち寄り大会を開催し10年後には35、現在は41団体60チームまで成長しました。ところが私は実業団選出理事とのことですが名ばかりで皆さんに常にご迷惑ばかりおかけしていることをまずお詫びします。

市協会で40周年出版について笹氣会長、菅原理事長から原稿の依頼があり何を書いたら良いのか悩みながら家庭婦人とバドについて思い出を……と筆を取った次第。

確か国内の大学が安全補償条約で揺れに揺れて東京大、早稲田大学、東北大学、各地のほとんどの大学が学内の建物を学生の手によって封鎖されましたがトリデが陥落して大学構内にも平和が少しずつ戻ってきた44年春県協会の中村隆理事長から、今年度社会体育の一環として県スポーツセンターで家庭婦人を対象にバド教室（女性スポーツ教室）の講師をしてくれないかとのこと、私は指導するなど、とんでもないと断りましたが荘司達治さんとも相談ともかく家庭婦人のためのこと引き受け当時の武山指導課長に対面しての話では、教室はバレー50人、卓球30人、バドミントン30人の三教室。バレーは募集するとすぐ定員。が卓球・バドはなかなか定員にならない……。開講式は色とりどりの服装で（バレーシューズ・スカートとか）卓球と合せて23～24名だけ。

卓球とバドミントンにわけるとバドはうそのようにたった3人でした。それでも回を重ねる毎に5・8・10人どまり。武山課長と卓球をやりながらバド勧誘、職員の松浦茂さんに事務室に入会希望の人達をバドにさそってもらい人員を増やしたり……。ところが最初の頃は転勤者が余暇にと言う人達が多く、又庭先とか道路でやるもの、体力が続かず止める人も。それでも段々と人員も加わり高校での経験者が加わりゲームがどうにかできるようになりそれに各体育館でのバド教室が開かれ47年に県スポーツセンター主催の第1回家庭婦人大会が行なわれその時はダブルス大会でした。

この頃から私の妻も重い腰をあげ日曜日には一諸に練習に。夫婦で仙台市の大会などにも参加させて頂きました。

以後51年の第5回大会から現在の団体試合になった。私と一諸に講師として手伝って下さった高野一枝、鈴木京子、宮城学院大、福祉大のバドミントン部員の皆さんにご協力の御礼を……。

現在は街を歩けばラケットを持って歩いている人を見ない日はない程……。又仙台市体育館の教室を見ても募集すると受付に長蛇の列で抽選が日常茶飯事。

県内の家庭婦人のバドミントン同好者は三千人とも言われ一層の増加と発展にみんなで努力しようではありませんか、最後に皆様も健康に留意されいつまでも若々しくバドに情熱を燃やし共に協会の発展に努力しましょう。

（〒985　多賀城市丸山1―17―16―11）

バドミントンと共に

古橋政紀



ついこの間、30周年を迎えたと思っていたら、もう10年がすぎてしまった。この10年間、バドミントンを通して充実した毎日を過してきたと思う。11年前にR・S広瀬として店を出した。その時から私はバドミントンと切っても切れない仲となり心に誓った事がある。

それはまず私が言いたいのは諸先輩には申し訳ないが少しでもバドミントンと言うスポーツをより多くの人々にわかって頂くこと、又私もまがりなりにも選手生活を送った一人として、まだマイナースポーツのバドミントンを少しでも早く子供達にわかって頂き、よい素質の子供を見つけ、レベルアップにつなげる事が目標であり夢でもあった。

この10年バドミントンは急激な普及がなされてきた。特に家庭婦人、勤労者への伸びが著るしく、どこの体育館を見てもその盛況ぶりが現われている。又学区体協の活動も発展の一途をたどっているではないか、又普及だけでなく家庭婦人、社会人となってから始めた方の技術の進歩も素晴らしく数年前までは学生時代に経験した人と、未経験者とは大分実力の差があるように思われたが、現在ではどうだろうか！　各種大会をみても誰か経験者で、誰が未経験者なのかわからないと言うのが実体のようです。

私も3年前から仙台市協会の役員として仲間入りしました。どちらかと云うと協会の事業は普及、発展と云う面に力が入れられていると思う。そこで各クラス別の大会等、盛んに行なわれているがそのクラス別のランクの分け方に対するトラブルが後をたたなかった。これを解消する為にこの登録制を導入してきたが、まだ改良する点は沢山有ると思う。

又協会の主催する行事の有り方等、これからも皆さんのご意見、ご要望をお聞かせ頂きたいと思います。家庭婦人、勤労者への普及がこれ程急激に延びてきていると云うのに、小中高生のバドミントンへの理解度はまだまだといっていいのではないか。

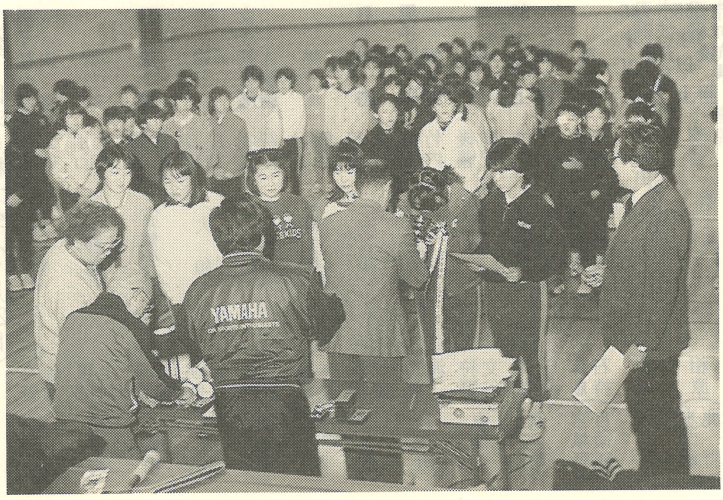
ジュニアに対しての指導、発掘も考えて60年7月に小学生のバドミントンクラブを発足させました。何しろ日曜の休みもほとんどなく夜も帰りがおそいので子供達に教えられる

時間といえば朝しかなく週2回水曜日は早朝6時から7時、又日曜日は6時から8時ときびしい時間帯の中、地元の皆さんの協力もあり20数人の会員が集まりました。

このきびしい時間帯にもかかわらず子供達はもっと練習したいとの希望が多く10月より金曜日も時間の練習時間を設けました。翌年にはスポーツ少年団にも加盟しました。といっても仙台市内にはバドミントンを行っているスポーツ少年団は一つもなく何事も自分で経験して皆さんに加盟して頂く目的で参加したのです。お陰様で今年は3団体になりこれから交流大会もでき又一つ楽しみが増えました。各地区の皆さん是非お子さんにラケットを握るチャンスを与えて下さい!!又できましたらサークルを作って活動させて下さい。

最後に私達が店を出すに当り何も分からない私達に仕事のアドバイスをあたえてくれた、又市協会の生き字引きと云われた荘司達治さんと、私の考え方の師であった中村隆元理事長の太く短かかった人生、お二人の熱意にまける事なく自分も努力していきますのでどうか見守って下さい。

（〒981－11　仙台市四郎丸字吹上72－6）





◇昭和62年度仙台市協会競技記録

①新緑ジュニア大会（5月5日）

男子決勝
梅田 我妻（貝ヶ森四郎丸） 2―0 湯村 奥山（高砂）

第三位
古橋 永浦（四郎丸） 板橋 期上（七郷）

女子決勝
村上 菅井（東四郎丸） 2―0 貴田 渡辺（ウルス・ラ教室）

第三位
小熊 友利（四郎丸） 平間 遠藤（四郎丸）

②第8回社会人学区対抗（5月31日）

決勝 沖野 2―1 西多賀

③第13回家庭婦人学区対抗（6月4日）

決勝 田子体協 2―1 桜ヶ丘体協

④仙台市女子ダブルス大会（7月9日）

初心者A決勝
阿部 八木（立町） 2―0 山田 桑原（ふくしゅう）

第三位
名取 小浜（人来田） 千葉 大場（勤体）

初心者B決勝
後藤 小野（四郎丸） 2―0 村上（金沢） 遠藤（西中田）

第三位
平間 後藤（八本松） 高柳（西中田） 歌川（八木山）

中級者決勝
大内 仁木（高砂） 2―0 丹野（ふくしゅう） 畠山（川平）

第三位
坂下 斎藤（榴ヶ岡） 後藤 佐々木（荒町）

⑤仙台市民男子ダブルス大会（8月2日）

初心者決勝
岡本 窪田（常盤木ク） 2―0 千葉 本田（原町）

第三位
庄司 金野（大和） 角井（幸町南） 村上（幸町）

中級者決勝
斎藤 丹野（大野田西多賀） 2―1 花岡 佐々木（高砂）

第三位
千葉 千葉（長町） 千葉（四郎丸宮城野） 東前

⑥夏季ジュニア大会（8月16日）

男子決勝 高砂 2―0 四郎丸
女子決勝 東四郎丸小 2―1 四郎丸

⑦第6回荘司杯大会（9月20日）

男子初心者決勝
鈴木 大竹（沖野） 2―0 今野 鈴木（南小泉）

第三位
川口 古沢（中野栄） 風間 上村（扇町）

B決勝
関口 窪田（常盤木ク） 2―1 今野 横田（八本松）

第三位
及川 庄司（大和） 河原木 坂本（大和）

女子初心者A決勝
我妻 智田（八本松八木山） 2―0 金野 千葉（鹿野）

第三位
白石 熊谷（南小泉） 藤島 千葉（原町）

B決勝
箱崎 大内（ふくしゅう） 2―0 石橋 加藤（南小泉）

男子35才未満決勝
鈴木 竹内（市同好会） 2―1 遠藤 渡辺（長町）

第三位
後藤 岡田（常盤木ク） 狩野 文谷（東仙台）

35才以上決勝
沖村 千葉（東北電力タカハシク） 2―1 千葉 千葉（長町）

第三位
佐藤 斎藤（西多賀大野田） 森島（宮城野石持自衛隊）

45才以上優勝
大和田 菅原（長町）

55才以上優勝
安斎 相原（東北大職鹿野）

女子30才未満決勝
山本 飯田（タカハシク） 2―0 谷村 沖中（市同好会）

30才以上決勝
辻 二階堂（荒町西多賀） 2―0 森島（宮城野）宗宮（勤体ク）

第三位
大内 仁木（高砂田子） 高沢 八木（木町）

⑧第5回中学校大会（10月11日）

男子決勝 袋原中 2―0 七郷中
女子決勝 ウルス・ラ中 2―0 七郷中

⑨第24回仙台市民総合体育大会（11月22日）

40才以上優勝 千田 佐藤（桜ヶ丘文郷）

一般男子決勝
菊地 渡辺（BLCタカハシク） 2―1 古橋 木下（広瀬ク）

女子決勝
古橋 根本（四郎丸ふくしゅう）

男子C決勝
富久 佐藤（宮城工） 2―1 菅野 鈴木（仙台商）

第三位
小浜 太田（人来田長町） 渋谷 渡辺（仙台商）

B決勝
森 佐々木（宮城工） 2―0 山口（鹿野） 佐藤（SBD）

第三位
菅原 友友（南小泉） 太田 近藤（片平）

A決勝
渡辺 志村（タカハシク） 2―0 庄司 渡部（宮城工）

第三位
斎藤 小林（幸町南） 高野 阿部（SBD）

女子C級決勝
志子田 吉田（宮城学院） 2―0 小原（森の会） 田口

B級決勝
谷村 沖中（市同好会） 2―0 青野 板橋（市同好会）

第三位
千葉 山本（七郷高砂） 根本 安斎（ふくしゅう）

A級決勝
古橋 阿部（四郎丸連坊） 2―0 根本 安斎（仙高ク ふくしゅう）

第三位
安斎 安斎 斎藤 原農（常盤木ク）

⑩62年度仙台市ミックス大会（12月13日）

一部上級決勝
志村 飯田（タカハシク） 2―0 古橋 古橋（四郎丸）

二部中級
決勝　長谷川（桝　江）2―0 中島
横田　　佐々木（幸町）

第三位　増沢
及川
（桝井
萩の会）
後藤（四郎丸）
後藤

三部初級
決勝　安海
安海（市同好会）2―0 古沢
古沢（中野栄）

第三位　佐藤
三浦（郡　山）
成田（南小泉）
白石

⑪新春ジュニア大会（63年1月7日）
男子決勝　高砂A　2―0 七郷クA
女子決勝　東四郎
丸小A　2―0 四郎丸A

⑫仙台市シニア大会（2月21日）
男子80才以上　伊藤
植野（東芝仙台
中北電機）2―0 菱
中村（台　原）

90才以上
優勝　関
伊藤（中山体協）

100才以上
優勝　千葉
白木（自衛隊
BVC）

110才以上
優勝　瀬戸
飯塚（中山体協）

女子70才以上優勝　石橋
加藤（南小泉）

同準優勝　伊藤
佐藤（萩の会）

90才以上
優勝　佐藤
千田（六郷
桜ヶ丘）

⑬市民まつり・教市対抗予選（3月20日）
男子初心者A決勝　佐藤
庄司（国　見）2―0 鈴木
藤枝（郡　山）

第三位　星
横田（国　見）
栗原
安住（八木山）

同B決勝　三浦
佐藤（郡　山）2―0 鈴木
菅野（郡　山）

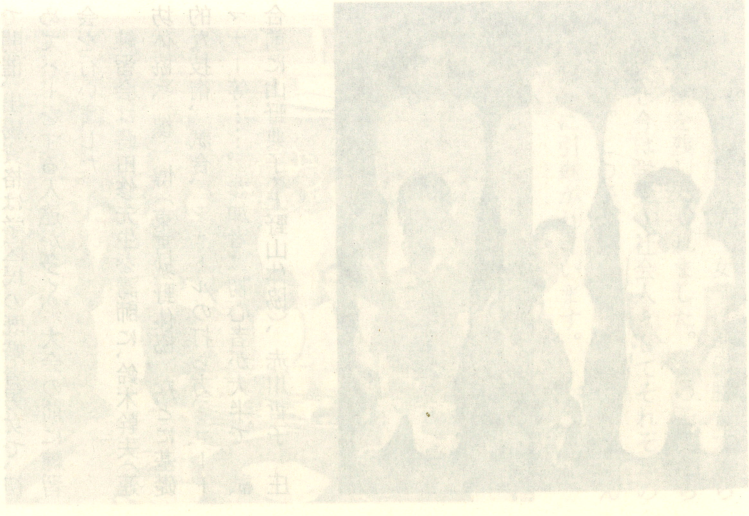
女子初心者A決勝　滝沢
鳴海（鶴ヶ谷東）2―0 桜田
斎藤（榴ヶ岡）

第三位　佐藤
川合（鶴ヶ谷東）
山田
古沢（中野栄）

同B優勝　千葉
佐々木（遠見塚
蒲　町）
三浦
石井（郡　山）

第二位　菅原
小関（南小泉）
谷村
沖中（市同好会）

都市対抗男子優勝
都市対抗女子優勝



〝礼〟が第一目標

七郷（木曜会）クラブ
植野策千

仙台市協会が創立40周年を迎え、おめでとうございます。

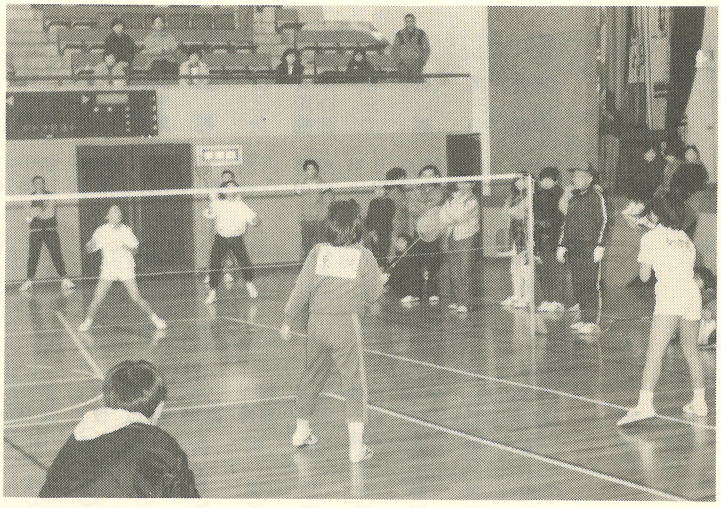
七郷クラブは昭和59年発足いらい、もう5年目を迎え、会員は小学生、中学生、高校生それに家庭婦人、社会人と巾広い会員で構成され、当時は学区内で実技として練習をしたいという要望から、子供たちを連れて参加しているうちに、子供たちも入会したい!!と、現在では80名近い会員が木曜日になると七郷中体育館で楽しく練習をして居ます。

クラブでの目標は「上達したい」のが勿論ですが、それよりも先に、子供も大人も挨拶ができるよう礼儀を身につける事を第一目標にしています。子供たちも少しずつですが目標に近くなって居ます。

そのせいもあってクラブの成績も月日とともに上昇。小学の部で東日本ジュニア大会に出場（東京青梅市）男子第三位、中学の部では宮城県大会、新人大会などで上位入賞ができるように、家庭婦人も子供たちに負けるものかと各種大会で上位入賞を目指し頑張って居ます。

この頑張りも、役員、世話役に全会員の協力があるからだと確信して居ます。この強みは地域、学校などの協力があって、会員の励みの基礎に……。なお会員は随時募集しながら地域と会員の相互協力で、少しでも早く上達するよう協力して居るので協会の皆さまの、今後とも指導のほどを厚くお願いします。

（〒982　仙台市荒井字下在家所東114）



部全体に躍進ムード

連坊体協クラブ　柴崎信子

連坊体協バドミントン部が発足して今年で13年目になります。昭和51年に連坊学区体育協会が設立され、同体協の行事として連坊学区体育協会主催の第1回大会を連坊小体育館で開催、出場資格は学区民の既婚者男女で、初めてバドをする人達が多く、大会の前に練習会を行いました。

練習会は蒔田修先生を講師に、鈴木幹夫（連坊体協）、槙一博（東宮城野体協）などに基礎的な技術、試合、シャトルの打ち方、コートマナー等……。参加者は初心者が大半で、試合前に山野典子（上野山体協）、赤川哲子、庄



子豊子さんの模範試合に、みんなうっとり見入って居ました。

これを契機に、蒔田先生を中心に同好者29名で「連坊体協バドミントン部」として毎週日曜日に連坊小体育館で練習。体育館いっぱいになって、練習はにぎやかに、活発な活動をはじめました。

各種大会、研修会、講習会等にも積極的に参加。レジャーセンターの同好会(真山会長)にも部員が団体で入会。荘司達治氏の要請で、(世話役に蒔田修、佐藤正雄さん)こゝでの技術、スポーツマンとしての心構え、コートのマナー、それぞれのふれ合いの中、言葉では語れない、書きつくせないいろいろなことを習得……。それは学区の練習で、はっきりと現われました。

部発足後の主な活動、成績はつぎの通り。市学区民大会ブロック大会は、部が発足してまもない(52年1月)第四ブロック大会に初めての参加で三位。12月の同大会(2回)では連坊A、Bチームとも初優勝を飾りました。第四ブロックの代表で出場した第1回市学区民大会は(52年度)三位でした。53年の大会には荒町チームに2回戦で惜敗、いろいろ鍛えられました。つぎの年、連坊と荒町が第四から、第三に変更になった大会では優勝荒町、連坊は準優勝で、ブロック代表となり、第3回学区民大会に出場、優勝向山、準優勝連坊、三位片平、荒町と、全部さきの第四ブロックの学区でした。

55年度の連坊のチームは最高に乗っている時で第三の代表として前年と同じよう荒町と連坊チームが第4回市学区民大会に出場。決勝は荒町とせり合い、結局3―2で連坊チームが初優勝に輝き、大喜びをした思い出があります。

この試合では大活躍の槙、三浦、金野、宗像、門脇さんなど男子、女子の会員が一丸となって団結と協力がすばらしい結果に……特に女子の山野典子さんの指導は素晴らしく、すばやい行動力、パワー、元気な掛け声は連坊の山野さんと有名でした。

53年の第4回市家庭婦人学区大会は、山野さんをリーダーとした連坊A、Bの2チームが出場。Aが準優勝、第7回大会(56)年にはついにAが待望の初優勝を果たしました。選手は山野、庄子、赤川、柴崎、門脇、村主さんです。

54年から小学生のため(ジュニア大会)学校、先生などの協力で放課後の体育館が解放され練習会が始まり、部員の子供達を中心に、山野さんのコーチで部員同志が指導に、子供たちは日々活発に、積極的に練習を……日毎に上達。この年のジュニア大会は連坊男子が準優勝。子供達の卒業年(55年度)には、新緑ジュニア大会で女子チームが初優勝。新春大会は男子が初優勝。女子は準優勝とすばらしい成績を残してくれました。この子供たちも成長し今は学生、社会人としてそれぞれの場で活躍。この子供練習会は熱心なお母さん方に強力に引継がれています。



県家庭婦人大会については第8回大会(54年)では連坊A・Bが出場、二部でAが三部でBがそれぞれ優勝、チーム各選手全員の氏名が新聞に……、その時の記事をいまだに保存しています。その後毎年出場しましたが記録に残るものとして、五十七年第11回大会(57年)で石巻に惜敗。一部で三位、このときは、新入会の佐藤八重子さんのスマッシュが印象

的でした。また、第16回大会（62年）では一部準優勝、それは阿部和子さんの大活躍の結果で、昨年阿部さんのほか多くの人が入会、部全体が活気に満々、みな張り切って練習、試合に良い成績を記録、久しぶりに連坊の活躍が目立ってきました。これからも部員同志の「相互の親睦」「体力増進」「技術向上」を目指して、頑張りつゞける決心です。今後とも御指導の程をお願い申し上げ宮城県・仙台市協会のご発展を心よりお祈りしております。

（〒980　仙台市新寺小路24）

中学でも頑張ろう

連坊ジュニア
連坊小学校6年　佐藤真輝子

学校の新学期が始まってまもなく、クラブの部員募集のポスターを私と横山雅子さんとで作り、先生にとどけ、各階の校内掲示板にはり、部員募集をしました。

四月中旬に部員6年生13、5年生10、4年生12、3年生2、1年生2の申し込みがあり総員で39名。指導して下さるのは連坊体協バドミントン部のお母さん方です。練習は毎週水曜日2時から5時まで……。個人、団体といろいろな大会にも参加しました。

私は5年生の時からはじめ、バドミントンを甘く見て、すぐやりこなせるだろうと思っていましたが、やって見るととてもハードなスポーツで、ラケットで打つとどこへ飛んで行くか全くわからない状態でした。

しかし体協のお母さん方が一生けん命教えてくれるので今では試合らしいことが出来るようになりやってよかったなァと思うようになりました。



今年は試合でもらったメダルが2個。夏季ジュニア団体の第三位、県新春ジュニア団体第三位のメダルです。皆で力を合せて頑張った成果だと体協のお母さん方にほめられました。

中学生になってもこれを宝物に、もっとうまくなるように頑張っていきたいと思います。写真は柴崎さんが写してくれた体協のお母さん方と私たちです。それからも連坊小の後輩たちが優勝を目標に頑張ってくれるよう……？。

目標は実力の向上

グリップ・クラブ　加納博

私達は昭和52年頃に、宮城県身体障害者体育センターで、卓球クラブからコート一面を使用させてもらい、5―6人で、クラブ名を「グリップ」と名付けスタートしたということです。

最初からの部員がほとんどいないのでわからないところもあるのです……。現在は渡辺保雄部長を中心に30名ほどの部員で毎週金曜日、6時―8時まで、体育館に集っています。平均年令30才？。それでも独身貴族が多く、毎月のように名目を付けては、飲み会を開き、ま

た、冬になればスキーと、バドミントンを中心にして、付き合っています。

また、年2回ほど、グリップ以外のクラブとの交流を目的に「グリップ大会」を開催して、多くの方と楽しい試合をして居ます。今後は、市の大会にも参加、実力？　をつけるよう頑張って居ます。

最後になりましたが、協会が一層の発展するよう……。

（〒983　仙台市栄町4―6―1
身障者体育センター受付）

元気一杯の会員です

六郷トラーズ
会長　敦賀　恵美子

六郷シャトラーズは59年10月市民センターで発足、会員30名。バドミントンを通じ会員相互の親睦と研修を目的に週1回楽しみながら汗を流しております。

（〒982―01　仙台市沖野3―5―2）

各種大会に優勝

高砂クラブ　湯村秀子



仙台市協会設立40周年おめでとう。私たちも、公民館教室から始まり、クラブとして10周年になります。

コートには小学校の体育館で、建ててから相当の年数をすぎ、天井がひくいので、ドリブンクリアが特に上達……。その頃は近くに居てシャトルを打てるだけで幸せだと思っていました。その頃3才だった子供たちも、もう小学校卒業を迎えよう……と。

クラブ部員は20人ほどですが、幼稚園、各教室、体協などそれぞれに練習に通って居る人を加えると、この高砂地区のバド人口は相当数になり、各種大会の団体・個人試合で「優勝」を記録するなど活躍して居ます。

当クラブは特に〝うまい〟人は居ませんがチームワークの良さと、若さで頑張って居ま



す。家族の協力と理解のもとでママさんバドを続けられることを深く感謝して、きょうも、明日もシャトルを追いかけて居ることでしょう……。

父兄の自主運営

高砂ジュニア

主人(治夫)と共に指導をはじめてから、もう10年目を迎えます。

最初は高砂公民館主催の小学生教室でスタートしました。そのころの小学生に、このバド競技を教えるところが少なく、大会があると、いつも高砂が優勝候補でした。

現在は参加チームも多くなって、上位入賞も容易でなくなりました。2年前から父兄による自主運営となり、毎週土曜日、田子小体育館で練習。ここで育った子供達が、中学・高校・大学・社会人となって全国大会等で、活躍するよう願って居ます。

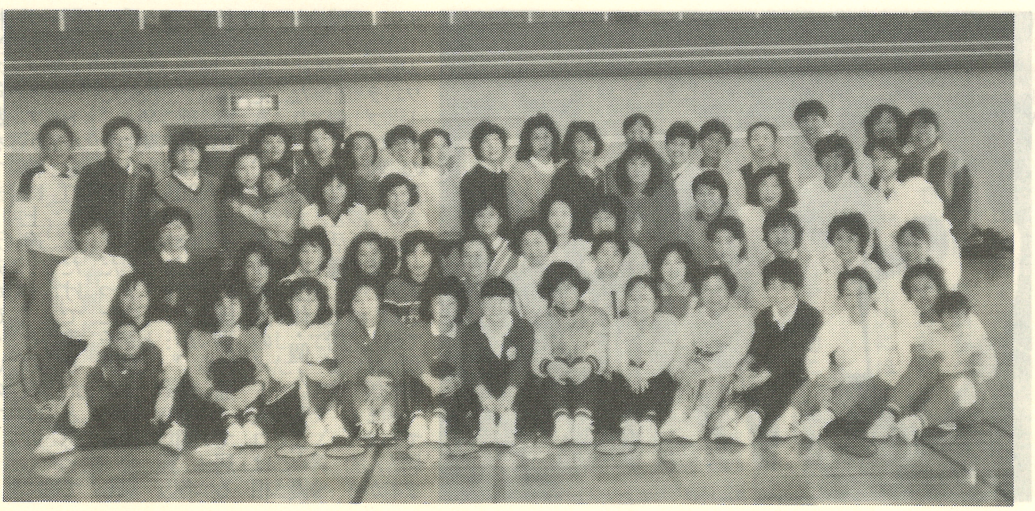
(〒983　仙台市田子駒除285—5)

健康と仲間の和

勤労主婦同好会　宗宮照子

私たちのクラブは勤労者体育館と共に歩んできました。それ以前は勤体での主婦教室でした。バドのすばらしさを知り、同好会とし





て続けることに決め、毎週火曜日の午前に百名近い大所帯でも和気あいあいに、楽しく、ときにはファイト満々でシャトルを追ってコートを走り回って居ます。

目標は上達することですが、それ以上に健康つくり、仲間の和を……そのために館内はシャトルを打つ音より笑い声がいっぱい。家庭のストレスを吹きとばして居ます。

お互いに練習のときはケガなど事故を絶対におこさないよう、コート内のフットワークから基本の打ち方、眼に見えなくとも日一日の前進に頑張って居ます。よろしくお願いします。

（〒982　仙台市中倉2―19―10―301）

技術向上に努力

宮城野クラブ　沼倉貞江

私たちの宮城野クは成嶋代表を頂点とした老幼男女の集まりです。毎週土曜日の夜（宮城野小）練習に励んでいます。勤労者体育館も近く、コッソリ技術向上に努力している仲間も居ます。

（〒983　仙台市宮城野2―9―5）

みんな胸ふくらまし……



中田公民館クラブ　佐々木知子

56年4月、中田公民館に井上薫先生を招いて教室を開き、58年までの2年間も続けて教室を終了しました。

このとき教室育ちのOGたちでクラブを結成、午前は教室、午後はクラブの練習としました。井上先生は多忙をいとわず指導に奔走して下さいました。

その後、61年から各教室が公民館から独立して自主運営のクラブになり、それまでの教室1クラブが一つのクラブで活動をはじめて現在となったのです。

練習は金曜日（午前9時―正午）月3回。子連れのママから年輩の主婦まで、色とりどりで頑張って居ます。ことしの4月から体育館



も新築され、コートも2面から4面にふえましたので、みんなが胸をふくらましながらこれまで以上に健康と美容のためにハッスルしています。よろしく……。

（〒981－11　仙台市中田町字南首長1－5）

全員若さで団結

七郷シャトラーズ

田園風景がまだまだ残っているすばらしい七郷地区です。公民館開館の58年に6ヶ月間の教室が開かれ、その後希望者だけでクラブをつくりました。

とてもきれいな体育館で毎週火曜日の午前中が練習日です。人数も当初は30名ではじめましたが転勤などでだいぶ入れ替わり、現在は26名で2面のコートをフルに使用して居ます。家庭婦人のいろいろな大会には毎年参加することを楽しみに練習に励んで居ます。中でも一番楽しい試合は、七郷公民館館長杯です。館の皆様にも出席してもらい、笑いの中で試合が始まり―終りの頃には、お互いに笑いジワがたくさん目だつほど……。

また、秋には公民館祭りなどの手伝いなど七郷シャトラーズは年齢差はありますが、気持ちは全員若さで団結しております!!。

技術も日毎に向上

福沢センター教室

代表者　錦戸　のぶ子



バドミントン講習がきっかけで出来た教室です。打始めが新幹線上野乗入れと同月で、はや3年、コーチに恵まれてご指導頂くことができ、会員の技術も日毎に向上、若さいっぱいの中に相互理解のふれ合いも大事に「今日が一番若い」心安らぐひとときを過ごしており、会員の感想の一端を紹介します。

おそるおそる始めましたがサークルの人々とのさわやかなふれ合いとシャトルを打った時の感触にやっぱり下手でもやりたいです。

（A・W）



週に1度、家の事やその他の事を忘れバドミントンに打ち込む事が何よりのストレス発散するよい機会と続けている今日この頃です。（I・K）

常に使わない筋肉を思いっきり伸ばせるのは、とても気持ちのいい事です。健康貯金のつもりで来ています（H・O）

年令にかかわり合いなく、その体力に応じて出来るスポーツです。サークルの人達の暖かい心。スポーツ精神で永く続けるつもり……。（M・C）

平均年齢37歳

若林愛好会

仙台市バドミントン協会創立40周年、誠におめでとう。加えて40周年記念史に紙面に登場させていただき有難う。

若林愛好会が結成されてから未だ7―8年だと思います。現在の会員は女性14名、男子28名の合計42名。毎週月曜日の午後7時から若林小体育館で午後9時までの2時間、練習にはげんで居ます。

練習には仕事の都合など全員が揃うことは容易ではありませんが、つねに14―16名で練習試合をして居ます。メンバーの平均年齢は37歳前後、とにかく家庭的でなごやかに……特に楽しみにしているのは練習試合終了後の懇親会と1年に一度、一泊での家族旅行です。

以上のような活動をさらに充実させるよう話し合いも考え、ご指導を期待し、最後になりましたが、市協会の一層のご発展を……。



美男美女の快汗

郡山体協

部長 菅野則義

郡山小開校と同じで3年がすぎました。この新しい体育館で1週2回（水・土）約40名の若さに溢れる「美男・美女」達が、快汗？。を流して居ます。腕前は……それなりで他の



クラブとの練習試合もしています。

（〒982　仙台市郡山字北目宅地28）

熱をこめての練習

長町体協クラブ　遠藤茂美

私たちバドミントン部は昭和52年に長町体協と同時に発足し、もう11年をすごしました。現在の部員は32名。毎週月・木の午後7時―9時まで長町小体育館で、男女とも熱のこもった練習をつづけています。

部史に記録されているのを見ると▽家庭婦人（53年10月）2・3部で優勝▽第4ブロック（54年12月）優勝▽家庭婦人（55年10月）3ブロック優勝▽第4ブロック（56年11月）優勝……その他。62年には第4ブロックで優勝（11月）広瀬杯男子準優勝（12月）

クラブ11年の前半は女性たちの活躍が目立ち、後半になって男性たちの躍進に素晴しいものがあるようです。

最近では積極的に他チームとの交歓も多く南小泉体協、八木山、JR、郵政などとの練習試合を定期的に、これからも相互の技術を向上させるために「輪」をひろげようと部員一同、はりきっています。よろしく……。

（〒982　仙台市　長町7―19―26）



つねに一歩前進

八幡体協クラブ

部長　清水正勝

私たちのクラブは昭和47年に九州から八幡地区に転居の直後、県家庭婦人大会に優勝した三原宏子さんに指導をたのみ愛好会として発足しました。

当時は会員も少なく再三にわたって講習会を開いて普及に努力しながら現在の基礎をしっかり築いてくれた2年後の49年、同じ町内の眞壁幹雄さん（現・県協会理事長）を練習日に招き、基礎から徹底的に指導をお願いしたあと体協の部としてスタートしました。

現在の部員は女子18名、男子12名。こども16名（62年度スポーツ保険加入登録者により部員と認め、こどもは除く）その当時は部員数が少なく団体試合になるとオーダーを決めるのに四苦八苦しながらも辛抱の練習を見ての入部希望者が増えてきました。

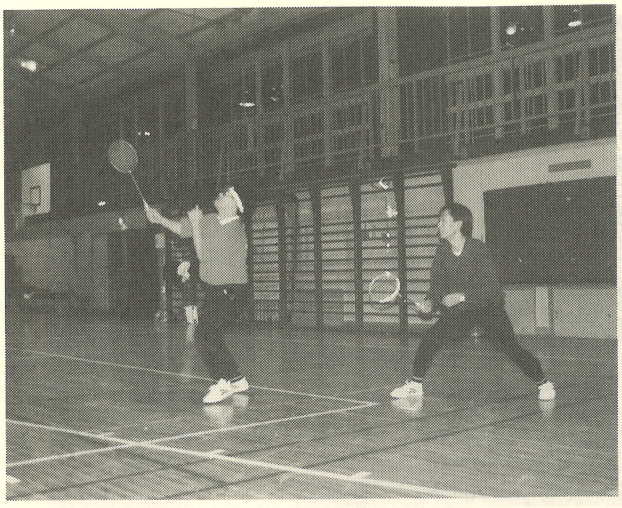
練習は週に2日（各2時間）コートに入っての1時間はひたすら基本打ちにフットワークなど、身体をほぐし、あたため、思わね事故をおこさないよう……それから男、女、こども別のダブルスに汗を流し、はげまし合いながらコートいっぱい走り回って居ます。

5年前までの八幡小体育館のバドコートは

2面だけ。これは今の仙台市の小学校は現在も同じと思いますが、3面にするためには大変苦労しました。

学校の管理する体育館にポールを立てるための工事、ラインひきなどその他の了解を得ること。つぎにポールを購入する資金（10万円）を、どこから、どのように捻出するか？学校側だけに迷惑をかけないよう、みんなであれこれと半年以上の四苦八苦……。

3面分の購入資金は各大会後の反省会などの残金、一ヶ月五百円の少ない会費で買うシャトルを一層節約等々、部員の協力でポールを購入したものの、学校からポールをたて、3面で練習を!!　認められたのが「半年後」



校長をはじめ関係団体のみなさんに苦労をかけ、協力をいただき、深くお礼を……。コートを3面に……全部員の希望を話し合ってから1年数ヶ月……ようやくコート3面の工事にこぎつけ、ポールは工事専門店と部員の共同作業で完成!!　みんな思わずバンザイでした。

またポールを設置した全ては学校に寄贈し週2回3コートを父・母・子と各1面ずつ……つねに一歩前進をモットーに頑張り続ける決心です。

最後になりましたが、協会創立は同じとか宮城県・仙台市バドミントン協会40周形を全部員で祝い、今後の発展をお祈りします。

（〒980　仙台市八幡2―15―23）

部員の総力で……

大野田クラブ
部長　斉藤　明

仙台市協会創立40周年を迎えたお祝いと、これまでの役員皆さん大変ご苦労さまです。

私たちの大野田学区クラブは現在の部員は20数名。スタートしたのが50年、初代の部長は花渕美彌子さんがお世話を……62年の第4ブロックから私（斉藤）が役員に選出されるまで大変お面倒をかけてきました。

部長になって役員という苦労がどんなものか、しみじみと味わいながら、部全員の協力で第4ブロック大会で優勝を飾り、本大会では準優勝。私も協会主催の中級者大会では西



多賀地区の丹野選手とペアで優勝するなど、ハッピーな年でした。これからも部の総力を結集させて、これまで以上の成績をあげたいと決意して居ます。

（〒982　仙台市大野田竹松6―3）

楽しみと苦労で……

大郷クラブ
部長　須藤禮三

宮城県・仙台市の両協会が同じ創立40周年を迎え、本当にお目出とう。県・市協会が発足したころには戦後間もないバドミントンとはどんなものか、それを認識させ、普及発展さようと40年。現在のこの競技の隆盛ぶりをもたらした功績に感銘するばかり……。

六郷体協も61年に、スタート以来10周年を迎え、1年おくれてバド部も10年目。総部員は約40名で、毎週火・土の午後7時から9時まで六郷小体育館か、六郷市民センターで、たのしみと苦労をしながら練習をして居ます。

部員には学生時代に活躍、入部後もバリバリと市の大会で入賞、また初心者でコーチの指導で、いつかは……と希望に胸ふくらませながらの人達がともに練習に精を出しています。

最後になりましたが今後とも協会がさらに発展することを―それにつけてもこの六郷の回顧と希望が40周年史にはっきり印刷されることに全部員を代表して深く感謝します。



新人の入部に期待

台原体協　武田道子

台原体協バド部は、男子11名、女子10名で、毎週日曜日台原小体育館で練習。また4月から11月まで体育館は一般開放月になり、地域の中学生、主婦、社会人との交流練習を行っています。

男子は実力伯仲で、練習に、試合に活気いっぱい!!。女子は部発足以来メンバーはあまり変りなく活躍中。新人の入部を期待しながら、部員の私が部のほこり（ゴメンナサイ）となって居ます。

（〒983　仙台市台原六―13―86）





一勝して部に花を

原町体協　千葉　千恵子



わが原町体協バドミントン部が発足して未だ3年。人数も少ないですが、毎週水・土の夜、練習しています。私達の部はいつも和気あいあいシャトルを打ち、一生けんめいゲームを楽しみ、世間話に花を咲かせ、みんな頑張っています。今年こそは、いろいろな試合に出場して原町体協の名前を印象づけ、ぜひ1勝して、部の花を咲かせたいと思っています。

（〒983　仙台市清水沼2―9―18）

創部一年、これから……

川平体協の横顔　丹野　エツ

仙台市の北西部に位置する川平。私達川平体協バドミントン部は、近く創部1年目を迎えます。部員はこの競技をこよなく愛する面々。「和気合々」をモットーに毎週水曜日夜7時から川平小体育館で汗を流しています。

年間の活動目標は各大会への積極的参加、町内対抗大会のお手伝い、他チームとの交流試合、部内紅白対抗試合等があります。部員の平均年令は〇〇才ですが、コートに入りシャトルを追いかける姿はまだ10代？　と思われると外部の方の評判……。

これからは対外試合で多くの勝ち星をあげる事を目指し、きょうも熱心に練習に励んでいます。今一番の悩みは、新入部員が少ないことで、多くの人達にバドの楽しさを知ってもらい、和気合々の和がもっと地域に広がるよう、部員一同協力し、前進したいと思って居ます。

（〒980　仙台市郡山22―31）

前進のための反省

桜ヶ丘体協
部長　青山　隆



桜ヶ丘バドミントン専門部は体協発足と同時につくられ今年で13年目を迎えます。学区民の健康増進と相互の親睦をはかり、あかるい生活環境をつくる目的で、週に1回日曜日か土曜日に教室を開催。

昨年から毎週木曜日に初心者教室を午後7時から2時間。これで週2回気持よい汗をながしながら練習の成果を互いに反省し、さらに前進を語り合ったり……。

しかし気候のよい頃は参加者も多く楽しいのですが、寒くなってくると一人、二人と欠席者が目立ち広い体育館は6—7人、あいたコートに申しわけないみたい。



ことしも教室をひらいた他に専門部の活動として「夏まつり」「運動会」「区民バド大会」等々。目標には①第6ブロック内のできるだけ多くの学区交流（定期）②学区民大会に全町内会の参加③教室に参加者の増加をはかる（第6ブロックでの優勝。市大会での優勝を目指す。）

交流試合を希望する体協からの連絡に期待して居ます。

（〒980　仙台市桜ヶ丘1—27—1124）

部の充実が課題

国見体協　大内　侃

10年前5—6人だけでスタートした当部も現在は48名になり、男、女半々、しかし残念なことは練習となると常に15人程度になること。年令層は25才—50才までと巾広いもの、平均すると38才……やや?。

練習は国見小体育館、市のコミュニティ施設を借り、木、土、日の各2時間。特に土曜は午後1時半から5時まで、しかもコート3面を使っての運動量はかなりの。

新年会、花見、芋煮会、忘年会、祝勝会それに残念会など懇親会も多く部員の親睦をはかっている。



試合は男女合せて12―13回。月に1試合のペース。1試合でも多く出場し、雰囲気になれることが勝利の秘訣であり、状況のゆるす限り出場するよう努めている。

大きな大会は6ブロックと仙台市学区大会で、前年は6ブロック2位・学区大会はリーグで1勝もあげられず惨敗。今年はなんとか決勝トーナメント進出が部員の目標。

1月に貝ヶ森体協が発足したので、いつの日か別れる日がくる。学区指定の試合に人数の不足で出場できない？　それが心配である。

ことしは広く、部の存在を周知、多くの住民が参加できる機会をつくり、部の充実をはかることが大きな課題……。

（〒981　仙台市国見1―7―20）

学区民に愛される

片平体協　中山　美砂子

創設いらい14年を迎えた片平体協は、部員数20名。この1～2年の対外試合成績はあまり自慢できませんが、これまでの輝かしい伝統のもと、学区体協の重要な一翼として活動を続けて居ます。

諸先輩の努力により片平学区は、愛好者の多い学区になっています。片平小体育館には、各町内会単位の「スポーツを楽しむ会」がつねに行われて、その内容の大部分がバドを楽しむために使われて居ます。

当部主催による年1回の学区民大会は、これらの人々の待ちのぞんでいる一大イベントで、盛大に行われ、これから一層学区民に愛され、育てられつつ前進します。



活気でいっぱい!!

（〒980　仙台市米ヶ袋2―1―17―302）

福室同好会　加藤　紀美子

私たち福室の同好会は男子8名、女子14名



の計22名です。毎週木、土の2回、午後7時から9時まで福室小体育館を借りて練習しています。

主婦が多く体力向上と楽しむことを主旨として、20代—50代まで世代はさまざまですが心を一つにし、ベテランと共に和気あいあい練習にはげみ、時には歓声をあげながら、顔を上気させ体育館の中は活気でいっぱい。

2時間の練習をアッという間にすごし、体を思いっきり動かし良い汗を流したあとの爽快さは、明日への活力につながります。主婦にとっては運動不足とストレス解消との場にもしています。

会員は週2回の練習日を心待ちに、今後もさらに同好者を増やし、会の和を広げながら前進したいと努力中です。

病院より同好会へ

鈴木　美智子

福室同好会に入ってから2年になります。以前は高血圧と太りすぎ、肩凝りなどで病院に通うことが多かった46才。会員の人から減量と運動不足解消は「これが最高!!」と勧められて入会してみました。

最初のころは動悸……息切れなどで体が思うままにならず、休むことが多く、続けて行けるか不安でした。今ではそのようなこともなく体調も良く、週2回の練習をとても楽しみに、また休憩のときは情報交換などで色々と勉強になっています。

技術が上手、下手は別にして皆さんと対話のできることは、何よりの収穫だと思い、これからも体調と相談しながら、無理なく少しでも永く続けられたら……と思って居ます。

市大会で準優勝!!

田子体協

部長　日　塔　保　郎

仙台市バドミントン協会創立40周年、本当におめでとう。

わば田子小学区体協は、昨62年4月に田子小開校と同時に発足しました。活動をはじめた頃は高砂体協からわかれた10人前後で練習に余り盛りあがりに、今少し欠けるものがあったようでした。

そこで体協そのものの存在について検討、まず底辺拡大と！　初心者が気がるに参加できる雰囲気づくりを心がけ、各町内の部長を中心に各人のロこみで1—2名と増えつづけ現在は約60名の登録となりました。

その結果、学区民大会選抜を兼ねた最初の町内対抗には4町内で延べ百名という参加と無事故の大成功!!戦力が二分されながら各人の頑張りと抜群のチームワークで、ブロック予選に優勝。市大会で準優勝と予期しなかった記録をあげました。

現在は常に20名の会員が田子小体育館で週2回の練習に励んで居ます。個々の力倆はまだまだですが、現在の雰囲気を大切に、一歩



一歩と確実に基盤をつくり「田子体協」を県下に印象ずけたいと努力して居ます。

（〒983　仙台市田子字田子南32―2）

一週八回の練習……

高砂体協愛好会　花　岡　静　雄

62年4月、田子小開校で、私たち高砂から会員は10名ほどでしたが、そのため高砂の会員と戦力がダウンしました。

しかもブロック大会では田子と対戦しないよう願いながら一回戦で……。オーダーを決めるのに四苦八苦も甲斐なく、4月まで仲間だった人々と敗れての握手を余儀なくされてしまいました。

高砂は1週間に8回も練習する学区です。また第一歩から頑張らなくてはと全員で高砂居住者から愛好者を募集中です。

（〒983　仙台市福住町20―1）



細くても永く……

八木山南　林　直　子

40周年おめでとう。私たち八木山もことしは10周年を迎えます。細くてもながーく続け



ようー「和」を大切に頑張って居ます。

（〒982　仙台市八木山南3―1―29）

毎日でも練習したい……

太白体協　高　橋　真理子

私たちの部は今年で10周年を迎えました。51年に太白団地ができた翌々年に太白小が開校。スポーツを通じ地域住民の親睦をはかろうと太白体協にバド部が誕生しました。

この競技をはじめてという人達が大半で、部員の性格をそのまま、当初は打つシャトルの音も静かで体育館は優雅な雰囲気に満ちて居ました。

それから4―5―10年と経験を積むうちに今ではシャトルをジャストミートしての快音が体育館いっぱいに鳴りひびき、中には技術の向上にビデオで研究したり、毎日でも練習したいという熱狂的な部員が現われるなど……。

激しいスポーツなので、？才まで続けられるかしら……と心配している部員も……将来はきっとゲートボールとかけもちで、プレーをしているかも……？。



みんなで楽しく

向山学区体育会
部長　山田道子



向山学区でシャトルを打ち始めてから、もう15年になります。そのとき体育指導委員の大岡英相氏に教えてもらい、県の家庭婦人大会にはバレー、卓球部員、それに津村副会長も次男夫人とパートで出場。コーチは往年の県代表選手だった長男夫人で話題になったことがありました。

勝敗にこだわらず、みんなで楽しく！　をキャッチフレーズに！　現在はちょっぴりジリ貧状態ですが、趣向をこらした初心者講習会を開いて、仲間の輪をより大きくひろげたいと思っています。

いい汗流そう!!

八木山学区体育協会　沼田桂子

仙台市バドミントン協会創立40周年、おめでとうございます。

八木山小の体育館に、地域の同好者が集って斉藤一夫さんを部長に愛好会を結成、体育協会発足と共に歩み、間もなく15年になろうとしています。百才ペア5組を先頭に若者クラスまで、〝いい汗流そう〟を合言葉に、各々の個性に合わせて羽根打ちを楽しんでいます。

（〒982　仙台市松ヶ丘33－12）

みんなで楽しく頑張ろう

八本松体協　部長　高子裕次



仙台市協会創立40周年おめでとう。これは役員、その他の人々がいろいろな障害を克服

しての結果で、今後一層の発展のため微力ながら八本松体協バド部も協力いたします。

当部の歴史は51年に及川初代部長を先頭に発足したのですが、当時は同好者も指導者も居ない状態だったようです。

設立から4年（54年）第1回学区民大会を開いてから徐々に同好の輪が広がりはじめ、沖村さんが二代目部長（55年）で、定例教室をひらき本格的な活動、高子さんが三代目（57年）その後に私（我妻）が四代目。このときの部員は15名、練習の参加者は10名前後……。

なんとか初心者を育てようと、ラケットの素振りから基本練習と順序よく、納得させながら……参加者も日毎に増えコート2面で足りないまでに……。

しかし郡山体協ができ（60年）部員数が半減。また部員増のため初心者大会（60年）を開催、親子ダブルスなどを加えたところ徐々に参加者が増え、30余名となって2回目の初心者、第8回の学区民大会が開かれるようになりました。

これが簡単な八本松の部史、しかし現在までに発展につくされたリーダー、全会員に深く頭をさげるものです。

私はこの競技は見るものでなく、やるスポーツだと思います。テレビで見ても迫力がなく、シーズンオフ、雨天中止もなく、真冬の体育館での10分の練習で汗が……。女性には日やけもないのです。

見ていると簡単そうで、やってみると難かしく、またおもしろく、ゲームになるとラリーが続くので、もう夢中……結論はみんなで楽しくやろうーです。

思い出して忘れられないのは、部長となった（57年）第4ブロック大会、指導して半年、どうにか試合をやれそうな部員たちだけでチームをつくり、不安そうな会員に「大丈夫!!」の声をかけ、結果は5パートの合計得点が11ポイント!!　反省会は大いに盛りあがり、練習日を1回から2回にバドキチが増加。いらいこの大会をなによりの目標に……。

八本松体協の根本元会長は「体協は選手養成所でない。広く、みんながスポーツをやれるよう世話をするのが使命だ」と……私が部長を引きうける原動力になりました。みんな仲よく、楽しく、とにかく頑張りましょう。

（〒982　八本松1―13―11―516）

充実した部つくりを

西中田体協　阿部和男

西中田体協バド部は西中田小開校（58年）と同時に発足、この3月で満5才となりました。当地区は新興住民宅地で年代層も比較的に若く、いろいろなスポーツもさかん……。

バド教室の練習は毎週（水曜）午後7時～9時まで。約40名が参加、熱がこもって気持ちよい汗を流し、その間に井戸端会議に夢中になって、ついうっかり忘れてゴメン……と。

また地区大会も春・秋の2回開催、それまで身につけた技術を競い合っています。それに東西対抗大会として中田―西中田の親善試合を―これは5年前に中田から新設の西中田小に移っても親睦はいつまでも続けることにしたのです。

市大会では第4ブロック代表で、過去に3回出場、62年度に初の1勝を……。この5年間を回顧すると、新興住宅地というと、とかく自分は自分でつい隣・近所のつき合いがおろそかになりがち……それを解消するため誰でも気がるに参加できるスポーツが……バドが一番と―みんなが、それぞれにコミュニケーションつくりに精を出して居ます。

当西中田もまだはじめたばかり、今後より一層、充実した部になるよう部員一同と努力します。皆々様のご声援を期待します。

（〒981-11　仙台市西中田51―21―6）

お互いに必死!!

東長町同好会　宮崎哲

東長町同好会は61年4月、男子14名、女子

11名でスタートしましたが、公務員住宅や市営住宅の人々が多く、異動転勤で部員が減少、再編成した現在（62年6月）男子8名、女子13名。

毎週の月・木の2回、若干ご年輩の方もふくまれていますが、これは本人も他人も意に介さずに、その日に少しでも技術が向上するようお互いそれぞれに必死!!　スポーツを通して親睦を深めたいと考えて居ます。

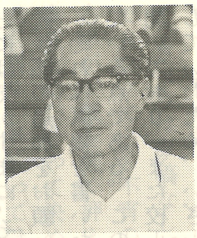
各体協、同好会のご指導を—こちらはまだ技術的に未熟ですが練習試合はドンと来い!!　お待ちしています。

（〒982　仙台市郡山8—6—31）



30周年史あれこれ…
これからのために…

會田高陽



二百十五ページにわたるこの記念史を一気に通読し、再び読みなおし、更に改めて目を通し……。

そして又「もくじ」からの拾い読み……何回でも思わず手にとってしまう……。それ程に内容が豊富で魅力的であった。この記念史を創り上げた編集氏の熱意と努力に対して、感謝する言葉を知らない。

漫然と、あるいは、とりとめもなく記憶にあった出来ごとが、たしかな事実として、あるいはその人の歴史として文字になって……それは〝もの凄い〟という表現が一番適切な迫力であった。

あの人は過去に、このような栄光を持つ人だということは知っては居ても、そこに至るまでの血と涙をまじえて、このような形で整理されてみると、その重厚さに、今さらのようにうたれる。

そして、それらの名選手を育てあげた方々の功績と苦労が紙面の裡から、ジワ…ジワと迫ってくるようであった。それらの方々が、ほとんど全て、今なおラケットを握ってバドミントンの指導と普及に務めて居られることに感嘆し、尊敬の念を新たにすると同時に、そのような人々を身近かに持つことのできるわが身の幸せを肌で感じている。

以後、私は「バド狂」などと自称することをやめる。おこがましくて、とても言えるものではない「バド狂」と今までに時々自負したことが恥かしい。この栄光につつまれた記念史には、私は矢張り何も書くべきではなかったのではないか……。

以下、気付いたこと、感じたことは個条書きに、気にさわるところがあったら深い事情を知らぬものの「たわごと」と失念の程を……

一、表紙・題字が大変によい。ひらきの紙の色（いわゆる気狂い色に近い）が明るくて好感がもてる。

二、紙質が良く、活字の大きさと形式とも申分なく、大変に読み易かった。

三、各氏の文章の「みだし」には苦労されたと思うが、非常に適切であった。やはり「みだし」があってよいものだ。また文末に郵便番号入りの各人の住所があるのは、大変に親切で行き届いていると思う。

四、価格とのかね合いであろうが、欲を言えば……写真はもっと多くてもよかったのではないか、例とえば10ページぐらい写真だけの特集があったら……と。

五、「もくじ」に、もう一つ工夫があっても



よかったと思う。例えば、挨拶の部分、写真の部分など活字の大きさ、余白などに変化をつけたら……と思う。

六、記録が別表になってしまったことは、やむを得ないことながら、やはり残念なことであった。

七、いわゆる広告のページが一枚もないことは、すっきりして気持ちがよい。たゞし、これは広告を絶対入れるなということを意味するものではない。

以上、気のつくまゝ暴言をならべた。寛容のほどを……。蒔田さんの云うように、毎年というのは無理としても、5年ごと程度に記念誌を発行したら、いかがだろう?。

末筆ながら、この記念史を非常に楽しく、かつ、なつかしく読んだことを繰りかえし申し上げて感謝の詞(ことば)に代える。

本当にありがとう。

(バド狂というのを止めた五十三年二月二十五日)

きょうもまた「羽ばたいて……」を手にしての拾い読み。毎日十分でも二十分でも、一度は手にしてパラパラとページを繰り、読むのが習慣なのである。

この日も読みはじめて、この前の感想文に書かなかった重要なことにハタと気付いた。気が付いたとなると、それを追加しないことには気がすまぬ。そこでおかしなことだが、読後感の追加をお願いする次第。

それは原稿を書いた各氏の写真がつけられている点である。このことは、ずっと前から聞いており、また校正用の印刷を一部見たりしていたため、いざ一冊の本になったのを見た時に、ごく当たり前のような気持ちになっていて、敢えて感想の中に入れようという気持ちにならなかった。真に相済まぬ話だ。

考えてみると〝無〟の状態にあって、いかなる形体のものを創りあげるかという根本方針を決めることが、実は最も苦したことではなかったのではないか……。

それにしても都合で写真をのせられなかった丁字(東北大)元岡(常盤木・野本)加藤ちはる、猪股、それにプレー中の古いのしかのってない村上忠治氏は残念。

そして原稿を書いた人のすべてが一番に見たであろう人の写真がどこにもないのは非常に不親切なことであった。期待を裏切られてガッカリしている人が沢山? 居るはず。ガンコなんだから……しようもないか—。

(五十三年三月五日夜)

(〒980 仙台市中央4丁目7—25—1208)

ばどみんとん・むしゅくものがたり
尾羽打枯下素浪人譚
PART. II

佐藤正雄

10年—ひと昔……などと遠い昔のように決めこんだ昨今、背に負うような後方の棚に10年前の「30年史」の全てを区分して大封筒におさめ、ヒョイとつまんだ一枚が県協会第一号の広報紙(五十六・三・七)事業計画・役員体制決まる!

役員体制(五十六・五十七年)名誉会長に浅野前会長、副会長に大岡氏をはじめ十二氏、

名誉会員は高橋氏ひとりのつもりが関谷、末永、荘司、渡辺氏に不宵が……びっくり驚天しながら2年間も名誉会員の席を汚し……知らなかったにしても……あったら穴に入りたい……。

県協会創立「30周年史」は日バに一年おくれの五十三年二月二十六日、全国の協会長、理事長に宮城は教職開催を控え委員長も加わり東京へ……。

出版を決めたのは五十二年七月三日（七ヶ浜）中村理事長、荘司、蒔田、植野、佐藤（健）渡部、湯村、古橋、木村の各氏を委員に、写真など取材に中村五郎・順父子、不宵の十一名に決め、帰途は古橋氏の車に木戸先生（常盤木）が同乗、参考になるお話など耳に……。

この二日前に海外協会に浅野会長とお会いして①送稿先をこゝの会長宛に……会員の全てにふれていたゞく②事務費はフィルム、プリント、通信その他一切で10万円にする（出納帳、受領証は背中の棚に……オーバーせず③出版・発行記念の会合で、不宵に絶対に表彰状を含む全ての記念品などを授与しない!!。

浅野会長はこの場での押し問答をさけ、あの湯顔で……ハイ、ハイ……そう致しましょう。このことは七ヶ浜での初会合のはじめに約束を……新聞社を定年卒業したオイボレの得手、勝手に、中村理事長がナニオッ!! そのキッとした顔が今なつかしく思いうかべて……。

できるだけ毎日、海外協会に寄り、会長のサインした原稿を受取る……もう〆切ってもいゝ、秋の陽ざしの強い十月中旬。

「きょうは原稿なし。じっくり話をしたい」でソファに……不宵の左にピッタリの会長が右手が、腰を強く押え「これだけのものを理事長と話し合って決めた!! どんなことをしても贈り、受取ってほしい!!」。

全身の力が抜け、フンワリ会長に身をまかせるよう心も同じ？ 言葉や文字で表現できない嬉しさ……しかし前言は絶対に守るよう



……、これは新聞人でボヤ、交通事故そのほか新聞ダネになったときの「のせない粋」他紙に出たら責任を……おかげで守れました。

全国の会長・理事長会議の前日、一千部発行のうち、製本屋の前から東北大気堂の菅原氏も同乗、パン・パンと固い、めくるとピリッと音のする「30周年」各県協会に各二部、日バに、寄贈者への分などふくめ約二百部。

中村理事長指定のホテルに午後七時。おまちかねの会長に一部（全部の原稿を通読されても……）部屋はどちらもイビキがどうとかで会長と同じ（東北大会・石巻でも）。

この夜だけは会長は全く眠らず、ベット上で30余年の歴史に身も心も任せられ……。

翌日の会場受付に不宵だけ、会長、理事長、委員長は会議場。大田区の菅原幸雄理事長（築館町出）つゞいて三菱自動車正木繁次室長（東北大出）が……東北五県の顔なじみが握手を……村山幸雄事務局長が本部に20部……。

日記を見なくとも、旧くなったミソでも、鉛筆をもつ右手をかるく早く操作し、本人がもうこの辺での願いも……。

一七年九月ころの履物は地下足袋か人造皮革の短ぐつ。鉱山監督局の口の字型中庭は普通の土で雨になると泥田と同じ。昼休みに、しようもない局員が、バレーのネットに対しての打ち合い。小使さんが休み終了近くになると東（玄関）南（通用門）に立って履物の汚



県協会の創立は23年6月。千葉竜理事長は本格的な体育館のある尚絅に押しかけ、体育主任の平井二作先生にゴリ押し「練習を見て先生と生徒がやりたい……見てくれるなら……」室内での基本打ちに大満足……断れない状態。

48年1月下旬に、TBCジャーナル記者として尚絅女学院平井二作校長と対面「人あんぐる」に登場してもらった。表題は2センチ角でカッパ先生。この体育館での練習がなかったら別の競技を広く、うわっつらだけを……。

あと、さきになったが同じ「人あんぐる」に登場していただく。県住宅課長から県議20年、カヲル夫人が交通事故で倒れ、県議を辞退、後援会の要望を断呼ふり切って引退を表明。みだしは「この笑顔」生れた（明治三十八年七月）刈田郡七ヶ宿の家も、ホトケもダムのため水没。夫人は病院通い、しかし暗い、さびしい表情は少しもうかがわれない。

その笑顔は人間浅野を、かくすところもなく表現している。

いつも、もうソロソロと思いながらつい生き恥をさらし、尚絅の二瓶先生が「オイボレのベンリ屋」のブツブツを活字にして下さった。これは浅野会長、平井先生、早坂高検事務局長に口すっぱく云われた「相互信頼」を

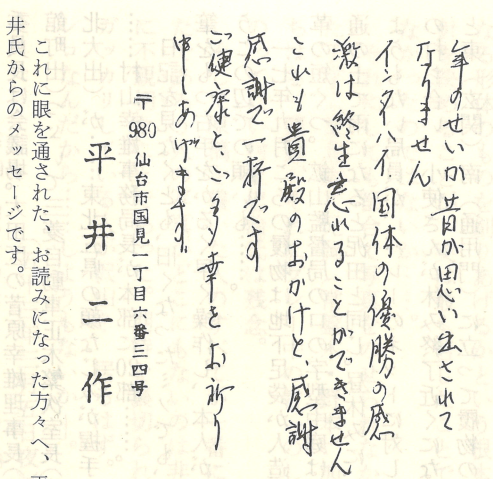
れに注目!!。

羽根・ラケットを借りて県庁、市役所担当の記者、写真部員は三越北（現在141）一番丁と二番丁の通路角、喫茶〝きのえね〟を溜り場に、庭球のほか南方で羽根うちもしたヒゲの竜さんが指南役で、当時の一番丁は拡張されず、休日の三越前で堂々と。昼食をすました県庁、市役所の職員が「打たして下さい……。」敗戦を間近に好奇心と競争心をあふった。



10年前の最後は昨日だった、50年後の県・市協会の後輩に、會田高陽氏、平井二作先生のよう、いつか、ふと思い出すようなメッセージを贈れるようになりたい……。

（〒981　仙台市柏木1丁目8―18）



年のせいか昔が思い出されてなりません
インターハイ団体の優勝の感激は終生忘れることができません
こんな貴殿のおかげと、感謝感謝で一杯です
ご健康とご多幸をお祈り申しあげます。

これに眼を通された、お読みになった方々へ、平井氏からのメッセージです。

〒980　仙台市国見一丁目六番三四号

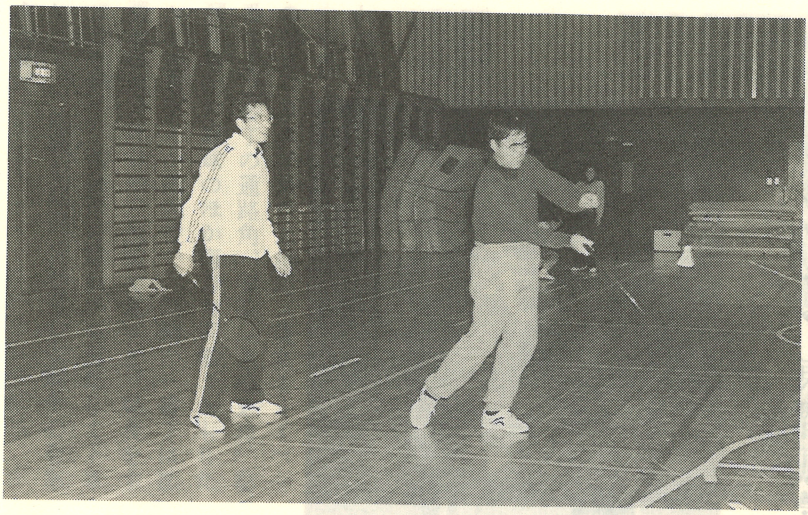
平井二作

写真特集

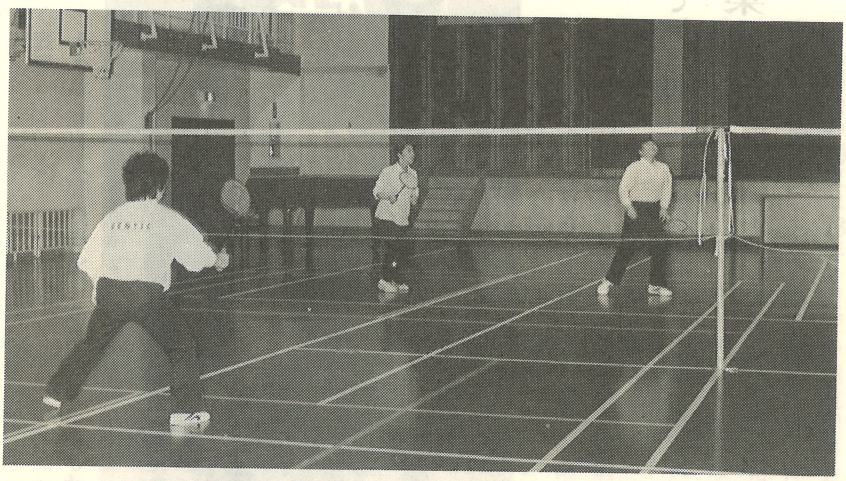


◇クラブ練習風景
◇仙台市協会行事その他
◇30周年記念写真集

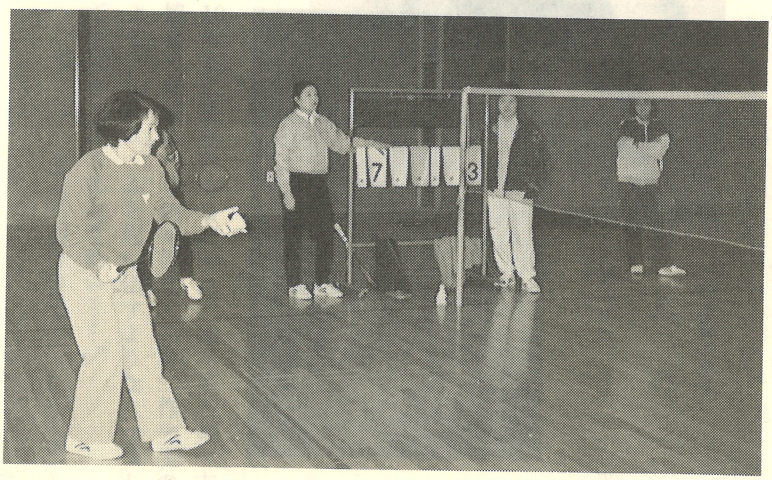
クラブ



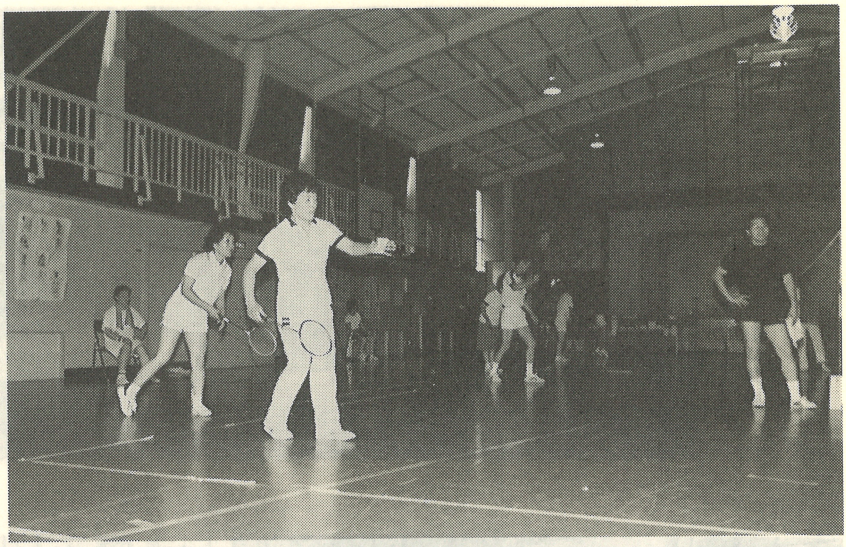
◇サーブがポイント!!
（片平体協）



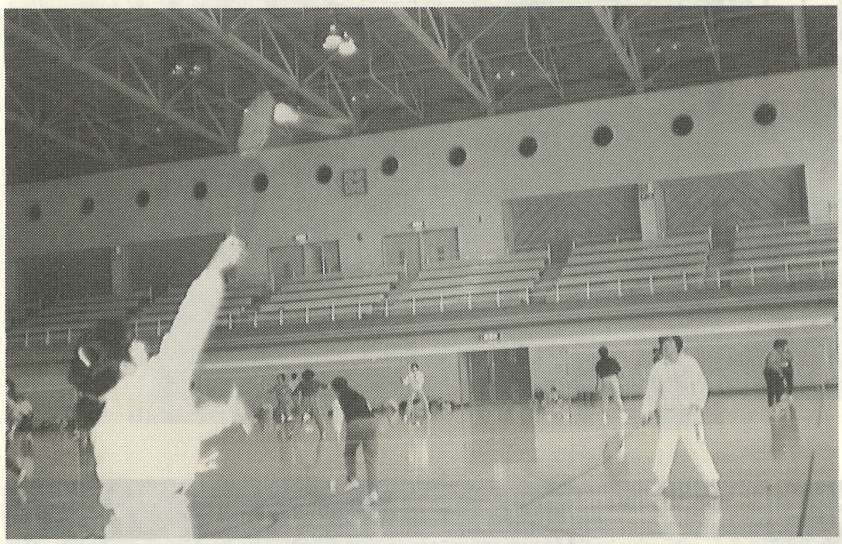
◇いつも〝優勝〟めざし……
（西多賀クラブ）



◇7―3勝つんだ!!
（福沢センター）



◇サーブは慎重よ!!
（太白体協）



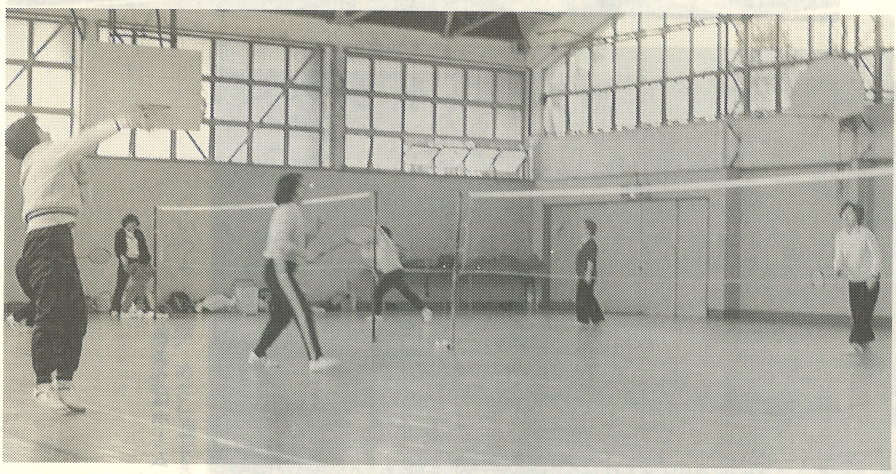
◇きょうはホームコートで
（勤労者体育館）



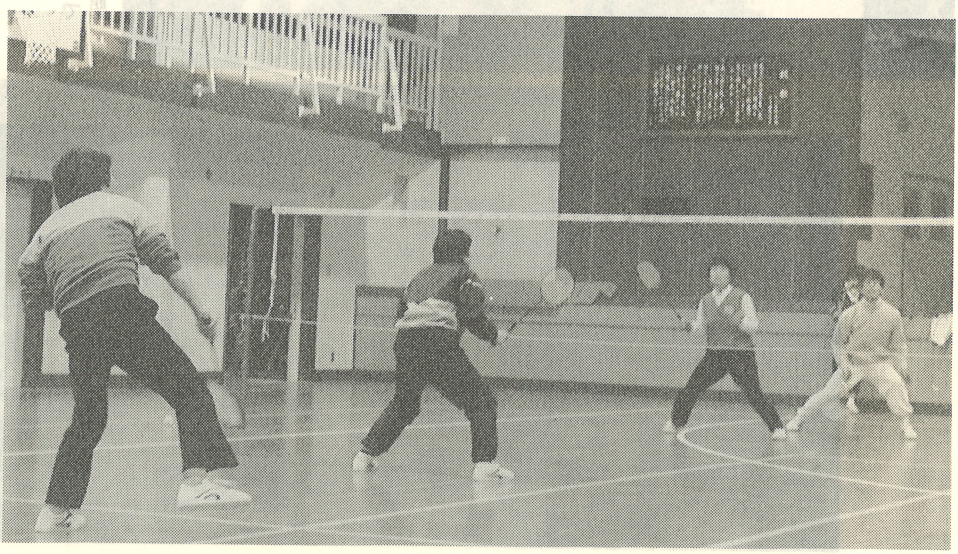
◇仲間の輪をひろげたい
（向山学区体育館）



◇コートをあけるな!!
（国見体協）



◇頑張らなくちゃー
（長町同好会）

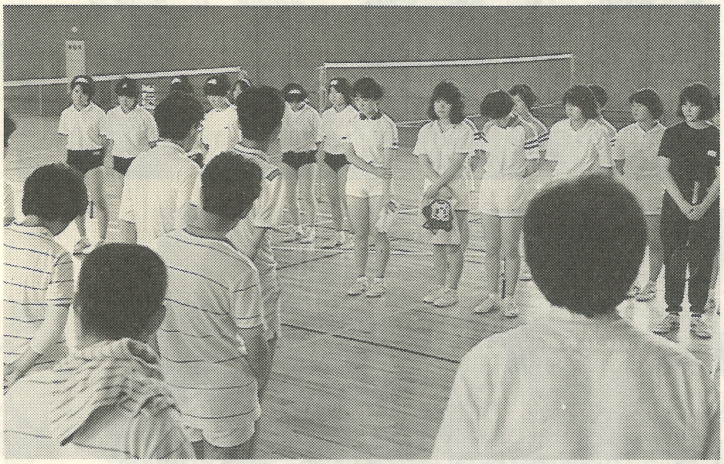


◇男女の別なく……
（幸町クラブ）

市協会



◇東北大会バド（宮城県勢）



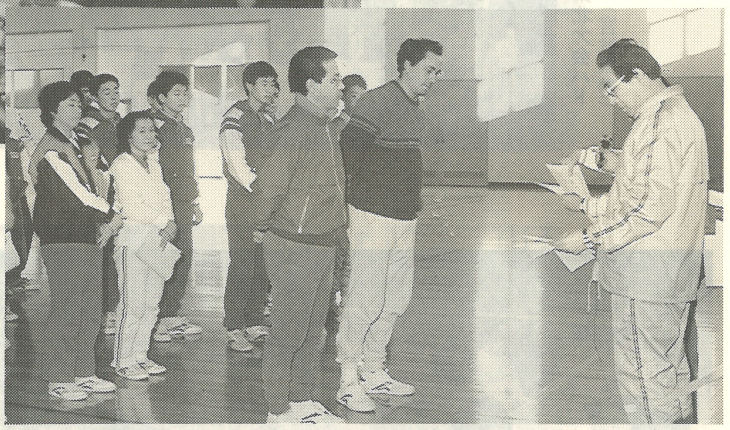
◇大田区会員から練習の反省をきく尚綱女部員



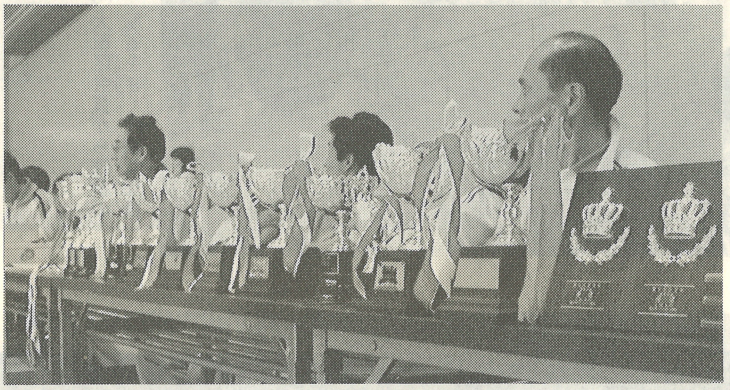
◇第一回NTT杯入賞おめでおう（仙台市体育館）



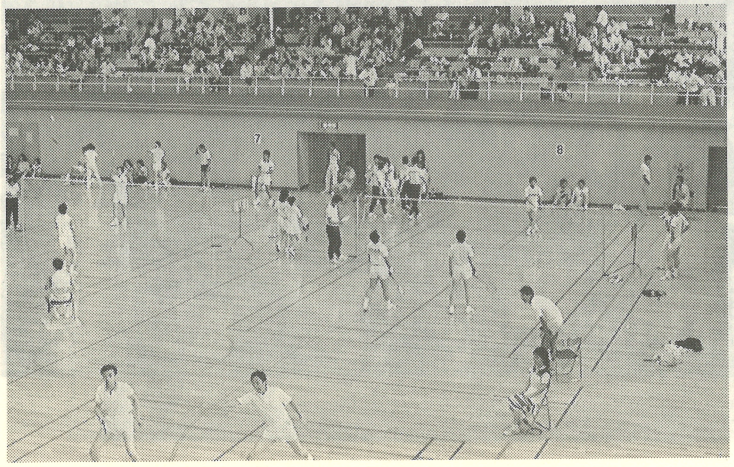
◇〝彌栄え〟の笹氣会長
（S62・1・29）



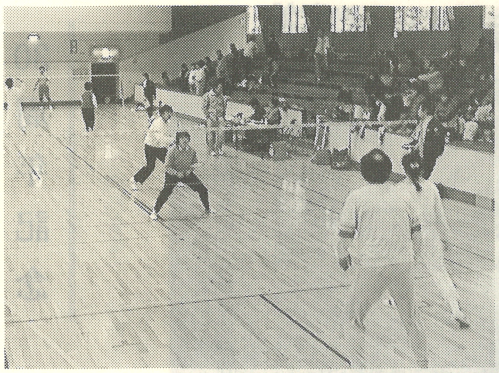
◇成績を発表する
菅原理事長
（勤労者体育館）



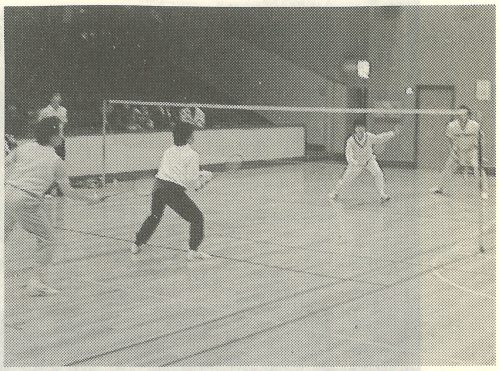
◇ことしの目標？並んだ荘司杯
（レジャーセンター）



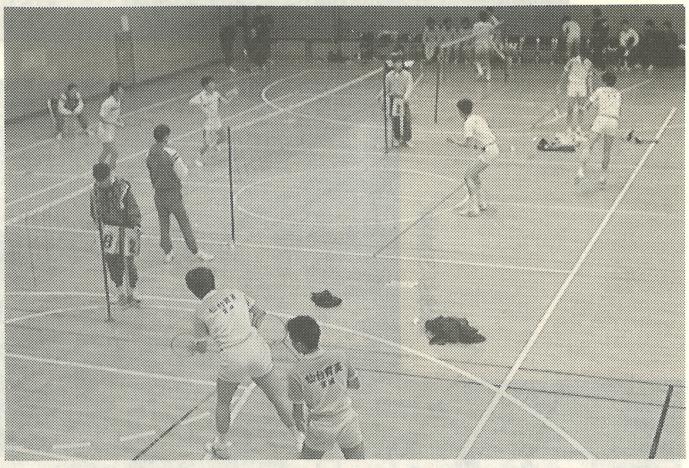
◇第6回荘司杯
（勤労者体育館）



◇ミックス大会B



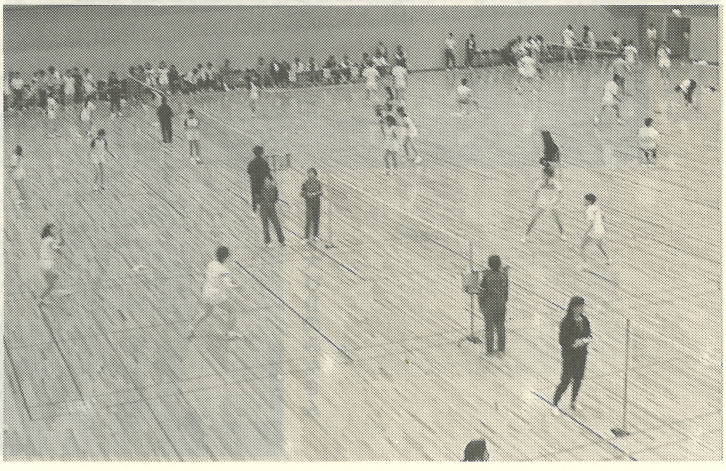
◇仙台市ミックス大会A
（レジャーセンター）



◇高校学年別
（仙台商）



◇'87高校新人予選
選手を見守る各監督
（勤労者体育館）



◇仙台市高校新人
（仙台市体育館）

30周年記念



◇創立30周年祝辞の高橋辛六郎氏（伯養軒）



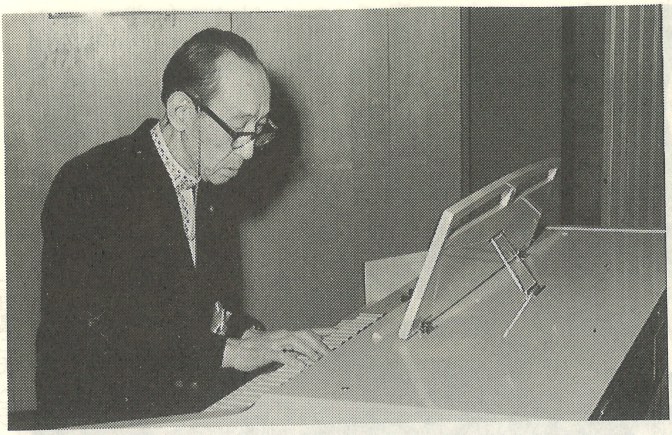
◇受賞の功労者



◇歓談するみなさん



◇東北大ＯＢのみなさん



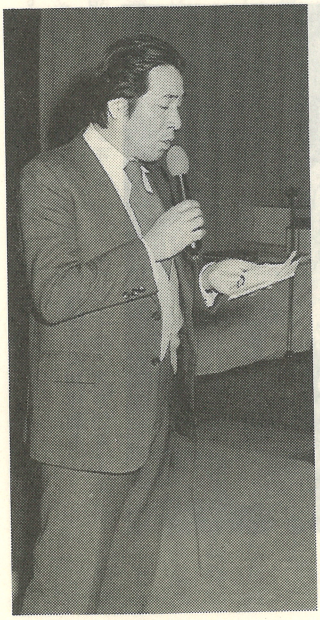
◇特別演奏の常盤木学園
松良宜三校長



◇東北学院大のつわものたち



◇全国優勝で受賞する
尚絅ＯＧたち



◇うたう菅原保さん



◇浅野会長から表彰をうける
中林五郎氏（右）
上田昌二氏（左）



◇うたう奈良坂孝さん



◇会場いっぱい!!
よろこびの会員



◇古橋さん10年前も
大きげん……

〔編集後記〕

菅原保理事長が書かれているように、笹氣会長をはじめ役員、会員数は五千名を超える仙台市バトミントン協会の素晴しい組織力を改めて認識させられました。

荘司達治さんのいう底辺拡大がベテランからジュニアまで……社会人、実業団、教職員に加え家庭婦人など強力な組織と日毎の精進ぶりは寄せられた原稿から溢れるばかり……。

学区など四十に近いグループの皆さんが、家庭をしっかりと守り、他のアレ、コレ、の多忙を都合しての原稿ばかりか、構図のむずかしい練習風景の撮影、2—3枚の注文も心よく応じられ、それを原稿、写真を各クラブ毎に乱雑にならないよう、しっかりとクリップして届けて下さった井上薫副会長。さすが永年にわたる理事長の貫禄に深く頭をさげ、種々の都合で特集にまとめで、ご期待にそむきゴメンナサイ。

笹氣会長が「40周年史発刊」あいさつの他に、知る人もなかったと思われる、当時その名を聞いたゞけで泣く子も黙ると云われたマッカーサー元帥に「トロフィー」のおねだりをしていたことに驚天〝さすが……会長〟また〝おやじ会長〟と親しみ、伊沢、常松会長につぐ三代目、浅野喜代治会長が、カヲル夫人と共に思い出を、揃っての写真使用にも〝いつものあの笑顔で〟どうぞ……これで自慢がふえる—深く頭をさげます。

県・市協会の「元老」格の蒔田修氏の口ぐせは県・市協会は〝双生児誕生〟が決定的。原稿を寄せられた皆さんは、全く県・市にこだわらず、特に県協会真壁幹雄理事長を社会人から推した大岡英相会長と40年間にわたる数多い役員、選手の過去、現在、将来の動向についての対談…つい蒔田氏の持論を……。

10年前に学生を代表して正木繁次氏（東北大）が、筆無精…いま燃える!!を…40年史には、またとないライバルだった水谷政雄氏が〝古き顔〟詩情ゆたか（アレッ!!このような詩情を?:）こちらもついカメラに情感をこめ、つわものどもの城、東北大中央体育館を訪問。シャッターを。

加えて瀬戸寅男氏が、正木、水谷、千葉茂選手の監督で第6回国体（二十六年、広島）に、男はだまって勝負する。1—1の決を、いつどんな時でも笑顔で、得意の巧打で…監督と選手が40年史に登場、ご両人には予告しなかったことを、こゝで深謝…。

家庭婦人がバスケ、バレー、卓球にバドなどに進出、スポーツセンターでバドの指導に功績を残した奈良坂孝氏のすばらしい回顧録は、どうにか収録できたが、詳細な手引き書は残念ながら目をつぶらして頂きました。

読まれているうちに「バドキチ」とか「バド狂（キチ）」の文字が多いのに気付かれたことでしょう。40年も前から正しい解釈を聞かれ、その都度、片假名でない、神社その他での運勢占い（くじ）その中の吉だけとって、バドをやる人は大いにヨシ。バドキチを研究してた某教授に説明したところ、それなら大いにやる!!凶を吉にした喜びは格別なもの…。

総会（松屋）のとき菅原理事長の記念史発行の編集を不肖に拍手で決めてもらい、以来仙台商職員室に時、所、声を講わず、わが事務所のつもり。もうおそい!!それでも…大変失礼!!職員のみなさまによろしく。

中村、荘司、早坂、特に平井さんに「気を大きく赦してやれ!!」10年前（福祉大）での国際大会前後から、きびしく見つめ、この40年史発行前に浅野、笹氣、大岡、真壁各氏にこれからは優しく笑顔で見守ることの了解をいたゞき、菅原理事長も「よかった、よかった」本人に代って低頭。これで重かった肩の荷を完全にポイ……させていただきます。

「40年史」発行に印刷担当のチーフとなられた笹氣信三氏とそのスタッフに数えきれない勝手、気まゝ。すでに時期おくれを知りながら「有難うございます。生涯の思い出にさせて下さい。」最後に蒔田修、會田高陽、菅原幸雄氏の叱咤、激励でここまで「バド大キチ」三拝、九拝しながら瞑目、合掌—（M・S）

仙台市バドミントン協会
創立40周年記念

翔んで…40年
21世紀へHi-Ciao!

【非売品】

編集者　佐藤正雄
発行者　菅原保
〒980　仙台市米ヶ袋2－1－42）
発行所　仙台市バドミントン協会
〒980　仙台市支倉町1－11（笹氣方）
印刷所　笹氣出版印刷株式会社
〒983　仙台市六丁の目西町8－45

発行　昭和六十三年十月三十一日